

令和 6 年度

シラバス

授業内容

学校法人 戸早学園

北九州リハビリテーション学院

教育理念

北九州リハビリテーション学院は理学療法士および作業療法士として必要な知識と技術を授け、あわせて人格の陶冶に努め、保健・医療・福祉の専門性を有する人材を育成することを目的とし、教育理念とする。

校 是

人を支える心を学ぶ

校 訓

聞こえない声を聴く耳
見えないものをみる目
優しさの伝わる温かい手

カリキュラムポリシー（教育課程の方針）

1. まず科学的思考の基礎として、過去に修得した知識を再学習することから始め、客観的、論理的にデータを分析する思考を身に着ける。また人間と生活を通して尊厳ある自立とその暮らしを学び、人を支える心を育成する。
2. 次に専門分野の基礎いわゆるリハビリテーションを志す学生にとって根幹となる人体の健康と機能および心身の発達を解剖学、生理学、運動学を通して学ぶ。合わせて疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進、加えて保健医療福祉とリハビリテーションの理念を習得する。

《理学療法学科》

3. 専門分野として、基礎理学療法学、理学療法管理学、理学療法評価学、理学療法治療学、地域理学療法学を学ぶ。そして授業、演習、学生相互の実習などを通して学内で学んだ知識と技術および態度を臨床実習で実践的に経験することで対象者の状態を把握するとともに理学療法士としての心構えを習得する。

《作業療法学科》

3. 専門分野として、基礎作業療法学、作業療法管理学、作業療法評価学、作業療法治療学、地域作業療法学を学ぶ。そして学内で修得した知識や技術および態度と対象者の援助や生活支援の見学・体験を経験した上で臨床実習に臨み総合的理解および実践力を高める。さらに臨床実習を通して今後の進むべき方向を明確にする。

ディプロマポリシー（卒業認定の方針）

1. 各学年を通して多面的にカリキュラムを履修し基礎的な知識・技術を養うとともにリハビリテーションの担い手として、国家試験に合格しうる学習能力を身につける。
2. 在学期間中の講義、演習、実習での学び、特に臨床実習、卒業研究を通して論理的思考力、問題解決力、コミュニケーション能力など総合的に身につける。
3. 自らを律する人間性を常に養い、人を支える姿勢、利他的な意識を持ち、義務と権利を適切に行使し保健医療福祉の発展に寄与できる。

目次

理学療法学科 1年

基礎分野

| | | |
|--------|-------|---|
| 心理学 | ----- | 1 |
| 生命倫理学 | ----- | 2 |
| 教育学 | ----- | 3 |
| 人間関係論 | ----- | 4 |
| 臨床医学入門 | ----- | 5 |
| 基礎医療統計 | ----- | 6 |
| 基礎理科 | ----- | 7 |
| 基礎講座 | ----- | 8 |
| 英語 | ----- | 9 |

専門基礎分野

| | | |
|-------------|-------|----|
| 解剖学 I | ----- | 10 |
| 解剖学 II | ----- | 11 |
| 生理学 I | ----- | 12 |
| 生理学 II | ----- | 13 |
| 生理学実習 | ----- | 14 |
| 運動学 I | ----- | 15 |
| 運動学 II | ----- | 16 |
| 体表解剖学 I | ----- | 17 |
| 体表解剖学 II | ----- | 18 |
| 臨床心理学 | ----- | 19 |
| 病理学概論 | ----- | 20 |
| 機能障害学 | ----- | 21 |
| 整形外科学 | ----- | 22 |
| 内科学 | ----- | 23 |
| 精神医学 I | ----- | 24 |
| 健康科学 | ----- | 25 |
| リハビリテーション概論 | ----- | 26 |
| リハビリテーション演習 | ----- | 27 |

専門分野

| | | |
|------------|-------|----|
| 理学療法概論 | ----- | 28 |
| 理学療法評価学 I | ----- | 29 |
| 理学療法評価学 II | ----- | 30 |

理学療法学科 2年

専門基礎分野

| | | |
|-------------|-------|----|
| 解剖学実習 | ----- | 31 |
| 動作分析学Ⅰ | ----- | 32 |
| 小児科学 | ----- | 33 |
| 神経内科学 | ----- | 34 |
| 脳神経学 | ----- | 35 |
| リハビリテーション工学 | ----- | 36 |

専門分野

| | | |
|-------------|-------|----|
| 理学療法管理学 | ----- | 37 |
| 動作分析学Ⅱ | ----- | 38 |
| 動作分析学Ⅲ | ----- | 39 |
| 運動療法Ⅰ | ----- | 40 |
| 運動療法Ⅱ | ----- | 41 |
| 物理療法 | ----- | 42 |
| 義肢装具学 | ----- | 43 |
| 整形外科理学療法Ⅰ | ----- | 44 |
| 整形外科理学療法Ⅱ | ----- | 45 |
| 中枢神経障害理学療法Ⅰ | ----- | 46 |
| 中枢神経障害理学療法Ⅱ | ----- | 47 |
| 神経・筋障害理学療法 | ----- | 48 |
| 発達障害理学療法 | ----- | 49 |
| 内部疾患理学療法Ⅰ | ----- | 50 |
| 内部疾患理学療法Ⅱ | ----- | 51 |
| 高齢者理学療法学 | ----- | 52 |
| スポーツ理学療法 | ----- | 53 |
| 日常生活活動Ⅰ | ----- | 54 |
| 日常生活活動Ⅱ | ----- | 55 |
| 地域理学療法学 | ----- | 56 |
| 地域理学療法実習 | ----- | 57 |

理学療法学科 3年

専門分野

| | | |
|----------|-------|----|
| 理学療法研究入門 | ----- | 58 |
| 理学療法卒業演習 | ----- | 59 |
| 臨床実習 | ----- | 60 |

作業療法学科 1年

基礎分野

| | | |
|----------|-------|----|
| 心理学 | ----- | 61 |
| 生命倫理学 | ----- | 62 |
| 教育学 | ----- | 63 |
| 人間関係論 | ----- | 64 |
| 基礎医学用語 | ----- | 65 |
| 基礎医療統計 | ----- | 66 |
| 対人交流技能 I | ----- | 67 |
| 英語 | ----- | 68 |

専門基礎分野

| | | |
|-------------|-------|----|
| 解剖学 I | ----- | 69 |
| 解剖学 II | ----- | 70 |
| 生理学 I | ----- | 71 |
| 生理学 II | ----- | 72 |
| 生理学実習 | ----- | 73 |
| 運動学 I | ----- | 74 |
| 運動学 II | ----- | 75 |
| 臨床心理学 | ----- | 76 |
| 病理学概論 | ----- | 77 |
| 整形外科 | ----- | 78 |
| 内科学 | ----- | 79 |
| 精神医学 I | ----- | 80 |
| リハビリテーション概論 | ----- | 81 |
| 障害と福祉 | ----- | 82 |

専門分野

| | | |
|-------------|-------|----|
| 作業療法概論 | ----- | 83 |
| 基礎作業学理論 | ----- | 84 |
| 作業療法基礎演習 I | ----- | 85 |
| 作業療法基礎演習 II | ----- | 86 |
| 臨床実習指導 I | ----- | 87 |
| 作業療法評価法総論 | ----- | 88 |
| 作業療法基礎評価法 | ----- | 89 |
| 作業療法評価法身体領域 | ----- | 90 |
| 作業療法評価法精神領域 | ----- | 91 |
| 作業療法評価法発達領域 | ----- | 92 |
| 基礎作業学技術 I | ----- | 93 |
| 基礎作業学技術 II | ----- | 94 |
| 臨床見学実習 | ----- | 95 |

作業療法学科 2年

基礎分野

| | | |
|---------------|-------|-----|
| 対人交流技能Ⅱ | ----- | 96 |
| 専門基礎分野 | | |
| 解剖学実習 | ----- | 97 |
| 健康生活と運動 | ----- | 98 |
| 小児科学 | ----- | 99 |
| 神経内科学 | ----- | 100 |
| 脳神経学 | ----- | 101 |
| 精神医学Ⅱ | ----- | 102 |
| 専門分野 | | |
| ひとと作業療法 | ----- | 103 |
| 作業療法基礎演習Ⅲ | ----- | 104 |
| 作業療法基礎演習Ⅳ | ----- | 105 |
| 臨床実習指導Ⅱ | ----- | 106 |
| 臨床実習指導Ⅲ | ----- | 107 |
| 作業療法管理学 | ----- | 108 |
| 動作分析学 | ----- | 109 |
| 作業療法身体領域Ⅰ | ----- | 110 |
| 作業療法身体領域Ⅱ | ----- | 111 |
| 作業療法精神領域Ⅰ | ----- | 112 |
| 作業療法精神領域Ⅱ | ----- | 113 |
| 作業療法発達領域Ⅰ | ----- | 114 |
| 作業療法発達領域Ⅱ | ----- | 115 |
| 作業療法高次脳機能領域 | ----- | 116 |
| 作業療法高齢期領域Ⅰ | ----- | 117 |
| 作業療法高齢期領域Ⅱ | ----- | 118 |
| 作業療法治療学演習Ⅰ | ----- | 119 |
| 作業療法治療学演習Ⅱ | ----- | 120 |
| 義肢装具学 | ----- | 121 |
| 義肢装具学演習 | ----- | 122 |
| 基礎作業学技術Ⅲ | ----- | 123 |
| 基礎作業学技術Ⅳ | ----- | 124 |
| 職業関連活動 | ----- | 125 |
| 地域作業療法学 | ----- | 126 |
| 日常生活活動 | ----- | 127 |
| 生活環境学 | ----- | 128 |
| 地域作業療法実習 | ----- | 129 |

作業療法学科 3年

専門分野

| | | |
|----------|-------|-----|
| 作業療法総合演習 | ----- | 130 |
| 臨床実習指導Ⅳ | ----- | 131 |
| 臨床実習 | ----- | 132 |

理学療法学科

| | | | |
|----------|---|--------|------------|
| 授業科目 | 心理学 | 科目担当者 | 新開 佳子 |
| 学年 | 1 年 | 学期/時間数 | 前期 / 30 時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2 単位 |
| 授業の概要と方法 | 心理学は、実体のない「こころ」をできるだけ客観的に捉え、さまざまな心理現象の生起や変化を理解するための理論である。本講義では、「こころ」を構成するさまざまな心理現象についての理解を深め、基本的な「こころ」の仕組みを学ぶことを目的とする。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①生活の中にある心理学のエッセンスについて理解する ②講義及びディスカッションなどを通し、多面的に物事を見られるようになる | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第 1 回 | オリエンテーション 心理学とは |
| 第 2 回 | こころの源…感覚 |
| 第 3 回 | 覚える、忘れる…記憶 |
| 第 4 回 | こころの働き…感情 |
| 第 5 回 | わかる、考える…知識と問題解決 |
| 第 6 回 | 決める…意思決定 |
| 第 7 回 | こころの発達①…心の理論、社会的発達論 |
| 第 8 回 | こころの発達②…エリクソンの発達理論、アイデンティティ |
| 第 9 回 | パーソナリティ |
| 第 10 回 | モチベーション |
| 第 11 回 | 自己 |
| 第 12 回 | 対人コミュニケーション |
| 第 13 回 | 集団間の関係 |
| 第 14 回 | ソーシャルネットワーク |
| 第 15 回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）70% 提出物（授業の振り返りを文章化することで理解度を確認）30% |
| 準備学習 | さまざまな心理現象に関する学びを深めるために、ワークやディスカッションを行います。それには、感じたことを素直に言葉にするという心構えが必要です。 |
| 事後学習 | 授業前に前回の振り返りの質問をしますので、授業資料を再確認してください。 |
| 教科書 | 担当が準備する資料 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 講義終了後 15 分間 メールアドレス : kita-reha@tohaya.ac.jp (学院窓口) |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 生命倫理学 | 科目担当者 | 野見山 待子 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>本講義では、現実の生命倫理の諸問題の事例を知り、思想的知識を学ぶことによって、それらの諸問題を自分自身の問題として引き受け、生命にかかわるときの人間の行為のあり方を考察する。その考察を通して、医療従事者としての倫理観を身につける。その際、授業中の質問に個人が回答したあと、複数やクラスで議論し考察を深める。また、授業で学んだ概念を使って現実の諸問題をどう考えるかをミニレポートで論述することで理解度を確認する。</p> <p>アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他(シンク・ペア・シェア)</p> | | |
| 到達目標 | <p>①生命倫理学で扱われる基本概念を理解し、それを自分の言葉で説明することができる。</p> <p>②生命倫理に関わる諸問題を、講義で習得した知識を基に考察することができる。</p> <p>③現実の医療現場や社会で遭遇する諸問題を倫理的に考察し、主体的に判断・行動することができる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | 生命倫理学の誕生と歴史について理解する。 |
| 第2回 | 中絶は許されるのか考える。 |
| 第3回 | 功利主義の議論を理解する。 |
| 第4回 | 出生前診断について考える。 |
| 第5回 | 臓器移植は許されるのか考える。 |
| 第6回 | 路面電車問題で考える。 |
| 第7回 | ジョン・ハリスの『サバイバル・ロッタリー』を理解する。 |
| 第8回 | カント倫理学を理解する。 |
| 第9回 | カント倫理学と功利主義を理解する。 |
| 第10回 | 安楽死は許されるのか考える。 |
| 第11回 | 自己決定権について理解する。 |
| 第12回 | インフォームド・コンセントについて理解する。 |
| 第13回 | 代理決定について考える。 |
| 第14回 | 高齢者の尊厳について考える。 |
| 第15回 | 互惠性の原理と自由の原理について理解する。 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験(筆記) 60%、ミニレポートの内容 40% |
| 準備学習 | 第1回生命倫理とはどのようなものなのか調べておく。第2回以降、前回の授業内容の確認。 |
| 事後学習 | 自筆の講義ノートを作り上げる。 |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 |
| 参考書 | 新名隆志・林大悟 編：「エシック・センスー倫理学の目を開けー」ナカニシヤ出版 |
| オフィスアワー | 授業前後、授業実施教室、講師控室(15分間) メールアドレス：kita-reha@tohaya.ac.jp(学院窓口) |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 人間関係論 | 科目担当者 | 野見山 待子 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>授業の概要：本講義では、グループディスカッションや演習を取り入れた講義を展開しながら「人間存在と人間関係」の基礎的理論を学習し、「人間関係向上への知識とスキル」を習得する。自己および他者の理解を深め、円滑な人間関係を構築する知識とスキルを学ぶことで、医療従事者になるための土台をつくる。</p> <p>授業の方法：グループディスカッションや演習を取り入れながら講義を展開する。また、グループディスカッションや演習を通じて得た知識や気づきを使って、現実の人間関係の諸問題をどう考えるかをミニレポートで毎回論述し、翌週フィードバックを行うことで知識の定着と理解度の確認をする。</p> <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>①グループディスカッションや演習、講義を通して、人間存在と人間関係のあり方を理解し、その理解を自分の言葉で説明することができる。</p> <p>②グループディスカッションや演習、講義を通じて習得した知識を使って、人間関係の諸問題について考察することができる。</p> <p>③グループディスカッションや演習、講義を通して、望ましい人間関係について考え、他者理解の技法や葛藤対処法を学び、実際の人間関係や将来の医療現場において応用することができる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | 人間存在を理解する：自己および他者の存在について理解する。 |
| 第2回 | 自己を理解する：「自己知」による人間的成長について理解する。 |
| 第3回 | 自己と他者を理解する①：「価値観」について理解する。 |
| 第4回 | 自己と他者を理解する②：「思い込み」の原理について理解する。 |
| 第5回 | 自己と他者を理解する③：ミス・コミュニケーションの原因について理解する |
| 第6回 | 人間関係の構築を考える①：自分の話し方・きき方を見直す。 |
| 第7回 | 人間関係の構築を考える②：相手中心の話し方・きき方について理解する。 |
| 第8回 | 人間関係の構築を考える③：非言語コミュニケーションについて理解する。 |
| 第9回 | 人間関係の構築を考える④：感情的になることと感情をおもてに表すことの違いを理解する。 |
| 第10回 | 人間関係の構築を考える⑤：感情の真の原因と感情の奴隷について理解する。 |
| 第11回 | 人間関係の構築を考える⑥：共感について理解する。 |
| 第12回 | 人間関係の構築を考える⑦：葛藤とどのように付き合うかを考える。 |
| 第13回 | 集団について考える①：「協働」について理解する。 |
| 第14回 | 集団について考える②：フリーライダーについて理解する。 |
| 第15回 | 集団について考える③：違いを超え、多様を受容することについて理解する |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）60%、ミニレポートの内容40% |
| 準備学習 | 第1回自身の人間関係について振り返っておく。第2回以降、前回の授業内容の確認。 |
| 事後学習 | 自筆の講義ノートを作り上げる。 |
| 教科書 | 指定なし |
| 参考書 | 岡堂 哲雄 編：「人間関係論入門」金子書房、エドワード・ホール「かくれた次元」みすず書房 |
| オフィスアワー | 授業前後、授業実施教室、講師控室（15分間） メールアドレス：kita-reha@tohaya.ac.jp（学院窓口） |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 臨床医学入門 | 科目担当者 | 竹本 美咲 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>本演習では、基礎となる解剖学・生理学・運動学に重点をおき、これからの理学療法の実践的な講義や国家試験対策に繋げていく。基礎講座と平行してすすめ、全講義グループディスカッションにて人体における構造や機能の理解を深めていく。また、広く臨床医学を学ぶ上で医療職として重要な一次救急救命についても演習を通じてその概略を学ぶ。</p> <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | 各部位の構造や機能について理解し、模型などを使用して主体的に学ぶことができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|---|
| 第1回 | ① 骨の構造と機能（グループディスカッション） |
| 第2回 | ② 関節の構造と機能（グループディスカッション） |
| 第3回 | ③ 上下肢の筋の名称（グループディスカッション） |
| 第4回 | ①～③まとめ（小テスト含む）（グループディスカッション） |
| 第5回 | ④ 循環器の構造と機能（グループディスカッション） |
| 第6回 | ⑤ 呼吸器・消化器の構造と機能（グループディスカッション） |
| 第7回 | ⑥ 腎・泌尿器の構造と機能（グループディスカッション） |
| 第8回 | ④～⑥まとめ（小テスト含む）（グループディスカッション） |
| 第9回 | ⑦ 内分泌・代謝の構造と機能（グループディスカッション） |
| 第10回 | ⑧ 中枢神経の構造と機能（グループディスカッション） |
| 第11回 | ⑨ 末梢神経の構造と機能（グループディスカッション） |
| 第12回 | ⑦～⑨まとめ（小テスト含む）（グループディスカッション） |
| 第13回 | 一次救命処置 |
| 第14回 | 一次救命処置（実技演習） |
| 第15回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）60%、小テスト40% |
| 準備学習 | 事前に教科書に目を通し、内容を確認しておいてください。 |
| 事後学習 | 計3回の小テストを行います。復習を徹底してください。 |
| 教科書 | 医療情報科学研究所 編：「からだが見える 第1版 人体の構造と機能」MEDIC MEDIA |
| 参考書 | 配布資料 |
| オフィスアワー | 金曜日の16：10～17：30、職員室 メールアドレス：takemoto@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 基礎講座 | 科目担当者 | 竹本 美咲 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 医学系の学習は、日常あまり使用されない用語が多数あって馴染みにくいものである。そこで、理学療法分野においてよく使用される基礎医学用語や基礎となる解剖学・生理学・運動学に重点をおき、これからの理学療法の実践的な講義や国家試験対策に繋げていく。本演習は臨床医学入門と平行してすすめ、全講義グループディスカッション形式を取り入れながら医学用語を習得し、学習の基盤となる知識を学ぶ。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | 講義や臨床実習、国家試験等に対応するため、基盤となる医学用語の習得ができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | ① 骨に関する用語（グループディスカッション） |
| 第2回 | ② 関節に関する用語（グループディスカッション） |
| 第3回 | ③ 筋に関する用語（グループディスカッション） |
| 第4回 | ①～③まとめ（小テスト含む）（グループディスカッション） |
| 第5回 | ④ 循環器に関する用語（グループディスカッション） |
| 第6回 | ⑤ 呼吸器・消化器に関する用語（グループディスカッション） |
| 第7回 | ⑥ 腎・泌尿器に関する用語（グループディスカッション） |
| 第8回 | ④～⑥まとめ（小テスト含む）（グループディスカッション） |
| 第9回 | ⑦ 内分泌・代謝に関する用語（グループディスカッション） |
| 第10回 | ⑧ 中枢神経に関する用語（グループディスカッション） |
| 第11回 | ⑨ 末梢神経に関する用語（グループディスカッション） |
| 第12回 | ⑦～⑨まとめ（小テスト含む）（グループディスカッション） |
| 第13回 | 基礎医療用語（医療系全般）（グループディスカッション） |
| 第14回 | 基礎医療用語（理学療法関連）（グループディスカッション） |
| 第15回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）60%、小テスト40% |
| 準備学習 | 日頃からわからない単語や漢字には下線や印をつけ、調べておきましょう。 |
| 事後学習 | 計3回の小テストを行います。復習を徹底してください。 |
| 教科書 | 医療情報科学研究所 編：「からだが見える 第1版 人体の構造と機能」MEDIC MEDIA |
| 参考書 | 配布資料 |
| オフィスアワー | 金曜の16：10～17：30 職員室 メールアドレス：takemoto@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 英語 | 科目担当者 | 宮永 重良 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 高校の英語の授業のように単に英文を日本語に訳したり、文法的な論理性を追求するのではなく、そこから離れて一度英語という言語を色々な角度から光を当て、現在世界で果たす役割について考え、その特長を理解して欲しい。 (質問は自由) | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | 英語について、または英語を話す事に対する恐怖心を克服できる 英語に対する知識が増えて、多角的に英語について親しみを感じることができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | なぜ英語を学習するのか 英語の歴史 (演習) |
| 第2回 | 現代世界と英語が果たす役割 (演習) |
| 第3回 | 日本人と英語(なぜ日本人は英語が苦手か) (演習) |
| 第4回 | 日本の英語教育の中にある伝統的な誤り (演習) |
| 第5回 | 英語の発音とローマ字 (演習) |
| 第6回 | 英語のヴァリエーション(色々な英語) (演習) |
| 第7回 | 英語が世界に普及している理由は (演習) |
| 第8回 | 英語とそのルーツであるヨーロッパ語との関係 (演習) |
| 第9回 | 英語は世界で最も進化した言語である (演習) |
| 第10回 | 東洋と西洋の違い 英語と時制 (演習) |
| 第11回 | 日本語と英語の発音 母音と子音 (演習) |
| 第12回 | 動詞の活用 (演習) |
| 第13回 | 日常的に使われている不適切な訳語例 (演習) |
| 第14回 | 翻訳において 誤った具体例 (演習) |
| 第15回 | 「英語をしゃべる」という事について (演習) |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記) 100% |
| 準備学習 | 特になし |
| 事後学習 | 特になし |
| 教科書 | ノートで講義内容の記録をとるのが望ましい。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 授業後、制限なし、講師控室 メールアドレス: kita-reha@tohaya.ac.jp (学院窓口) |

| | | | |
|----------|---|--------|------------|
| 授業科目 | 解剖学 I | 科目担当者 | 小林 繁 |
| 学年 | 1 年 | 学期/時間数 | 前期 / 30 時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2 単位 |
| 授業の概要と方法 | 解剖学総論ならびに、筋学、骨学、靭帯学、循環器系を講義する。解剖学総論は人体の区分、人体を構成する細胞、組織、器官ならびに人体の発生、胎児期の血液循環を講義する、内臓学は器官系の配置、構造を機能との関連で講義する。リハビリテーション医学・医療を学ぶにあたり、特に運動器系の解剖学用語を習得する。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①身体の部位と位置関係を解剖学用語で説明できる。 ②内臓の存在場所、構造と機能を説明できる。 ③循環器系の構造と機能を説明できる。 ④骨の構造と機能、骨の形態、骨の連結と関節の構造と機能を説明できる。 ⑤筋の構造と機能を説明できる。 ⑥骨格筋の起始・停止・支配神経・機能を説明できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第 1 回 | 解剖学総論 (1) : 解剖学とは、人体の区分と解剖学用語を理解する。 |
| 第 2 回 | 解剖学総論 (2) : 人体の構成、人体を構成する細胞、組織、器官のはたらきを理解する。 |
| 第 3 回 | 骨学①骨学総論 : 骨の構造と機能、関節と靭帯・関節の構造と機能、靭帯の種類と役割を理解する。 |
| 第 4 回 | 骨学②頭蓋 : 頭蓋の構成、連結及び個々の骨を理解する。頭蓋腔と外部との交通を理解する。 |
| 第 5 回 | 骨学③体幹 : 脊柱・胸郭、骨盤とその連結、脊柱の加齢的变化、骨盤の性差を理解する。 |
| 第 6 回 | 骨学④上肢 : 上肢帯及び自由上肢骨に含まれる骨ならびに連結を理解する。 |
| 第 7 回 | 骨学⑤下肢 : 下肢帯及び骨盤、自由下肢骨に含まれる骨ならびに連結を理解する。 |
| 第 8 回 | 筋学①総論 : 筋の構造と役割を理解する。 |
| 第 9 回 | 筋学②上肢の筋① : 上肢帯・上腕の筋、筋の起始・停止とはたらき、支配神経を理解する。 |
| 第 10 回 | 筋学③上肢の筋② : 前腕・手の筋、筋の起始・停止とはたらき、支配神経を理解する。 |
| 第 11 回 | 筋学④下肢の筋① : 下肢帯・大腿の筋、筋の起始・停止とはたらき、支配神経を理解する。 |
| 第 12 回 | 筋学⑤下肢の筋② : 下腿・足の筋、筋の起始・停止とはたらき、支配神経を理解する。 |
| 第 13 回 | 筋学⑥顔面・体幹の筋 : 表情筋、頭頸部の筋、胸腹部の筋、固有背筋の起始・停止とはたらき、支配神経を理解する。 |
| 第 14 回 | 循環器系①血管の構造と役割、心臓の位置・構造・役割を理解する。 |
| 第 15 回 | 循環器系②動脈系、静脈系、リンパ系の経路とリンパ性器官の機能・役割を理解する。 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記) 80%、小テスト 20%にて総合評価する。 |
| 準備学習 | 授業前に教科書の範囲を熟読してくる。体表解剖学は自分自身の体を姿見で見て自己学習を行う。 |
| 事後学習 | 教科書、参考書ならびに配布プリントによる自己学習を行う。 |
| 教科書 | 野村 嵯 編 : 「標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学第 5 版」医学書院 |
| 参考書 | 加藤 征 監修 : 「Q シリーズ 新解剖学改訂第 6 版」日本医事新報社 |
| オフィスアワー | 講義終了後、講師控室 (15 分間) メールアドレス : kita-reha@tohaya.ac.jp (学院窓口) |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 解剖学Ⅱ | 科目担当者 | 中富 満城 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | リハビリテーション医学を学ぶ為には人体の正常な構造に関する正確な理解が必要不可欠となる。解剖学Ⅱでは消化器系、呼吸器系、泌尿器系、内分泌系、中枢神経系、末梢神経系、感覚器系、生殖器系、人体発生について学ぶ。プリントとスライドを用いて講義を行う。自己学習用に毎回小テストを出題し、次回の冒頭に答え合わせと解説を行う。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①内臓系を構成する器官の構造と機能について説明できる。 ②中枢神経系を構成する脳と脊髄の構造と機能について説明できる。 ③末梢神経系を構成する脳神経・脊髄神経・自律神経の走行と機能について説明できる。 ④上行性伝導路と下行性伝導路の分類と機能について説明できる。 ⑤人体発生の概要について説明できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | 内臓系①：消化器系を構成する器官の構造と機能について学ぶ。 |
| 第2回 | 内臓系②：呼吸器系を構成する器官の構造と機能について学ぶ。 |
| 第3回 | 内臓系③：泌尿器系を構成する器官の構造と機能について学ぶ。 |
| 第4回 | 内臓系④：内分泌系を構成する器官の構造と機能について学ぶ。 |
| 第5回 | 神経系総論：神経系の区分と構造、髄膜、脳室について学ぶ。 |
| 第6回 | 中枢神経系①：大脳の構造（皮質、髄質、大脳基底核）と機能局在について学ぶ。 |
| 第7回 | 中枢神経系②：間脳と脳幹（中脳、橋、延髄）の構造と機能について学ぶ。 |
| 第8回 | 中枢神経系③：小脳と脊髄の構造と機能について学ぶ。 |
| 第9回 | 末梢神経系①：脳神経の名称、走行、機能について学ぶ。 |
| 第10回 | 末梢神経系②：脊髄神経と神経叢の名称、走行、機能について学ぶ。 |
| 第11回 | 末梢神経系③：自律神経の分類、走行、機能について学ぶ。 |
| 第12回 | 中枢神経系④：上行性伝導路と下行性伝導路（錐体路系と錐体外路系）について学ぶ。 |
| 第13回 | 内臓系⑤：感覚器系を構成する器官の構造と機能について学ぶ。 |
| 第14回 | 内臓系⑥：生殖器系を構成する器官の構造と機能について学ぶ。 |
| 第15回 | 人体発生：受精卵から胎児に至る個体発生の概要について学ぶ。 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）100% |
| 準備学習 | 事前に教科書の該当範囲を読んで予習し、疑問点を抽出する。 |
| 事後学習 | 講義後は教科書の該当範囲を再読し、疑問点の解決と内容の理解を図る。特にPT、OTにとっては神経系の正確な理解が重要であるので、充分時間を掛けて学習する。毎回出題する小テストを解く。 |
| 教科書 | 野村嵯編：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」医学書院 |
| 参考書 | 松村譲児著：「イラスト解剖学」中外医学社 |
| オフィスアワー | 講義終了後、講師控室にて。質問があればメールで随時受け付ける。 メールアドレス：kita-reha@tohaya.ac.jp（学院窓口） |

| | | | |
|----------|--|--------|------------|
| 授業科目 | 生理学 I | 科目担当者 | 稲永 清敏 |
| 学年 | 1 年 | 学期/時間数 | 前期 / 30 時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2 単位 |
| 授業の概要と方法 | 標準理学療法学・作業療法学「生理学」を教材として、パワーポイントによるプレゼンテーションを行う。單元ごとに、理解すべきポイントを記載した「講義ノート」を配布する。また、各回、演習問題を配布するので、講義の理解度を各自確認する。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①神経系の基本的機能（活動電位の発生機構、興奮伝導、シナプス伝達）が理解できる。 ②末梢神経系（自律神経系を含む）の生理的機能が理解できる。 ③中枢神経系の構成と機能が理解できる。 ④筋（骨格筋、心筋、平滑筋）および骨の構造と機能が理解できる。 ⑤感覚（体性感覚、内臓感覚、特殊感覚）の受容と情報処理機構が理解できる。 ⑥代謝・体温調節が理解できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|--------------------------------------|
| 第 1 回 | 生理学概論 | 生命現象と人体 |
| 第 2 回 | 神経の基本的機能 | 細胞の構造と機能 |
| 第 3 回 | 神経の基本的機能 | 神経の興奮伝導およびシナプス伝達 |
| 第 4 回 | 神経の基本的機能 | 末梢神経系（自律神経系を含む） |
| 第 5 回 | 中枢神経系 | 中枢神経系概論、脊髄、脳幹 |
| 第 6 回 | 中枢神経系 | 小脳、間脳、大脳皮質 |
| 第 7 回 | 中枢神経系 | 脳の高次機能、大脳基底核、辺縁系、脳室 |
| 第 8 回 | 筋と骨 | 骨格筋 |
| 第 9 回 | 筋と骨 | 骨格筋 |
| 第 10 回 | 筋と骨 | 心筋、平滑筋、骨の生理学 |
| 第 11 回 | 感覚機能 | 感覚概論 |
| 第 12 回 | 感覚機能 | 視覚 |
| 第 13 回 | 感覚機能 | 聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚 |
| 第 14 回 | 代謝 | 栄養素、エネルギー代謝 |
| 第 15 回 | 体温 | 体温調節 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）100% | |
| 準備学習 | 一回の講義で理解すべき内容が多いので事前に教科書の範囲を熟読しておくこと。 | |
| 事後学習 | 演習問題により講義の理解度をチェックする。間違ったところがあれば、必ず復習する。 | |
| 教科書 | 岡田 隆夫・鈴木 敦子・他：「標準理学療法学・作業療法学 生理学第 6 版」医学書院 | |
| 参考書 | 高松 研・堀内 ふき：「生体のしくみ 標準テキスト 第 3 版」医学映像教育センター 小澤 滯司・他 編：「標準生理学」医学書院 | |
| オフィスアワー | 講義終了後、講師控室（15 分間） | メールアドレス：kita-reha@tohaya.ac.jp（学院窓口） |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 生理学実習 | 科目担当者 | 稲永 清敏 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 45時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 理学療法士・作業療法士になるための実践的な基礎医学としての知識を身につけるため、6つの項目（筋電図、誘発筋電図、皮膚感覚、体温、心電図、血圧）の実習を行う。クラスを班に分割し実習を行う。実習日ごとにローテーションし、すべての実習項目を履修する。実習項目ごとに責任者を決め、実習を円滑に行う。全員が被検者となる。実習レポートは、各自期限内に提出する。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①学生自身が被験者になり、“ヒトの体の機能の神秘さ”を体感することによって、ヒトの体の機能についての理解を深める。 ②実習を行っているなかで生じた疑問は、そのままにせず解決するように努める。問題解決能力を養う。 ③実習中は積極的に実習に関連する事項を調べる。時間を有効に使う。 ④班単位で実習をおこなうので、班内でのコミュニケーション能力を高め、協力しあう態度を養う。 ⑤レポートの書き方を会得する。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|---|--|---|
| 第1回 | 生理学実習ガイダンス | 第16回 | 実習ローテーション③ (筋電図, 誘発筋電図, 皮膚感覚, 体温, 心電図, 血圧) |
| 第2回 | | 第17回 | |
| 第3回 | | 第18回 | |
| 第4回 | 実験項目のデモ①：理学療法学科の学生対象 | 第19回 | 実習ローテーション④ (筋電図, 誘発筋電図, 皮膚感覚, 体温, 心電図, 血圧) |
| 第5回 | | 第20回 | |
| 第6回 | | 第21回 | |
| 第7回 | 実験項目のデモ②：作業療法学科の学生対象 | 第22回 | 実習ローテーション⑤ (筋電図, 誘発筋電図, 皮膚感覚, 体温, 心電図, 血圧) |
| 第8回 | | 第23回 | |
| 第9回 | | 第24回 | |
| 第10回 | 実習ローテーション① (筋電図, 誘発筋電図, 皮膚感覚, 体温, 心電図, 血圧) | 第25回 | 実習ローテーション⑥ (筋電図, 誘発筋電図, 皮膚感覚, 体温, 心電図, 血圧) |
| 第11回 | | 第26回 | |
| 第12回 | | 第27回 | |
| 第13回 | 実習ローテーション② (筋電図, 誘発筋電図, 皮膚感覚, 体温, 心電図, 血圧) | 筋電図： 上腕二頭筋および上腕三頭筋などの筋活動と筋電図 誘発筋電図： 腱反射、および正中神経刺激による母指球筋誘発筋電図 皮膚感覚： 人体各部位の感覚点の分布・閾値の相違、感覚受容機構 体温： 人体各部位の皮膚温の測定と体温調節機構 心電図： 安静時や、深呼吸・運動などの負荷による心機能の変化 血圧： 体位の変動や運動による血圧や心拍数の変化 | |
| 第14回 | | | |
| 第15回 | | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 各テーマの実習レポートの評価と実習態度（参加度及び質疑応答に対する評価）をそれぞれ80点、20点とし、合計100点で評価する。 | | |
| 準備学習 | 実習前に実習書を熟読し、実習で行う手技を理解する。講義で行われた内容を復習し実習に臨む。実習中にインストラクターが行う質問に答えられるようにする。 | | |
| 事後学習 | 実習結果を、フォーマットに従いレポートにまとめ、期限内に提出する。 | | |
| 教科書 | 岡田 隆夫・鈴木 敦子・他：「標準理学療法学・作業療法学 生理学第6版」医学書院 | | |
| 参考書 | 高松 研・堀内 ふき：「生体のしくみ 標準テキスト 第3版」医学映像教育センター 小澤 滯司・他 編：「標準生理学」医学書院 | | |
| オフィスアワー | 実習終了後、講師控室（15分間） メールアドレス：kita-reha@tohaya.ac.jp（学院窓口） | | |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 運動学Ⅱ | 科目担当者 | 大島 秀明 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 理学療法士に必要とされる運動学は運動を解剖学的、生理学的、力学的に理解することであり、解剖学、生理学に引き続き、並行し学習する。さらにその知識を持って、障害・疾患へと関連付けることが重要となる。そのためここでは解剖学、生理学で学んだ知識を障害・疾患へと繋ぐため骨、関節、筋の構造・機能と運動学Ⅰに続き下肢帯および下肢、体幹における正常機能についてパワーポイントを用いプレゼンテーションを中心に講義形式で学習する。また、理解を深め確認するため、適宜ディスカッションの時間を設け単元毎に小テストを実施する。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①運動学の基礎事項、生体力学を理解することができる。 ②運動器（骨・筋・靭帯・関節）の種類と構成要素について説明できる。 ③下肢帯および下肢、体幹（股関節、膝関節、足関節、足部、脊柱、胸郭、骨盤）のメカニズムについて説明できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|---|
| 第1回 | 股関節の構造 |
| 第2回 | 股関節の動きと筋 |
| 第3回 | 股関節のメカニズム（Pauwelsの理論、Trendelenburg徴候とDuchenne現象） |
| 第4回 | 膝関節の構造 |
| 第5回 | 膝関節の動きと筋 |
| 第6回 | 膝関節のメカニズム（screw-home movement、locking mechanism、静的安定性と動的安定性） |
| 第7回 | 足関節と足部の構造 |
| 第8回 | 足関節と足部の動きと筋 |
| 第9回 | 足関節と足部のメカニズム（クロスサポートメカニズム、windlassメカニズム、truss機構） |
| 第10回 | 脊椎の総論（構造、靭帯、椎間板、椎間関節、脊髄） |
| 第11回 | 頸椎（構造、動きと筋、メカニズム） |
| 第12回 | 胸椎（構造、動きと筋、メカニズム） |
| 第13回 | 呼吸に関する運動学 |
| 第14回 | 腰椎・骨盤（構造、動きと筋、メカニズム） |
| 第15回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）50%、小テスト50% |
| 準備学習 | 骨、関節、筋の構造・機能について解剖学、生理学で学んだことを確認すること |
| 事後学習 | 単元毎に小テストを実施する。 |
| 教科書 | 中村 隆一・斉藤 宏 著：「基礎運動学第6版」医歯薬出版 竹内 義亨・田口 大輔 著：「カラー写真で学ぶ骨・関節の機能解剖」医歯薬出版 授業の中で、適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 細田 多穂 監：「運動学テキスト」南江堂 |
| オフィスアワー | 月・火曜日の16:00~17:30、職員室 メールアドレス：oshima@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | |

| | | | |
|----------|--|--------|------------|
| 授業科目 | 体表解剖学 I | 科目担当者 | 矢原 友成 |
| 学年 | 1 年 | 学期/時間数 | 前期 / 30 時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1 単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>理学療法士に必要とされる人体の骨、筋の名称、部位、起始停止を学習する。そのために、身体を立体的に捉えるため骨模型、DVDを使用しイメージする力を身につけ、各回に小テストを実施する。また、体表解剖学Ⅱ、評価学、治療学へ通ずるようにグループワークを実施する。</p> <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>①体表解剖学の基礎を理解することができる。 ②単元の骨関節の構造と機能について説明できる。 ③単元の骨格筋の構造と機能について説明できる。 ④身体における骨、筋を立体的に認識しイメージすることができる。</p> | | |

| 授 業 計 画 | 内 容 |
|----------------------|---|
| 第 1 回 | 体表解剖学の基礎 |
| 第 2 回 | 肩関節に関わる骨 実技演習 |
| 第 3 回 | 肩関節に関わる筋 実技演習 |
| 第 4 回 | 肘関節に関わる骨 実技演習 |
| 第 5 回 | 肘関節に関わる筋 実技演習 |
| 第 6 回 | 手関節に関わる骨 実技演習 |
| 第 7 回 | 手関節に関わる筋 実技演習 |
| 第 8 回 | 股関節に関わる骨 実技演習 |
| 第 9 回 | 股関節に関わる筋 実技演習 |
| 第 10 回 | 膝関節に関わる骨 実技演習 |
| 第 11 回 | 膝関節に関わる筋 実技演習 |
| 第 12 回 | 足関節および足部に関わる骨 実技演習 |
| 第 13 回 | 足関節および足部に関わる筋 実技演習 |
| 第 14 回 | 体幹に関わる骨 実技演習 |
| 第 15 回 | 体幹に関わる筋 まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 小テスト 40%、定期試験（筆記）60% |
| 準備学習 | 前期課程で並行して開講される解剖学や運動学と互換性を持ち、骨の名称と部位、筋の名称と部位、起始と停止を理解し覚えましょう。 |
| 事後学習 | 各回に小テストを実施します。授業後に配布する復習プリントをしておくこと |
| 教科書 | 青木 隆明・他 監：「運動療法のための機能解剖学的触診技術上肢第 2 版」MEDICAL VIEW 青 木隆明・他 監：「運動療法のための機能解剖学的触診技術下肢・体幹第 2 版」MEDICAL VIEW |
| 参考書 | 坂井 建雄 監：「プロメテウス解剖学コアアトラス第 4 版」医学書院 |
| オフィスアワー | 木曜日の 16:00～16:30、職員室 メールアドレス：yahara@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 体表解剖学Ⅱ | 科目担当者 | 矢原 友成 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 60時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 体表解剖学Ⅰで学んだ人体の骨、筋の名称、運動学で学んだ各関節の特性を再確認し、身体を立体的に捉えるため骨模型を使用することでイメージ力を身につける。 実際に学生同士で触診することで正確な部位を体表より認識し個体差を知る。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①理学療法を施行する上で重要となる骨、筋を中心に名称、部位を理解する。 ②身体における骨、筋を立体的に認識する。 ③手順に沿った目標とする部位を正確に触れる方法を修得する。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|---|------|-----------------------|
| 第1回 | 触診の基本実技演習 | 第16回 | 骨格系まとめ |
| 第2回 | 骨格系(肩関節:肩甲骨、鎖骨、上腕骨) | 第17回 | 筋系(肩関節:肩甲骨腕関節・肩甲骨胸郭関節 |
| 第3回 | 実技演習 | 第18回 | に関わる筋)実技演習 |
| 第4回 | 骨格系(肘関節:橈骨、尺骨) | 第19回 | 筋系(肘関節:肘関節に関わる筋) |
| 第5回 | 実技演習 | 第20回 | 実技演習 |
| 第6回 | 骨格系(手関節:手根骨、指骨) | 第21回 | 筋系(手関節:手関節に関わる筋) |
| 第7回 | 実技演習 | 第22回 | 実技演習 |
| 第8回 | 骨格系(股関節:大腿骨) | 第23回 | 筋系(股関節:股関節に関わる筋) |
| 第9回 | 実技演習 | 第24回 | 実技演習 |
| 第10回 | 骨格系(膝関節:脛骨、腓骨) | 第25回 | 筋系(膝関節:膝関節に関わる筋) |
| 第11回 | 実技演習 | 第26回 | 実技演習 |
| 第12回 | 骨格系(足関節:足部周辺) | 第27回 | 筋系(足関節:足関節に関わる筋) |
| 第13回 | 実技演習 | 第28回 | 実技演習 |
| 第14回 | 骨格系(骨盤:腸骨周辺) | 第29回 | 筋系(体幹:体幹に関わる筋) |
| 第15回 | 実技演習 | 第30回 | 実技演習 まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験(筆記30%、実技40%)、小テスト30% | | |
| 準備学習 | 前期科目の体表解剖学Ⅰで学んだ骨、筋の名称と部位を中心に復習し、運動学的特徴を併せて理解しましょう。 | | |
| 事後学習 | 実技練習の時間に前回の部位を復習します。 | | |
| 教科書 | 青木 隆明・他 監:「運動療法のための機能解剖学的触診技術上肢改訂第2版」MEDICAL VIEW 青木 隆明・他 監:「運動療法のための機能解剖学的触診技術下肢・体幹改訂第2版」MEDICAL VIEW 坂井 建雄 監:「プロメテウス解剖学コアアトラス第4版」医学書院 | | |
| オフィスアワー | 木曜日の16:00~16:30、職員室 メールアドレス:yahara@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | | | |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 整形外科学 | 科目担当者 | 村上 忠誌 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | スライドによる教科書内容の解説により、整形外科疾患の病態、診断方法及び治療法が理解することができる。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他(冬休み前に理解度確認のための課題を配布する) | | |
| 到達目標 | 整形外科疾患の病態、診断方法及び治療法について理解し、国家試験の問題に対応できる。 膨大な整形外科疾患についての知識を付ける。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|---------------|
| 第 1 回 | 総論 | 教科書ページ 3 ~ 37 |
| 第 2 回 | 軟部、骨損傷 | 41 ~ 75 |
| 第 3 回 | 肩、上腕 | 76 ~ 106 |
| 第 4 回 | 手 | 107 ~ 126 |
| 第 5 回 | 股関節、大腿 | 127 ~ 145 |
| 第 6 回 | 膝関節、下腿 | 146 ~ 169 |
| 第 7 回 | 足関節、足部 | 170 ~ 184 |
| 第 8 回 | 脊椎 | 185 ~ 219 |
| 第 9 回 | 脊椎、骨盤 (画像診断含む) | 220 ~ 249 |
| 第 10 回 | 関節疾患、リウマチ、感染 (画像診断含む) | 251 ~ 279 |
| 第 11 回 | 代謝疾患、ロコモ、腫瘍 | 280 ~ 309 |
| 第 12 回 | 神経、筋疾患 (薬剤含む) | 310 ~ 353 |
| 第 13 回 | 系統疾患、骨端症、循環障害、切断 | 354 ~ 384 |
| 第 14 回 | 慢性疼痛、スポーツ (薬剤含む) | 385 ~ 410 |
| 第 15 回 | まとめ | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記) 100% | |
| 準備学習 | 予習を行い教科書内の言葉に慣れておいてください。 | |
| 事後学習 | 復習を行い疑問に思ったことは質問してください。 | |
| 教科書 | 高橋 邦泰・芳賀 信彦 編：「整形外科学テキスト第5版」南江堂 | |
| 参考書 | | |
| オフィスアワー | 講義終了後、講師控室 (15 分間) メールアドレス : kita-reha@tohaya.ac.jp (学院窓口) | |

| | | | |
|----------|---|--------|------------|
| 授業科目 | 精神医学 I | 科目担当者 | 副田 秀二 |
| 学年 | 1 年 | 学期/時間数 | 後期 / 30 時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2 単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>価値観が多様化する現代社会において精神疾患は多岐にわたるようになった。そのため、コメディカルスタッフには精神疾患の理解と適切な対応が求められている。本授業では主な精神疾患の概要・症状・治療・経過を含め、精神医学の主要事項を学ぶ。授業では主要事項の概説に併行して、教科書に沿った正誤問題を解き理解度を確認する。これらを通して精神障害を持つ人々への対応・社会生活面の援助・リハビリテーションのありかたを考える。</p> <p>アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他(教科書に沿った正誤問題による理解度確認)</p> | | |
| 到達目標 | <p>1、主な精神疾患の概要・症状・治療・経過などが理解できる。 2、精神障害を持つ人々に対する実際的な対応・援助・リハビリテーションについて考えることができる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|---|
| 第 1 回 | 精神医学の基礎 (医療・福祉の流れ、疾患分類、入院形態など) |
| 第 2 回 | 気分障害 I (うつ病) |
| 第 3 回 | 気分障害 II (双極性障害) |
| 第 4 回 | 統合失調症 |
| 第 5 回 | 神経症性障害・ストレス関連障害 (不安障害、強迫性障害、解離性障害など) |
| 第 6 回 | 生理的障害・心理的要因に関連した行動症候群 (摂食障害、睡眠障害など) |
| 第 7 回 | 成人のパーソナリティおよび行動の障害 |
| 第 8 回 | 器質性精神障害 (認知症など) |
| 第 9 回 | 精神作用物質による精神および行動の障害 (アルコール依存症など) |
| 第 10 回 | 身体疾患にもとづく精神障害 / てんかん |
| 第 11 回 | 児童・青年期の精神障害 |
| 第 12 回 | 精神疾患の薬物療法 (総論)・抗精神病薬・抗うつ薬 |
| 第 13 回 | 気分安定薬・精神刺激薬・抗不安薬・睡眠薬・抗認知症薬 / 地域社会と精神医療・保健・福祉 |
| 第 14 回 | 治療的・援助的介入技法 / リエゾン精神医学とチーム医療 |
| 第 15 回 | 精神障害における症状 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記) 100% (ただし、受講態度等が 10% 以内で加味されることがある。) |
| 準備学習 | 授業前に教科書の範囲を熟読しておくこと。 |
| 事後学習 | 配布プリントを中心に理解に努めること。さらに関連事項を調べて理解を深めることが望ましい。 |
| 教科書 | 太田保之・上野武治 編：「学生のための精神医学 (第 3 版)」医歯薬出版 |
| 参考書 | 適宜紹介 |
| オフィスアワー | 授業終了後、講師控室 (15 分間) メールアドレス : kita-reha@tohaya.ac.jp (学院窓口) |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 健康科学 | 科目担当者 | 市木 里佳 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 現代社会において、「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには、適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。現代日本の健康に関わる様々な因子や疾患構造の変化、リスクの予防について、身体活動演習を取り入れながら講義をすすめ、理解を深める。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | 講義を通して、学生生活さらには今後の社会人生活や地域活動において、健康を獲得・維持するために必要となる知識を身に付けることができる。また、身に付けた知識を日常生活で実践でき、理学療法士としての基礎知識として応用できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|---|
| 第 1 回 | ライフスタイルと健康 |
| 第 2 回 | 生活習慣病 |
| 第 3 回 | 身体活動演習① (卓球) |
| 第 4 回 | 加齢と健康 (フレイル・ロコモティブシンドローム・サルコペニア) |
| 第 5 回 | 栄養・休養と健康 |
| 第 6 回 | 身体活動演習② (バドミントン) |
| 第 7 回 | 女性の健康 |
| 第 8 回 | 有酸素運動について |
| 第 9 回 | 身体活動演習③ (有酸素運動) |
| 第 10 回 | 予防医学① (一次・二次・三次予防) |
| 第 11 回 | 予防医学② (産業理学療法) |
| 第 12 回 | レクレーション発表 |
| 第 13 回 | |
| 第 14 回 | 身体活動演習③ (ストレッチ) |
| 第 15 回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記) 60%、レクレーション発表 40% |
| 準備学習 | 特になし |
| 事後学習 | 授業で使用するパワーポイントのスライドを用いて授業内容の復習をしてください。 |
| 教科書 | 配布資料 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 月～金曜日の 16:10～17:30、職員室 メールアドレス: ichigi@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | リハビリテーション概論 | 科目担当者 | 辻 和明 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>リハビリテーションの概念・理念・定義から授業を進めていきます。徐々に視野を広げて、対象者のことや他職種、活躍するフィールド、制度論の概略までを学習します。</p> <p>授業の方法は、教科書を中心に進めて重要なところを強調して伝えます。また、更に説明が必要な場合は、資料を配布して深めていきます。2回目以降から、前回の振り返りを行い、合わせて国試問題も確認をします。</p> <p>アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>①リハビリテーションとは何かの疑問に概念・理念・定義を理解して説明できるようになる。</p> <p>②健康と障害の概念を知る。</p> <p>③おおまかなリハビリテーション医療の課程を知り、他職種の理解を深める。</p> <p>④活躍するフィールドを知る。</p> <p>⑤リハビリテーション医療を取り巻く法的な制度を知る。</p> <p>最後に、関連する国家試験問題を確認する。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | リハビリテーションの概念、理念、定義 |
| 第2回 | 健康と障害の概念と分類 |
| 第3回 | 障害者の心理的・社会的視点 |
| 第4回 | 発達と評価（発達と成長、発達の評価） |
| 第5回 | リハビリテーション医療の課程（評価） |
| 第6回 | リハビリテーション医療の各段階（急性期・回復期・生活期リハビリテーション） |
| 第7回 | リハビリテーション医療に関わる職種（関連職種） |
| 第8回 | チーム医療とアプローチ |
| 第9回 | ADLとQOLの概念と評価法（ADL評価、IADL評価、QOL評価） |
| 第10回 | リハビリテーション医療における義肢装具 |
| 第11回 | 地域リハビリテーションの概略 |
| 第12回 | 高齢者・健康対策（保健） |
| 第13回 | 医療と福祉制度（社会福祉制度、医療保険制度、公的扶助、介護保険制度） |
| 第14回 | 医療法と福祉関係 |
| 第15回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 授業後の小テスト（頻度は2コマに1回程度、内容は関連する国試過去問）30%、定期試験（筆記）70% |
| 準備学習 | 予定している内容を教科書で確認する |
| 事後学習 | 毎回の授業後に伝えた範囲の復習 |
| 教科書 | 上好 昭孝・田島 文博 編著：「リハビリテーション概論改訂第4版」永井書店 |
| 参考書 | 資料配布 |
| オフィスアワー | 授業終了後もしくは木曜日の16:00～16:30、職員室 メールアドレス：tsuji@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | リハビリテーション演習 | 科目担当者 | 辻 和明 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | リハビリテーション概論や理学療法概論で学んだ内容をフィールド演習として、医療施設など実際のリハビリテーション医療の理解を深める。また、リハビリテーションを広い視野で捉えて、学園のキャンパス内および近隣地域のバリアフリーに関する実態調査を行い、身体障害者や高齢者を含めたより多くの人々が「安全で快適な生活」や「行動を送る」ことについて考察します。 | | |
| | 加えて、理学療法士における感染症の基礎知識を修得して、その取組みを学んで今後の学習に活かしていく。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①リハビリテーション医療を学外のフィールドで更に理解を深める ②合わせて、フィールドそのものの役割や専門職の役割、業務を理解する。 ③リハビリテーションを広い視野で捉えて身近なところで環境調査を行い、プレゼンテーションを行い説明する。 ④感染症の総論を学び、感染予防の取組みを知る。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|--|----------------------------|
| 第1回 | 学内講義 | 社会構造の変化（少子高齢化）、健康・予防対策 |
| 第2回 | | リハビリテーション専門職とその役割、多職種連携 |
| 第3回 | | 地域リハビリテーション（地域包括ケアシステム） |
| 第4回 | | 障害者の社会参加 |
| 第5回 | 学外演習 | 医療施設等にて見学・演習 ① |
| 第6回 | | 地域や会議施設等にて見学・演習 ② |
| 第7回 | | プレゼンテーション ①の発表 |
| 第8回 | | プレゼンテーション ②の発表 |
| 第9回 | 学園・近隣地域のバリアフリー調査 | ①（調査内容の決定） |
| 第10回 | 学園・近隣地域のバリアフリー調査 | ②（実地調査） |
| 第11回 | | グループ討議とまとめ 1回目 |
| 第12回 | | グループ討議とまとめ 2回目 |
| 第13回 | 感染症の総論 | ・管理 |
| 第14回 | 理学療法士の感染予防 | |
| 第15回 | まとめ | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 演習の積極的取組（プレゼン資料内容・グループ討議資料）30%、発表30%、見学前後レポート40% | |
| 準備学習 | 前期のリハビリテーション概論や理学療法概論の教科書を確認して授業に臨みましょう。 | |
| 事後学習 | 取り組んだ内容をノートにまとめて理解を深めましょう。 | |
| 教科書 | なし | |
| 参考書 | 上好 昭孝・田島 文博 編：「リハビリテーション概論改訂第3版」永井書店 配布資料 | |
| オフィスアワー | 授業終了後もしくは木曜日の16:00～16:30、職員室 | メールアドレス：tsuji@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | | |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 理学療法概論 | 科目担当者 | 野口 敦 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 前期 / 45時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 理学療法概念や歴史を学び、活躍場面や取り巻く環境などを講義する。具体的には理学療法の対象および役割、そして求められる要素を理解して、理学療法士の使命を把握する。 また ICT を活用して理学療法士として必要な知識を収集してまとめ、グループ討議を行い、プレゼン発表を行う。積極的なディスカッションを行い、医療施設や介護施設、障害者スポーツ場面での理学療法の興味や知識を深める。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①「理学療法とは何か」を説明できるようになる。 ②関連性の多い多職種の説明できるようになる。 ③課題に対して、積極的なグループ討議をして知識を深める。 ④授業や学外演習、施設見学等を通して、自分自身の理学療法士像を描けるようになる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|------|---------------|
| 第1回 | オリエンテーション | 第16回 | グループ発表 |
| 第2回 | 車いすテニス (Japan Open 2024) 見学 | 第17回 | 理学療法士に求められる要素 |
| 第3回 | | 第18回 | 施設見学 |
| 第4回 | 理学療法とは | 第19回 | |
| 第5回 | 理学療法の職域、理学療法士の協働職種 | 第20回 | ハラスメント |
| 第6回 | 労働対価と社会保険 | 第21回 | 記録・報告 |
| 第7回 | 日本リハビリテーション発祥地記念館 | 第22回 | 医療事故・感染予防 |
| 第8回 | 見学 | 第23回 | 障害受容、まとめ |
| 第9回 | 世界の理学療法 | | |
| 第10回 | ICF と ICDH | | |
| 第11回 | ICF 事例 演習 | | |
| 第12回 | 理学療法評価 | | |
| 第13回 | グループワーク 課題に提示・資料作成 | | |
| 第14回 | グループワーク 資料作成・討論 | | |
| 第15回 | グループワーク 資料作成・討論 | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記) 60%、見学レポート 30%、プレゼンテーション 10% | | |
| 準備学習 | 教科書を事前に目を通す。課題に対してはインターネット等の媒体で事前に調べておく。 | | |
| 事後学習 | 施設見学後のレポートを作成する。 | | |
| 教科書 | 庄本 康治 編：「PT・OT ビジュアルテキスト理学療法概論第1刷」羊土社 | | |
| 参考書 | | | |
| オフィスアワー | 火、水、金曜日の 16:30~17:30、職員室 メールアドレス：noguchi@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 理学療法の歴史から定義、臨床場面における基本となる構成概念を講義・演習を行う。 また、課題に対してグループ調査から発表までを積極的な討議ができるようにアドバイスする。 どのような理学療法士が臨床の現場、患者様から求められているのかを授業を通して伝えていく。 | | |

| | | | |
|----------|--|--------|------------|
| 授業科目 | 理学療法評価学 I | 科目担当者 | 中野 浩志 |
| 学年 | 1 年 | 学期/時間数 | 前期 / 45 時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2 単位 |
| 授業の概要と方法 | 理学療法評価の基本的な考え方や基礎的な検査方法の理解を深めていく。 評価とは何か、何のために評価するのか、障害とは何か、しっかりと考えながら実践に取り組めるよう講義を進めていく。 必要に応じ実技を交えながら進める。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①理学療法評価の意義・目的を理解できる。 ②学習した検査・測定を健常者に的確に実施できる。 ③理学療法評価学Ⅱ・各疾患別の理学療法へとつなげることができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|-------------------|--|--------|-------------------------------------|
| 第 1 回 | オリエンテーション | 第 16 回 | 下肢の関節可動域 (ROM) 測定の実際/股関節 (実技演習) |
| 第 2 回 | 理学療法評価法総論 | 第 17 回 | 下肢の関節可動域 (ROM) 測定の実際/膝関節・足関節 (実技演習) |
| 第 3 回 | 一般的評価と形態測定 | 第 18 回 | |
| 第 4 回 | | 第 19 回 | 体幹の関節可動域 (ROM) 測定の実際/頸部 (実技演習) |
| 第 5 回 | 形態測定の実際/周計 (実技演習) | 第 20 回 | |
| 第 6 回 | | 第 21 回 | 体幹の関節可動域 (ROM) 測定の実際/胸腰部 (実技演習) |
| 第 7 回 | 形態測定の実際/四肢長 (実技演習) | 第 22 回 | |
| 第 8 回 | | 第 23 回 | まとめ |
| 第 9 回 | 関節可動域 (ROM) 測定の定義と目的、留意点と記録法 | 第 24 回 | |
| 第 10 回 | | 第 25 回 | |
| 第 11 回 | 上肢の関節可動域 (ROM) 測定の実際/肩甲帯・肩関節 (実技演習) | 第 26 回 | |
| 第 12 回 | | 第 27 回 | |
| 第 13 回 | 上肢の関節可動域 (ROM) 測定の実際/肘関節・前腕・手関節 (実技演習) | 第 28 回 | |
| 第 14 回 | | 第 29 回 | |
| 第 15 回 | 下肢の関節可動域 (ROM) 測定の実際/股関節 (実技演習) | 第 30 回 | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記 70%、実技 20%)、レポート 10% | | |
| 準備学習 | 事前に講義範囲の内容を教科書で確認しておきましょう。 | | |
| 事後学習 | 講義中に説明した内容についてしっかり復習し、都度理解するよう努めましょう。 | | |
| 教科書 | 千住 秀明・他：「理学療法評価法第 3 版」神陵文庫 | | |
| 参考書 | 松澤 正・江口 勝彦：「理学療法評価学第 6 版補訂版」金原出版 | | |
| オフィスアワー | 水曜日の 16:00~17:00、職員室 メールアドレス：nakano@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 | | |
| 実務経験を活かした教育内容 | 臨床現場で多用する理学療法評価学について、実際の現場を想定し実技指導を行う。 | | |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 理学療法評価学Ⅱ | 科目担当者 | 中野 浩志 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 60時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 3単位 |
| 授業の概要と方法 | 理学療法評価の基本的な考え方や基礎的な検査方法の理解を深めていく。評価とは何か、何のために評価するのか、障害とは何か、しっかりと考えながら実践に取り組めるよう講義を進めていく。実技時間も多く取りながら技術の習得を目指す。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①理学療法評価の意義・目的を理解できる。 ②学習した検査・測定を健常者に的確に実施できる。 ③各疾患別の理学療法へとつなげることができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|------|------------------------|
| 第1回 | 上肢帯の徒手筋力検査法(MMT)の実際(実技演習) | 第16回 | 反射・反応検査の意義と実際/総論(実技演習) |
| 第2回 | | 第17回 | 反射・反応検査の意義と実際/評価(実技演習) |
| 第3回 | 下肢帯の徒手筋力検査法(MMT)の実際/股関節(実技演習) | 第18回 | |
| 第4回 | | 第19回 | |
| 第5回 | 下肢帯の徒手筋力検査法(MMT)の実際/膝関節・足関節(実技演習) | 第20回 | 協調性検査の意義と実際(実技演習) |
| 第6回 | | 第21回 | |
| 第7回 | 体幹部の徒手筋力検査法(MMT)の実際(実技演習) | 第22回 | 意識障害の意義と実際(実技演習) |
| 第8回 | | 第23回 | |
| 第9回 | 感覚検査の意義と実際/総論(実技演習) | 第24回 | 疼痛評価の意義と実際(実技演習) |
| 第10回 | | 第25回 | |
| 第11回 | 感覚検査の意義と実際/評価(実技演習) | 第26回 | アライメント評価の意義と実際(実技演習) |
| 第12回 | | 第27回 | |
| 第13回 | 筋緊張検査の意義と実際(実技演習) | 第28回 | まとめ |
| 第14回 | | 第29回 | |
| 第15回 | 反射・反応検査の意義と実際/総論(実技演習) | 第30回 | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験(筆記70%、実技20%)、小テスト10% | | |
| 準備学習 | 事前に講義範囲の内容を教科書で確認しておきましょう。 | | |
| 事後学習 | 検査項目が多く1つ1つ理解するには日々の学習が大切です。分からないことがあればその都度解決するように心がけてください。 | | |
| 教科書 | 千住 秀明・他 編:「理学療法評価法第3版」神陵文庫 津山 直一 訳:「新・徒手筋力検査法第10版」協同医書 | | |
| 参考書 | 田崎 義昭・他 著:「ベットサイドの神経の診かた第18版」南山堂 松澤 正・江口 勝彦:「理学療法評価学第6版補訂版」金原出版 | | |
| オフィスアワー | 水曜日の16:00~17:00、職員室 メールアドレス:nakano@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 理学療法評価学Ⅰ同様、臨床現場で多用する理学療法評価学について、実際の現場を想定し実技指導を行う。 | | |

| | | | |
|----------|---|--------|----------------|
| 授業科目 | 解剖学実習 | 科目担当者 | 片岡真司・高木孝輔・瀬田祐司 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 45時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 九州歯科大学解剖学実習室において人体解剖学実習を行う。筋の層構造と支配神経、胸・腹部内臓の位置関係と構造ならびに腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢と支配筋の関係、運動器に関わる関節、筋の構造を肉眼的に剖出して正確な観察、スケッチを行う。 | | |
| | 脳の構造を立体的に理解するために外景ならびに内部構造を観察、スケッチする。これらの実習を行う為に予習・復習を励行し構造の詳細な剖出と正確な観察を行うことで、人体構造について十分な理解を確実にする。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①胸部・腹部内臓の有機的な位置関係を説明することができる。 ②動静脈、神経の走行、分布を確認し、臓器との関係を説明できる。 ③筋の起始・停止を確認し、支配神経、作用について、説明できる。 ④関節の解剖を行い、その形態と機能との関係を説明できる。 人体解剖実習をととして生命の神秘、尊厳を自ら学び、倫理観の育成に努める。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1日目 | 解剖実習の目的、献体について、実習書読み合わせ (学内) |
| 第2日目 | 脳、骨、関節、筋のスケッチ (学内) |
| 第3日目 | 人のからだの区分の確認 骨学実習、心臓、肺、腹部内臓の観察、腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢の解剖 横隔膜の解剖、胸神経と肋間動静脈の解剖、交感神経幹、大・小内臓神経の確認 上肢帯の筋の解剖、上腕・前腕の前部の解剖、手掌の解剖 下肢帯の筋の解剖、大腿・下腿前部の筋、足背の筋の解剖 (九州歯科大学) |
| 第4日目 | 上肢帯の解剖、上腕・前腕の後面の解剖、手背・手背の筋の解剖 殿部の筋の解剖、大腿・下腿後面の解剖、膝窩の解剖、足底の筋の解剖 背部の筋の解剖 (九州歯科大学) |
| 第5日目 | 肩関節後面、肘関節伸側の解剖 股関節前面、膝関節後面の解剖 肩関節前面、肘関節屈側の解剖 股関節前面、膝関節前面の解剖 頭頸部の確認および総まとめ、脳実習 (九州歯科大学) |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | オンライン問題、実習態度ならびにスケッチ、レポート、感想文で評価する。 |
| 準備学習 | 毎回予習（オンライン問題を含む）をしていくこと。 ご遺体は自分の死後医学の発展のために無条件、無報酬で自ら解剖を申し出られて献体された方々である。この篤志献体者の志を忘れてはならない。献体が成就できるのはご家族、病院、会社福祉関係者など多くの方々のご協力があって初めて可能なことであるのも忘れてはならない。 心得：① ご遺体に常に感謝の念をもつ。 ② ご遺体に礼を失してはならない。 ③ ご遺体のご遺志を考える。 ④ ご遺体に報いることを考える。 |
| 事後学習 | 九州歯科大学において、実習時間内に終わらなかった観察所見の記載、スケッチをしておくこと。 |
| 教科書 | 野村 嵯 編：「標準理学療法学・作業療法学専門分野解剖学第5版」医学書院 プリント配布 |
| 参考書 | 佐藤 達夫 訳：「人体解剖カラーアトラス原書第8版」南江堂 |

| | | | |
|----------|---|--------|------------|
| 授業科目 | 動作分析学 I | 科目担当者 | 矢原 友成 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 45 時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2 単位 |
| 授業の概要と方法 | 各動作を下記 5 つの単元に大きく分け、実習を行いながら、各動作の特徴とバイオメカニクスと姿勢、基本動作および歩行分析の方法について学ぶ。 ①姿勢 ②歩行 ③寝返り ④起き上がり ⑤立ち上がり | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①正常な姿勢と歩行について理解を深め、姿勢・歩行分析の方法を理解できる。 ②基本動作における動作分析の方法を理解できる。 ③動作分析と基礎科目（解剖学、運動学、生理学）とのつながりを意識することができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|--------|-----------------------|
| 第 1 回 | 姿勢に関する基本的事項（講義） | 第 16 回 | 起き上がり動作（演習） |
| 第 2 回 | 静的姿勢と動的姿勢の評価（講義） | 第 17 回 | 立ち上がり動作（講義）筋活動 |
| 第 3 回 | 静的姿勢と動的姿勢の評価（演習） | 第 18 回 | 立ち上がり動作（講義）モーメント |
| 第 4 回 | 姿勢評価（演習） | 第 19 回 | 立ち上がり動作（演習） |
| 第 5 回 | 姿勢分析、まとめ | 第 20 回 | |
| 第 6 回 | | 第 21 回 | 寝返り、起き上がり動作の観察、分析、まとめ |
| 第 7 回 | 歩行に関する基本的事項（講義） | 第 22 回 | 立ち上がり動作の観察、分析、まとめ |
| 第 8 回 | 歩行時の関節モーメント（講義） | 第 23 回 | 総括 |
| 第 9 回 | 歩行時の関節モーメント（演習） | 第 24 回 | |
| 第 10 回 | | 第 25 回 | |
| 第 11 回 | 歩行観察、歩行分析、まとめ | 第 26 回 | |
| 第 12 回 | | 第 27 回 | |
| 第 13 回 | 寝返り動作（講義） | 第 28 回 | |
| 第 14 回 | 寝返り動作（演習） | 第 29 回 | |
| 第 15 回 | 起き上がり動作（講義） | 第 30 回 | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | レポート課題 20%、定期試験（筆記）80% | | |
| 準備学習 | 教科書を用いて、各回の内容の範囲を確認してください | | |
| 事後学習 | その日のうちに疑問点を解決できるように復習を忘れずにしてください。 | | |
| 教科書 | 石井 慎一郎 編：「動作分析臨床活用講座」メジカルビュー社 Kirstein Gotz-Neumann 著：「観察による歩行分析」医学書院 | | |
| オフィスアワー | 木曜日の 16:00～16:30、職員室 メールアドレス：yahara@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | | | |

| | | | |
|----------|---|--------|------------|
| 授業科目 | 脳神経学 | 科目担当者 | 恩田 純・吉開 俊一 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 15時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 脳血管障害や脳腫瘍疾患群の原因、症状、病態、治療法を理解する。 CT, MRI, MRA, 脳血管撮影などの画像診断力を修得する。 救急救命医療の場での情報収集力、判断力を培う。 手術の考え方、手術法を理解する。症例を提示し、病態を議論する。 主にPCスライドと配布資料を用いた対面授業。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | 脳神経疾患の症状と病態の関連性を理解し、リハビリテーションの手法をよりよく理解できるようにする。 脳神経外科領域疾患患者の病態を理解した上で、安全かつ確実なリハビリテーション訓練を実施できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|----|
| 第1回 | 脳血流・脳血管の解剖生理と脳梗塞 | 吉開 |
| 第2回 | 脳梗塞と脳出血 | 吉開 |
| 第3回 | くも膜下出血、その他の特殊な脳血管障害、脳腫瘍 | 吉開 |
| 第4回 | 症例提示と実際の手術 | 吉開 |
| 第5回 | 中枢神経の特徴①：エネルギー代謝と虚血への脆弱性を中心に | 恩田 |
| 第6回 | 中枢神経の特徴②：脳浮腫と頭蓋内圧亢進を中心に | 恩田 |
| 第7回 | 頭部外傷総論および頭部外傷各論①（頭蓋骨骨折および急性硬膜外血腫） | 恩田 |
| 第8回 | 頭部外傷各論②（急性および慢性硬膜下血腫+その他の頭部外傷） その他の脳神経外科領域疾患（症候性てんかん・水痘症等） | 恩田 |
| 第9回 | | |
| 第10回 | | |
| 第11回 | | |
| 第12回 | | |
| 第13回 | | |
| 第14回 | | |
| 第15回 | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）100% | |
| 準備学習 | 授業予定の疾患についてテキスト、テキストのまとめ、最重要項目等の事前配布資料を熟読しておき、講義中もしくは講義後に質問も行うことで学習内容についての理解を深める。 | |
| 事後学習 | 授業後にもう一度テキストを通読し、学習内容の再確認と疑問点の洗い出しを行う。 国家試験受験を前提とした学習法を誘導。 | |
| 教科書 | 新井 一 監：「標準脳神経外科学第16版」医学書院 | |
| 参考書 | 「系統看護学講座 脳・神経」医学書院 | |
| オフィスアワー | 講義終了後、講師控室（15分間） メールアドレス：kita-reha@tohaya.ac.jp（学院窓口） | |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 理学療法管理学 | 科目担当者 | 大島 秀明 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>国家資格を付与される理学療法士は、知識技術を提供する際にマネジメント能力が求められます。この授業では、職場で求められる管理業務である診療・介護報酬をはじめ、診療記録、他職種との業務調整、カンファレンス、安全管理、コンプライアンス、ハラスメントなど理学療法の職業管理と合わせて臨床教育の基本についても学びます。授業はパワーポイントを用いプレゼンテーションを中心に講義形式で学習する。</p> | | |
| | <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険・介護保険制度を基に診療・介護報酬について説明できる。 2. 理学療法実施における書類管理、機器安全管理、および多職種との業務連携等を説明できる。 3. 人事考課、労務管理について説明できる。 4. 理学療法士に求められる職業倫理としてコンプライアンス、法令違反等の説明ができる。 5. 理学療法士養成教育の歴史、内容および臨床実習・臨床教育の方法について説明できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|---|
| 第1回 | 管理学について（概要） |
| 第2回 | 病院の分類・組織と関連法規について |
| 第3回 | 医療・介護制度と報酬（診療・介護報酬）について |
| 第4回 | 理学療法実施後の記録・書類の管理について |
| 第5回 | 医療スタッフ間の業務連携、カンファレンス、各種勉強会について |
| 第6回 | 理学療法機器の保守点検・安全管理、配置計画について |
| 第7回 | 人事考課、労務管理について |
| 第8回 | コンプライアンス、法令違反、医療広告ガイドラインについて |
| 第9回 | ハラスメントについて |
| 第10回 | 理学療法教育の歴史、内容について |
| 第11回 | 他職種(看護学科・作業療法学科)との連携① 患者の理解 |
| 第12回 | 他職種(看護学科・作業療法学科)との連携② 支援と治療 |
| 第13回 | 他職種(看護学科・作業療法学科)との連携③ まとめ発表 |
| 第14回 | 臨床教育（実習）の方法および評価、感染症予防・対策について |
| 第15回 | 職域の現状と今後の方向性（これから期待される理学療法の領域） |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）90%、課題・レポート10% |
| 準備学習 | 理学療法概論で学んだ内容で関連する単元を確認すること |
| 事後学習 | 授業で配布するプリントを復習しておくこと |
| 教科書 | 齋藤 昭彦・下田 信明 編集：「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション管理学」羊土社 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 月・火曜日の16:00～17:30、職員室 メールアドレス：oshima@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 急性期から生活期まで幅広い病期の実務を通して、病院における新人教育、中堅者教育、労務、コンプライアンス、ハラスメント、多職種連携を含む管理を経験している。 |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 動作分析学Ⅱ | 科目担当者 | 中野 浩志 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 運動学Ⅰ・Ⅱや動作分析学Ⅰで学ぶ身体のメカニズムについて、三次元解析装置、床反力計、筋電図を使用し、計測方法やその基礎理論、分析方法について学習する。またそれに必要な運動力学や数学的基礎、電気的解釈について講義する。身体運動におけるバイオメカニクスの姿勢・歩行の定量化について学ぶ。画像評価、映像評価について学習する。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 三次元解析装置の基礎理論、解析内容について理解できる。 2. 床反力計の基礎理論、解析内容について理解できる。 3. 筋電図の基礎理論、解析内容について理解できる。 4. 各計測装置で計測できるパラメータについて理解できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | 三次元動作解析装置について 総論と基礎知識 |
| 第2回 | 三次元動作解析装置について 計測方法指導 |
| 第3回 | 三次元動作解析装置について 演習①(計測) |
| 第4回 | 三次元動作解析装置について 演習②(解析) |
| 第5回 | 三次元動作解析装置について 発表 |
| 第6回 | 床反力計について 総論と基礎知識 |
| 第7回 | 床反力計について 計測方法指導 |
| 第8回 | 床反力計について 演習①(計測) |
| 第9回 | 床反力計について 演習②(解析) |
| 第10回 | 床反力計について 発表 |
| 第11回 | 筋電図について 総論と基礎知識 |
| 第12回 | 筋電図について 計測方法指導 |
| 第13回 | 筋電図について 演習①(計測) |
| 第14回 | 筋電図について 演習②(解析) |
| 第15回 | 筋電図について 発表 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 小テスト(50%)、発表・発表への取り組み(50%) |
| 準備学習 | 計測するにあたり、基礎的な数学の知識として関数やベクトル、電位の内容理解が必要です。 |
| 事後学習 | 講義中に説明した内容についてしっかり復習し、都度理解するよう努めましょう。 |
| 教科書 | 特になし。その都度、授業中に資料を配布する。 |
| 参考書 | 特になし。 |
| オフィスアワー | 水曜日の16:00~17:00、職員室 メールアドレス: nakano@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 主に運動器領域の動作分析や生体計測の実務経験を有する。その経験から、基礎的な内容理解や計測実践方法について指導する。 |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 動作分析学Ⅲ | 科目担当者 | 中野 浩志 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 60時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 脳血管疾患、脊髄損傷、整形外科疾患の動作を観察・分析し。結果をもとに問題点の抽出を行う。 講義資料を配布し、各疾患の動画や画像を視聴しながらグループディスカッション（GD）を行い考察する。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 動画視聴 ） | | |
| 到達目標 | 1 姿勢・歩行・基本動作の分析方法の基本概念を理解できる。 2 代表的疾患を有する患者の動作分析を行い、それらの結果を臨床的に解釈できる。 3 クリニカル・リーズニングに基づいた理学療法評価の流れを把握できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|--------|-----------------------|
| 第 1 回 | 動作分析の進め方・動作分析の展開 | 第 16 回 | 脳血管障害の歩行に対する仮説立案（GD） |
| 第 2 回 | クリニカル・リーズニング | 第 17 回 | 脳血管障害の歩行に対する評価項目（GD） |
| 第 3 回 | 四肢麻痺の動作と分析 | 第 18 回 | 施設連携講義（総論） |
| 第 4 回 | 四肢麻痺の動作と分析（GD） | 第 19 回 | 施設連携講義（各論） |
| 第 5 回 | 四肢麻痺の動作に対する仮説立案 | 第 20 回 | 下肢関節障害の動作と分析 |
| 第 6 回 | 四肢麻痺の動作に対する仮説立案（GD） | 第 21 回 | 下肢関節障害の動作と分析（GD） |
| 第 7 回 | 不全四肢麻痺の動作と分析 | 第 22 回 | 下肢関節障害の動作に対する仮説立案 |
| 第 8 回 | 不全四肢麻痺の動作に対する仮説立案 | 第 23 回 | 下肢関節障害の動作に対する仮説立案（GD） |
| 第 9 回 | 脳血管障害の動作と分析 | 第 24 回 | 下肢関節障害の動作に対する評価項目（GD） |
| 第 10 回 | 脳血管障害の動作と分析（GD） | 第 25 回 | 上肢障害の動作と分析 |
| 第 11 回 | 脳血管障害の動作に対する仮説立案 | 第 26 回 | 上肢障害の動作と分析（GD） |
| 第 12 回 | 脳血管障害の動作に対する仮説立案（GD） | 第 27 回 | 上肢障害の動作に対する仮説立案 |
| 第 13 回 | 脳血管障害の歩行分析 | 第 28 回 | 上肢障害の動作に対する仮説立案（GD） |
| 第 14 回 | 脳血管障害の歩行分析（GD） | 第 29 回 | 上肢障害の動作に対する評価項目（GD） |
| 第 15 回 | 脳血管障害の歩行に対する仮説立案 | 第 30 回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）（90%） レポート課題（10%） | | |
| 準備学習 | 正常動作の理解、各疾患の特徴を理解しておきましょう。常に疑問を持ち、解決する努力を行いましょう。 | | |
| 事後学習 | 講義中に説明した内容についてしっかり復習し、都度理解するよう努めましょう。 | | |
| 教科書 | 石井 慎一郎 編：「動作分析 臨床活用講座」メジカルビュー Kirstein Gotz-Neumann 著：「観察による歩行分析」医学書院 | | |
| 参考書 | 特になし | | |
| オフィスアワー | 水曜日の16：00～17：00、職員室 メールアドレス：nakano@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 病院、クリニックでの臨床経験を活かし、各疾患における姿勢、動作についての観察、動作における仮説の立案、評価方法、力学的解釈を提供する。 | | |

| | | | |
|----------|--|--------|------------|
| 授業科目 | 運動療法 I | 科目担当者 | 大島 秀明 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 60 時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 3 単位 |
| 授業の概要と方法 | 運動療法とは、身体機能障害や障害予防に対して、最も効果的な運動で高め回復させることを目的にしている。ここでは、基礎的知識、技術を習得することを目標におき、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを中心にまずは理論を講義形式で学習し、実践できるように演習形式で実技を学習する。また運動療法Ⅱにおける応用治療に繋がるよう基礎的な理論的背景を十分に理解する。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①運動療法に必要な解剖学、生理学、運動学などの基礎知識を身につけることができる。 ②運動療法に必要な理論を理解することができる。 ③基礎知識、理論をもとに実践し修得することができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|--------|----------------------|
| 第 1 回 | 運動療法の概念 | 第 16 回 | 目的 理論 方法(演習) |
| 第 2 回 | 歴史、定義、目的、方法 | 第 17 回 | 全身調整運動 (ポジショニング・良肢位) |
| 第 3 回 | 関節可動域運動 総論 | 第 18 回 | 目的 理論 方法(演習) |
| 第 4 回 | 目的 理論 方法 | 第 19 回 | リラクゼーション |
| 第 5 回 | 関節可動域運動 実際 (演習) | 第 20 回 | 目的 理論 方法(演習) |
| 第 6 回 | | 第 21 回 | 神経運動器協調運動 |
| 第 7 回 | 関節包内運動 | 第 22 回 | 目的 理論 方法(演習) |
| 第 8 回 | 目的 理論 方法(演習) | 第 23 回 | 運動学習 |
| 第 9 回 | ストレッチ | 第 24 回 | 目的 理論 方法(演習) |
| 第 10 回 | 目的 理論 方法(演習) | 第 25 回 | 各種運動療法体操 (グループワーク) |
| 第 11 回 | 筋力増強運動 総論 | 第 26 回 | |
| 第 12 回 | 目的 理論 方法 | 第 27 回 | |
| 第 13 回 | 筋力増強運動 実際(演習) | 第 28 回 | 総括 |
| 第 14 回 | | 第 29 回 | |
| 第 15 回 | 筋・全身持久力運動 | 第 30 回 | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記 70%、実技 20%) 授業の積極的取組 10% | | |
| 準備学習 | 運動療法は理学療法の中で根幹をなす教科の一つです。興味を持ち基本的知識を修得し、知識だけでなく実際の臨床場面を想定し治療技術を修得する。そのために常に疑問を抱き、解決するため理論的に思索してください。 | | |
| 事後学習 | 習得した実技を体現できるように練習をしてください。 | | |
| 教科書 | 奈良 勲 監：「標準理学療法学運動療法学 総論 第4版」医学書院 | | |
| 参考書 | 授業の中で、適宜、資料を配布する。 | | |
| オフィスアワー | 月・火・木曜日の 16:00～17:30、職員室 メールアドレス：oshima@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 急性期から生活期まで幅広い病期の実務を通して、在宅復帰までの運動療法を実技も含め実践的に提供する。また、各疾患に共通する基礎的な運動療法を中心に提供する。 | | |

| | | | |
|----------|--|--------|---------------------|
| 授業科目 | 運動療法Ⅱ | 科目担当者 | 中野 浩志・野口 敦 矢原 友成 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 60時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 運動療法とは、身体機能障害や障害予防に対して、最も効果的な運動で高め回復させることを目的にしている。ここでは、運動療法Ⅰで学んだ内容を基盤として、現在、臨床現場で行われている特殊な理学療法アプローチを紹介する。また、その基礎的知識、技術を習得することを目標におき、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを中心にまずは理論を講義形式で学習し、実践できるように演習形式で実技を学習する。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①特殊な運動療法の理論について説明できる。 ②理論に基づき、実践することができる。 ③理学療法プログラム立案において、治療の一つとして選択できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|------|---|
| 第1回 | 脳血管障害特殊テクニック① (野口) ファシリテーションテクニックの概要 (演習) | 第16回 | Mobilization (股関節) (演習) (矢原) |
| 第2回 | | 第17回 | |
| 第3回 | 脳血管障害特殊テクニック② (野口) PNF (演習) | 第18回 | |
| 第4回 | | 第19回 | |
| 第5回 | 脳血管障害特殊テクニック③ (野口) 起居動作、歩行へのアプローチ (演習) | 第20回 | Mobilization (膝関節) (演習) (矢原) |
| 第6回 | | 第21回 | |
| 第7回 | 脳血管障害特殊テクニック④ (野口) 課題指向型アプローチ (演習) | 第22回 | Mobilization (まとめ) (演習) (矢原) |
| 第8回 | | 第23回 | |
| 第9回 | Mobilization (概論) (演習) (矢原) | 第24回 | Redcode exercise therapy ① 概論 (演習) (中野) |
| 第10回 | | 第25回 | |
| 第11回 | Mobilization (基礎・原理) (演習) (矢原) | 第26回 | Redcode exercise therapy ② 評価 (演習) (中野) |
| 第12回 | | 第27回 | |
| 第13回 | Mobilization (肩関節) (演習) (矢原) | 第28回 | Redcode exercise therapy ③ 治療 (演習) (中野) |
| 第14回 | | 第29回 | |
| 第15回 | | 第30回 | Redcode exercise therapy ④ まとめ (演習) (中野) |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記 80%、実技 20%) | | |
| 準備学習 | 運動療法Ⅰの講義資料を復習してください。 | | |
| 事後学習 | その日のうちに疑問点を解決できるように復習を忘れずにしてください。 | | |
| 教科書 | 奈良 勲 監:「標準理学療法学運動療法学各論第4版」医学書院 配布資料 | | |
| 参考書 | 細田 多穂・他 編:「理学療法ハンドブック改訂第4版」協同医書出版 | | |
| オフィスアワー | 木曜日の16:10~16:30、職員室 メールアドレス:noguchi@tohaya.ac.jp, nakano@tohaya.ac.jp, yahara@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 急性期から生活期まで幅広い病期の実務を通して、在宅復帰までの運動療法を実技も含め実践的に提供する。また、臨床現場で行われている特殊な運動療法の理論と、さまざまな疾患におけるアプローチ方法について提供する。 | | |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 物理療法 | 科目担当者 | 市木 里佳 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 60時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 3単位 |
| 授業の概要と方法 | 生理学的背景を基盤として講義を進め、物理療法の適応と禁忌を学習していく。 実際の機器を使用し、その方法や禁忌なども合わせて理解すること、また実技も合わせて行う。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①物理的刺激が生体に与える反応を生理学的に説明できる。 ②物理療法の重要性を理解して、適応・禁忌について説明できる。 ③物理療法機器の使用ができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|------|----------------------|
| 第1回 | 総論：物理療法の定義、分類、適応と禁忌 | 第16回 | 寒冷療法各論：実施上の注意点（演習） |
| 第2回 | | 第17回 | 光線療法総論：紫外線、赤外線、レーザー |
| 第3回 | 総論：各種物理療法の生理学的効果と治療効果 | 第18回 | |
| 第4回 | | 第19回 | |
| 第5回 | 総論：病態の理解 | 第20回 | 電気刺激療法総論：物理学・生理学 |
| 第6回 | | 第21回 | |
| 第7回 | 温熱療法総論：熱エネルギー、電磁波 | 第22回 | 電気刺激療法各論：実施上の注意点（演習） |
| 第8回 | | 第23回 | |
| 第9回 | 温熱療法総論：音波 | 第24回 | 水治療法：物理学・生理学（演習含む） |
| 第10回 | | 第25回 | |
| 第11回 | 温熱療法各論（演習）：ホットパック、パ ラフィン、超短波、極超短波 | 第26回 | 牽引療法（演習） |
| 第12回 | | 第27回 | |
| 第13回 | 温熱療法各論（演習）：超音波 | 第28回 | その他の療法、まとめ |
| 第14回 | | 第29回 | |
| 第15回 | 寒冷療法総論 | 第30回 | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記70%、実技30%） | | |
| 準備学習 | 教科書を用いて、各療法の概論を中心に事前学習をしてください。 | | |
| 事後学習 | 生体に物理的エネルギーを与えることで、様々な生体反応を期待して行う療法です。操作法を間違えれば医療事故にも繋がりますので、操作法は勿論のこと禁忌と適応をしっかりと理解するように学習して下さい。 | | |
| 教科書 | 千住 秀明 監：「物理療法第2版」神稜文庫 | | |
| 参考書 | 配布資料 | | |
| オフィスアワー | 月～金曜日の16:10～17:30、職員室 メールアドレス：ichigi@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 各疾患における病態を説明して、生理的効果や禁忌事項を実技演習を通して理解度を上げていきたい。 どのような対象者にどの物理療法をどの程度提供し、どのような効果を期待するのかを考える機会とする。 | | |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 義肢装具学 | 科目担当者 | 矢原 友成 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 60時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 3単位 |
| 授業の概要と方法 | 装具、義肢とは何か。概要から代表的な装具、義肢を疾患も絡めて学んでいきます。また、より理解を深めるために動画視聴を交え講義を行います。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①義肢装具の定義や歴史及び目的が理解できる。 ②疾患に応じた的確な装具の選択、チェックアウトができる。 ③装具の製作実習を通して、構造や製作過程、適合判定などについて理解できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|------|-------------|
| 第1回 | 装具学総論 | 第16回 | 義肢学総論 |
| 第2回 | | 第17回 | 股義足 |
| 第3回 | 下肢装具①：部品 | 第18回 | 大腿義足（演習） |
| 第4回 | 下肢装具②：適合判定 | 第19回 | |
| 第5回 | 下肢装具③：適応疾患（演習） | 第20回 | 下腿義足・サイム義足 |
| 第6回 | | 第21回 | |
| 第7回 | 下肢装具④：靴の補正 | 第22回 | 義足異常歩行（演習） |
| 第8回 | | 第23回 | |
| 第9回 | 上肢装具と適応疾患（演習） | 第24回 | 義手 |
| 第10回 | | 第25回 | |
| 第11回 | 体幹装具と適応疾患（演習） | 第26回 | 義肢学 まとめ（演習） |
| 第12回 | | 第27回 | |
| 第13回 | 装具学まとめ | 第28回 | 総括 |
| 第14回 | | 第29回 | |
| 第15回 | 義肢学総論 | 第30回 | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）90% レポート10% | | |
| 準備学習 | 教科書を用いて、各回の内容の範囲を確認してください | | |
| 事後学習 | その日のうちに疑問点を解決できるように復習を忘れずにしてください。 | | |
| 教科書 | 高田 治実 監：「義肢・装具学 異常とその対応がわかる動画付き第2版」羊土社 | | |
| オフィスアワー | 木曜日の16:00～16:30、職員室 メールアドレス：yahara@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 切断者、装具使用者の動作分析の実務経験を有する。その経験から、基礎的な内容理解について指導する。 | | |

| | | | |
|----------|---|--------|------------|
| 授業科目 | 整形外科理学療法 I | 科目担当者 | 中野 浩志 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 60 時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2 単位 |
| 授業の概要と方法 | 適切な理学療法を実施するためには、必要とされる評価項目の選択と実施、その結果から問題点の抽出、障害の解釈、それらに基づいた運動療法が必要となる。本講義では骨折、脱臼、リウマチ、脊髄損傷を中心にこれらの一連の過程について基礎となる知識及び技術を習得する。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①骨折・脱臼およびリウマチ、脊髄損傷の病態について説明できる。 ②骨折・脱臼およびリウマチに対する理学療法の概要について説明できる。 ③脊髄損傷に対する理学療法について説明できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|---|--------|-----------------------------|
| 第 1 回 | 骨折脱臼総論 | 第 16 回 | 脊髄損傷に対する理学療法 |
| 第 2 回 | | 第 17 回 | (レベル別概要) |
| 第 3 回 | 運動器画像の読み方 (MRI、CT、X線、エコー) 含む | 第 18 回 | 脊髄損傷に対する機能障害の評価 (実技演習) |
| 第 4 回 | | 第 19 回 | |
| 第 5 回 | 上肢骨折に対する理学療法 (実技演習) | 第 20 回 | 脊髄損傷に対する能力障害・生活環境の評価 (実技演習) |
| 第 6 回 | | 第 21 回 | |
| 第 7 回 | 下肢骨折に対する理学療法 (実技演習) | 第 22 回 | 施設見学 (総合せき損センター) |
| 第 8 回 | | 第 23 回 | |
| 第 9 回 | 大腿骨頸部骨折に対する理学療法 | 第 24 回 | 脊髄損傷に対する理学療法 (実技演習) |
| 第 10 回 | リウマチに対する理学療法 | 第 25 回 | (起座・寝返り・座位バランス・起立訓練) |
| 第 11 回 | 骨折脱臼・疾患別まとめ | 第 26 回 | 脊髄損傷に対する理学療法 (実技演習) |
| 第 12 回 | 脊髄損傷 (疫学・病因・病態) | 第 27 回 | (トランスファー・車椅子操作) |
| 第 13 回 | | 第 28 回 | 脊髄損傷に対する理学療法 (実技演習) |
| 第 14 回 | 脊髄損傷 | 第 29 回 | (歩行訓練・応用歩行訓練・転倒訓練) |
| 第 15 回 | (自律神経障害・特殊な脊髄損傷) | 第 30 回 | 脊髄損傷まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記 50%、実技 20%)、小テスト 30% | | |
| 準備学習 | 各疾患の特徴を理解し、イメージ出来るようにしましょう。 | | |
| 事後学習 | 疾患を通してその病態・評価・理学療法の方法をイメージし、日々の復習を大事にしましょう。 | | |
| 教科書 | 千住 秀明 監：「運動器疾患の理学療法第 1 版」神陵文庫 神奈川リハビリテーション病院脊髄損傷マニュアル編集委員会：「脊髄損傷リハビリテーション マニュアル第 3 版」医学書院 | | |
| 参考書 | 岩崎 洋 編：「脊髄損傷理学療法マニュアル第 3 版」文光堂 | | |
| オフィスアワー | 水曜日の 16：00～17：00、職員室 メールアドレス：nakano@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 病院・クリニックでの臨床経験を活かし、骨折および脊髄損傷の病態について理解し、実技を交えた授業を行う。 | | |

| | | | |
|----------|---|--------|-------------|
| 授業科目 | 整形外科理学療法Ⅱ | 科目担当者 | 矢原 友成・市木 里佳 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 60時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 整形外科理学療法Ⅰに続き、これまで学んだ知識を集約し、各関節における機能解剖、評価方法、実際の理学療法を通じ、より実践的な理学療法の内容を学習する。またケースレポートを実施し、統合と解釈から問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案と実施までの理学療法の一連の過程を学習する。そのためにパワーポイントを用いたプレゼンテーションを中心にまずは理論を講義形式で学習し、実践できるように演習形式で実技を学習する。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①解剖学や運動学等で学習した知識・技術の復習をもとに機能解剖学について理解できる。 ②部位別・疾患別における各々の病態把握ができる。 ③評価・理学療法に関して確実に身につけることができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|--|--|
| 第1回 | 肩関節の機能解剖 (市木) | 第16回 (骨、筋、関節、メカニズム) (市木) |
| 第2回 | (骨、筋、関節、メカニズム) | 第17回 膝関節疾患の理学療法評価 (市木) |
| 第3回 | 肩関節疾患の理学療法評価 (市木) 画像所見 (MRI、CT、X線、エコー) 含む | 第18回 画像所見 (MRI、CT、X線、エコー) 含む (実技演習) |
| 第4回 | (実技演習) | 第19回 膝関節疾患の理学療法 (市木) |
| 第5回 | 肩関節疾患の理学療法 (市木) | 第20回 基礎 疾患別応用 (実技演習) |
| 第6回 | 基礎 疾患別応用 (実技演習) | 第21回 脊柱の機能解剖 (矢原) |
| 第7回 | 肩関節疾患の理学療法 (市木) | 第22回 (骨、筋、関節、メカニズム) |
| 第8回 | (ケーススタディ) | 第23回 脊柱の評価 画像所見 (MRI、CT、X線、エコー) 含む (実技演習) (矢原) |
| 第9回 | 股関節の機能解剖 (矢原) | 第24回 エコー) 含む (実技演習) (矢原) |
| 第10回 | (骨、筋、関節、メカニズム) | 第25回 脊柱疾患の理学療法評価 (矢原) |
| 第11回 | 股関節の評価 (矢原) | 第26回 理学療法評価、プログラム立案 (実技演習) |
| 第12回 | 画像所見 (MRI、CT、X線、エコー) 含む (実技演習) | 第27回 脊柱疾患の理学療法 (矢原) |
| 第13回 | 股関節疾患の理学療法 (矢原) | 第28回 基礎 疾患別応用 (実技演習) |
| 第14回 | 基礎 疾患別応用 (実技演習) | 第29回 総括 (矢原、市木) |
| 第15回 | 膝関節の機能解剖 (市木) | 第30回 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記) 90%、レポート 10% | |
| 準備学習 | 整形外科疾患の知識や筋・骨関節の解剖を復習してください。 | |
| 事後学習 | 多様な思考や解釈できる学習をして欲しい。各実習に向け臨時的な知識・技術を習得すること。 | |
| 教科書 | 奈良 勲 監：「標準理学療法学運動療法学各論第4版」医学書院 | |
| 参考書 | 配布資料 | |
| オフィスアワー | 木曜日の16:00~16:30、職員室 メールアドレス：yahara@tohaya.ac.jp、 ichigi@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 整形外科における理学療法士の実務を通して、臨床で担当する機会の多い各疾患における病態を学び、評価、アプローチ方法について提供する。 | |

| | | | |
|----------|---|--------|------------|
| 授業科目 | 中枢神経障害理学療法 I | 科目担当者 | 竹本 美咲 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 60 時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2 単位 |
| 授業の概要と方法 | 脳血管障害は理学療法の主要な対象疾患であり、基礎的な脳の機能解剖をはじめ、脳血管障害の分類や症状、一般的治療、評価、診断について理解する必要がある。本科目では、写真や動画、模型などを積極的に用いながら講義をすすめ、また隔週での小テストを行い脳血管障害の理学療法を行うための基盤となる知識を構築していく。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①脳に興味を持ち、脳の理解を深めることができる。 ②脳血管障害の基礎を理解できる。 ③中枢神経障害理学療法Ⅱへと繋がる知識を身に付けることができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|--|----------------------------------|
| 第 1 回 | 脳の機能解剖 : 大脳 (演習) | 第 16 回 脳卒中の概要 : くも膜下出血 (演習) |
| 第 2 回 | 脳の機能解剖 : 大脳基底核 (演習) | 第 17 回 脳卒中の概要 : 高次脳機能障害 (演習) |
| 第 3 回 | 脳の機能解剖 : 大脳辺縁系 間脳 (演習) | 第 18 回 脳卒中の概要 : 頭部外傷 認知症 (演習) |
| 第 4 回 | 脳の機能解剖 : 小脳・脳幹 (演習) | 第 19 回 脳卒中の概要 : まとめ (演習) |
| 第 5 回 | 脳の機能解剖 : 脊髄・脳循環 (演習) | 第 20 回 |
| 第 6 回 | 脳の機能解剖 : 伝導路 (演習) | 第 21 回 脳卒中の評価 : 一般的評価 (実技演習) |
| 第 7 回 | 脳の機能解剖 : 血管系 (演習) | 第 22 回 脳卒中の評価 : 総合評価 (実技演習) |
| 第 8 回 | | 第 23 回 脳卒中の評価 : 脳画像 (CT) (演習) |
| 第 9 回 | 脳の機能解剖 : まとめ (演習) | 第 24 回 脳卒中の評価 : 脳画像 (MRI) (演習) |
| 第 10 回 | | 第 25 回 脳卒中の評価 : 脳画像の診かた (演習) |
| 第 11 回 | 脳卒中の概要 : 総論 (演習) | 第 26 回 |
| 第 12 回 | 脳卒中の概要 : 脳出血 (演習) | 第 27 回 脳卒中の評価 : まとめ (演習) |
| 第 13 回 | | 第 28 回 |
| 第 14 回 | 脳卒中の概要 : 脳梗塞 (演習) | 第 29 回 |
| 第 15 回 | | 第 30 回 脳卒中の評価 : まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期 (筆記) 70%、小テスト 30% | |
| 準備学習 | 教科書の内容を事前に熟読しておいてください。 | |
| 事後学習 | 隔週での小テストを実施するため、毎回の復習を行いましょう。 | |
| 教科書 | 医療情報科学研究所編:「病気がみえる Vol.7 脳・神経第2版」メディックメディア 配布資料 | |
| 参考書 | 酒向 正春・大村 優慈 著:「リハに役立つ脳画像 改訂第2版」MEDICALVIEW | |
| オフィスアワー | 金曜日の 16:10~17:30、職員室 メールアドレス: takemoto@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 国家試験・臨床に対応できる知識を身に付けるため、基盤となる機能解剖の習得を徹底し、臨床像と脳画像との関連がイメージできる授業を行う。 | |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 中枢神経障害理学療法Ⅱ | 科目担当者 | 竹本 美咲 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 60時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 脳血管障害はその病型や病期によって関わりが異なる。脳血管障害理学療法Ⅰで得た基礎知識を基に、病型別・病期別のリスク管理や実際の理学療法、生活支援などを学ぶ。 本科目では、実技やケーススタディ、ディスカッションを実施し、脳血管障害に対するリハビリテーションの理解を深め臨床力を構築していく。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ① 脳血管障害の障害像をイメージできる。 ② 病型別・病期別の脳血管障害のリハビリテーションを理解できる。 ③ 症例ごとの違いを理解し、適切な理学療法を考案・実施することができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|------|----------------------|
| 第1回 | 総論 | 第16回 | 回復期の理学療法⑥歩行（理学療法の実際） |
| 第2回 | 急性期の理学療法①病型別治療 | 第17回 | (演習) |
| 第3回 | 急性期の理学療法②リスク管理（演習） | 第18回 | 回復期の理学療法⑦歩行（異常歩行） |
| 第4回 | | 第19回 | (演習) |
| 第5回 | 急性期の理学療法③体位変換（演習） | 第20回 | ケーススタディ① |
| 第6回 | 急性期の理学療法④関節可動域練習 (演習) | 第21回 | 統合と解釈 (演習) |
| 第7回 | | 第22回 | ケーススタディ② |
| 第8回 | 急性期の理学療法⑤離床（演習） | 第23回 | 問題点抽出、ゴール設定 (演習) |
| 第9回 | 回復期の理学療法①寝返り（演習） | 第24回 | ケーススタディ③ |
| 第10回 | 回復期の理学療法②起き上がり（演習） | 第25回 | プログラム立案、プログラム実施（演習） |
| 第11回 | 回復期の理学療法③座位（演習） | 第26回 | 生活期の理学療法（片麻痺のADL） |
| 第12回 | 回復期の理学療法④立ち上がり（演習） | 第27回 | 合併症（嚥下障害と上肢障害） |
| 第13回 | 回復期の理学療法⑤立位（演習） | 第28回 | 外傷性脳損傷 |
| 第14回 | 回復期の理学療法⑥歩行（下肢装具） (演習) | 第29回 | まとめ |
| 第15回 | | 第30回 | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記70%、実技30%） | | |
| 準備学習 | 教科書や資料に目を通し、脳血管疾患がイメージできるようにしましょう。 | | |
| 事後学習 | 積極的・主体的なディスカッションを行い、脳血管障害の障害像や臨床推論を理解するよう努めましょう。 | | |
| 教科書 | 千田 富義・高見 彰淑・他 編：「リハ実践テクニック 脳卒中 改訂第3版」MEDICALVIEW | | |
| 参考書 | 特になし | | |
| オフィスアワー | 金曜日の16:10~17:30、職員室 メールアドレス：takemoto@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 脳血管障害の各時期で具体的な症例を提示し、理学療法評価や脳画像など様々な情報を基に患者像を把握、個々の問題点を解決するための理学療法についてディスカッションし、臨床的思考を深めていく。 | | |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 神経・筋障害理学療法 | 科目担当者 | 竹本 美咲 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 60時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 神経変性疾患の多くは複雑な障害像を呈することが知られており、それぞれの疾患における病態や病理所見、代表的な症状、理学療法などを理解する必要がある。この科目では、パーキンソン病など主要な神経変性疾患を中心に、グループ学習・ディスカッションを積極的に行いながら疾患に対する理解をより深めていくと共に理学療法の基礎を学ぶ。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①主要な神経変性疾患の病態や症状を理解できる。 ②病期別のリハビリテーションを理解できる。 ③疾患についての知識を共有することができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|------|--------------------------------------|
| 第1回 | 神経筋障害総論 | 第16回 | 運動失調症 まとめ |
| 第2回 | パーキンソン病とは | 第17回 | 筋萎縮性側索硬化症とは |
| 第3回 | パーキンソン病の治療 | 第18回 | 筋萎縮性側索硬化症 (グループ演習) |
| 第4回 | パーキンソン病とは・治療 (グループ演習) | 第19回 | 筋萎縮性側索硬化症 まとめ |
| 第5回 | パーキンソン病の評価 | 第20回 | 多発性硬化症 |
| 第6回 | パーキンソン病の評価 (実技演習) | 第21回 | 多発性硬化症 (グループ演習) |
| 第7回 | パーキンソン病の理学療法 | 第22回 | 筋ジストロフィー |
| 第8回 | パーキンソン病の理学療法 (実技演習) | 第23回 | 筋ジストロフィー (グループ演習) |
| 第9回 | パーキンソン病 まとめ | 第24回 | ギランバレー症候群・重症筋無力症 |
| 第10回 | 運動失調症とは | 第25回 | ギランバレー症候群・重症筋無力症 (グループ演習) |
| 第11回 | 運動失調症とは (グループ演習) | 第26回 | 多発性硬化症・筋ジストロフィー・ギランバレー症候群・重症筋無力症 まとめ |
| 第12回 | 運動失調症の評価 | 第27回 | 多発筋炎などその他の疾患 |
| 第13回 | 運動失調症の評価 (実技演習) | 第28回 | その他の疾患 (グループ演習) |
| 第14回 | 運動失調症の理学療法 | 第29回 | まとめ |
| 第15回 | 運動失調症の評価 (実技演習) | 第30回 | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記) 70%、小テスト 30% | | |
| 準備学習 | 各疾患の病態や経過など、事前に教科書を熟読しておいてください。 | | |
| 事後学習 | 単元ごとに小テストを実施します。各疾患の障害像をイメージし、それぞれの違いの理解に努めてください。 | | |
| 教科書 | 医療情報科学研究所 編：「病気がみえる Vol.7 脳・神経第2版」メディックメディア | | |
| 参考書 | 特になし | | |
| オフィスアワー | 金曜日の16:10~17:30、職員室 メールアドレス：takemoto@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 経過と共に心身の健康度が低下する変性疾患に対し、理学療法を駆使してADL、QOLをいかに維持するか、患者の心理、家族の思いにどう寄り添うか学生と考える。 | | |

| | | | |
|----------|--|--------|-------------|
| 授業科目 | 発達障害理学療法 | 科目担当者 | 近藤 直樹／松坂 洋一 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期/30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 小児期の運動障害および発達障害に対する理学療法の基礎を学習する。脳性麻痺児・者を中心にその他の肢体不自由児の障害特性や評価方法の実際に至るまでの発達学的な考え方及び知識を深める。同時にチーム医療や小児期の福祉制度についても演習をまじえながら学習する。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他(中間テスト) | | |
| 到達目標 | ① 小児療育の概要や脳性麻痺の疾患特性について知識を深めることができる。 ② 脳性麻痺の理学療法評価・治療について学習することができる。 ③ 重症心身障害の理学療法評価・治療について学習することができる。 ④ 小児整形外科疾患の理学療法評価・治療について学習することができる。 ⑤ 小児整形外科治療について学習することができる。 ⑥ 小児神経筋疾患の理学療法評価・治療について学習することができる。 ⑦ 自閉症スペクトラム症など発達障害における理学療法評価・治療について学習することができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|------------------|
| 第1回 | 発達障害理学療法 概論 | (担当:近藤 直樹) |
| 第2回 | 脳性麻痺総論(定義, 病型分類, 麻痺部位, 二次障害) | (担当:近藤 直樹) |
| 第3回 | 理学療法評価①:小児理学療法で対象とする理学療法評価 | (担当:近藤 直樹) |
| 第4回 | 理学療法評価②:脳性麻痺に対する理学療法評価 | (担当:近藤 直樹) |
| 第5回 | 脳性麻痺の理学療法:痙直型 | (担当:近藤 直樹) |
| 第6回 | 脳性麻痺の理学療法:アテトーゼ型 | (担当:近藤 直樹) |
| 第7回 | 重症心身障害の理学療法 | (担当:近藤 直樹) |
| 第8回 | 中間テスト | |
| 第9回 | 小児整形外科疾患の理学療法 | (担当:松坂 洋一) |
| 第10回 | 小児整形外科治療における理学療法 | (担当:松坂 洋一) |
| 第11回 | 小児神経筋疾患の理学療法:筋ジストロフィー | (担当:松坂 洋一) |
| 第12回 | 小児神経筋疾患の理学療法:脊髄性筋萎縮症 | (担当:松坂 洋一) |
| 第13回 | 発達障害の理学療法:自閉スペクトラム症等 | (担当:松坂 洋一) |
| 第14回 | 演習/症例検討①:脳性麻痺の病型と麻痺部位の分類 | (担当:松坂 洋一 近藤 直樹) |
| 第15回 | 演習/症例検討②:脳性麻痺の重症度分類 | (担当:松坂 洋一 近藤 直樹) |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験(筆記)90%、授業中の取組み10% | |
| 準備学習 | 授業前に教科書の範囲を熟読しておくこと | |
| 事後学習 | 授業中に配布する資料を復習しておくこと | |
| 教科書 | 細田 多穂・他:「小児理学療法学テキスト第3版」南江堂 授業の中で、適宜、資料を配布する | |
| 参考書 | | |
| オフィスアワー | 授業終了後、講師控室 メールアドレス:kita-reha@tohaya.ac.jp(学院窓口) | |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 内部疾患理学療法Ⅱ | 科目担当者 | 野口 敦 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 60時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 内部疾患に対して適切な理学療法を実施するためには、必要とされる評価項目の選択と実施、その結果から問題点の抽出、障害の解釈、それらに基づいた運動療法が必要となる。 本授業では、代謝疾患、心疾患、血管疾患、腎疾患、がんを中心にこれらの一連の過程について基礎となる知識及び技術を習得する。方法は、教科書、配布資料を中心に授業を行い、他にレポート課題および演習を行う。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 心臓・代謝・血管・腎・がんに対する評価と理学療法について理解できる。 2 基本的な評価法、理学療法治療を理解し、臨床応用できる。 3 理学療法実施時のリスク管理を学ぶことができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|---|------|-----------------------|
| 第1回 | 肥満、メタリックシンドロームの病態について | 第16回 | 各種不整脈の特徴とPTの対応(演習) |
| 第2回 | メタリックシンドロームの評価と理学療法(演習) | 第17回 | 急性心筋梗塞の各検査(画像)・評価 |
| 第3回 | 糖尿病の病態、薬理について | 第18回 | 心肺運動負荷試験 |
| 第4回 | 糖尿病の障害理解と運動 | 第19回 | 急性期心臓リハと理学療法 |
| 第5回 | 糖尿病の理学療法(演習) | 第20回 | 急性期心臓リハと理学療法(演習) |
| 第6回 | 腎疾患・腎機能障害の病態、薬理 | 第21回 | 回復期心臓リハと理学療法 |
| 第7回 | 腎機能障害の評価と理学療法(演習) | 第22回 | 回復期心臓リハと理学療法(演習) |
| 第8回 | がんの病態、薬理、治療における有害事象 | 第23回 | 心不全の病態、薬理、代償機構の破綻 |
| 第9回 | がんの理学療法評価(画像所見)(演習) | 第24回 | 心不全患者の理学療法(演習) |
| 第10回 | がんの理学療法(演習) | 第25回 | 心肺運動負荷試験の実際(演習) |
| 第11回 | 心臓の機能解剖 | 第26回 | 末梢動脈疾患の病態、画像、治療 |
| 第12回 | 心臓の機能解剖 | 第27回 | 大動脈疾患の病態、画像、治療 |
| 第13回 | 急性心筋梗塞・狭心症の病態、治療、薬理 | 第28回 | 動脈疾患の評価・理学療法(演習) |
| 第14回 | 心筋梗塞・狭心症の心電図(演習) | 第29回 | 講義まとめ(NBM、物語に基づく理学療法) |
| 第15回 | 各種不整脈の特徴とPTの対応(演習) | 第30回 | 演習まとめ(内部疾患における他疾患併存) |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験(筆記)40%、小テスト40%、課題20% | | |
| 準備学習 | 事前に教科書に目を通す。 | | |
| 事後学習 | わからないところは解剖学、生理学の教科書を再度確認する。 | | |
| 教科書 | 高橋 哲也 編:「最新 理学療法学講座 内部障害理学療法学」 医歯薬出版 | | |
| 参考書 | 細田 多穂 監:「内部障害理学療法学テキスト 第4版」 南江堂 | | |
| オフィスアワー | 火、水、金曜日の16:30~17:30、職員室 メールアドレス:noguchi@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 様々な症状を有する循環器疾患、その他の内部疾患について、各病期における治療法や運動療法について運動生理学をベースに実技も含め実践的に提供する。 | | |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 高齢者理学療法学 | 科目担当者 | 野口 敦 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 我が国の高齢化率は、世界に類を見ない速さで進行している。総人口の30%が高齢者となる時代が迫ってくる。理学療法の臨床においても高齢の対象者は、益々増加して遭遇する頻度は多い。 ここでは、高齢者の特徴を始めとして、複合疾患を有する病態像を理解する。また高齢者の心理など精神面についてその特徴を理解する。 なお、課題を提示し、グループ毎にまとめ、プレゼンテーション発表を行う。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①高齢者の特徴を理解することができる。 ②高齢者の心身機能の変化を理解することができる。 ③高齢期の理学療法を理解し実施できるようになる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | 総論 : 高齢者の定義と現状 |
| 第2回 | 高齢者の特徴① : 老年症候群 |
| 第3回 | 高齢者の特徴② : 老化、高齢者にみられる代表的な症候 |
| 第4回 | 高齢者の特徴③ : 廃用症候群、寝たきり |
| 第5回 | 高齢者の特徴④ : サルコペニアとフレイル、栄養管理(リハビリテーション栄養含む) |
| 第6回 | グループワーク(討議・演習) 各テーマを提示、担当を決め、調べる |
| 第7回 | グループワーク(討議・演習) 各テーマについて、調べた内容を集約し、発表資料を作成する |
| 第8回 | 発表 7分程度の発表、質疑応答8分程度、最大15分程度の内容 |
| 第9回 | 加齢に伴う身体的変化 : 呼吸器系・循環器系・消化吸収機能・排泄機能・運動機能・感覚機能・神経機能・他 |
| 第10回 | 加齢に伴う変化① : 体力 体力テスト(演習) |
| 第11回 | 加齢に伴う変化② : 歩行、心理 |
| 第12回 | 高齢者の評価 : 運動機能(筋力、歩行能力、バランス機能)、生活機能(ADL) (演習) |
| 第13回 | 高齢者に対する理学療法① (演習) 筋力トレーニング、バランストレーニング、持久力・歩行トレーニング |
| 第14回 | 高齢者に対する理学療法② (演習) 認知症、コグニサイズ、回想法 |
| 第15回 | その他の高齢者に対する理学療法: 低栄養に対して、誤嚥に対して まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験(筆記)70% 提出物10% 発表(内容を含む)20% |
| 準備学習 | 事前に教科書に目を通す。 |
| 事後学習 | 高齢者に特徴的な生理学的変化をしっかりと復習する。 |
| 教科書 | 池添 冬芽 編:「高齢者理学療法学」メジカルビュー社 |
| 参考書 | 島田 裕之・他 編:「高齢者理学療法学」医歯薬出版 |
| オフィスアワー | 火、水、金曜日の16:30~17:30、職員室 メールアドレス:noguchi@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 高齢者の特徴を紹介して、理学療法の専門的観点から高齢者理学療法の介入方法を講義演習を通じて授業を行う。 |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | スポーツ理学療法 | 科目担当者 | 市木 里佳 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | スポーツ場面におけるチーム医療の中で理学療法士が果たす役割を学習する。医療機関におけるリハビリテーション、およびスポーツ現場におけるアスレティックリハビリテーションを学習する。スポーツ外傷・障害に限らず、骨・関節疾患の評価を学習し、理学療法プログラムを立案・実施する技術を学習する。パラスポーツの現状やパラアスリートとの関わり方についても学習する。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①スポーツ選手を取り巻く環境を理解し、理学療法士の役割について説明できる。 ②関節および疾患ごとに、適切な評価を実施できる。 ③骨・関節疾患を評価し、理学療法を実施するために必要な解剖について説明できる。 ④バイオメカニクスとスポーツ理学療法との関連について説明できる。 ⑤スポーツ選手の体調の調整および再調整方法を理解できる。 ⑥パラスポーツについての理解と理学療法士との関わり方について理解する。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | スポーツ理学療法 総論 |
| 第2回 | スポーツ外傷・障害の理解 |
| 第3回 | 上肢のスポーツ外傷の発生機序と理学療法（実技演習） |
| 第4回 | 下肢のスポーツ外傷の発生機序と理学療法（実技演習） |
| 第5回 | 体幹のスポーツ外傷の発生機序と理学療法（実技演習） |
| 第6回 | 上肢のスポーツ障害の発生機序と理学療法（実技演習） |
| 第7回 | 下肢のスポーツ障害の発生機序と理学療法（実技演習） |
| 第8回 | 体幹のスポーツ障害の発生機序と理学療法（実技演習） |
| 第9回 | 成長期のスポーツ外傷・障害（実技演習） |
| 第10回 | テーピング総論 |
| 第11回 | テーピング演習①（非伸縮テープ・伸縮テープ）（実技演習） |
| 第12回 | テーピング演習②（キネシオテープ）（実技演習） |
| 第13回 | 女性アスリートへの対応と特徴 |
| 第14回 | 障がい者スポーツ総論 |
| 第15回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記70%、実技30%） |
| 準備学習 | スポーツ整形外科や整形外科理学療法および理学療法評価学の知識を復習してください。 |
| 事後学習 | バイオメカニクスを中心に他科目との繋がりを理解し、評価方法や理学療法の学習をしてください。 |
| 教科書 | 陶山 哲夫・赤坂 清和：「スポーツ理学療法学—動作に基づく外傷・障害の理解と評価・治療の進め方—改訂第2版」MEDICAL VIEW |
| 参考書 | 配布資料 |
| オフィスアワー | 月～金曜日の16:10～17:30、職員室 メールアドレス：ichigi@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 急性期からスポーツ復帰までの流れの他、理学療法評価および理学療法の提供における現場経験を交えて講義する。 |

| | | | |
|----------|---|--------|------------|
| 授業科目 | 日常生活活動 I | 科目担当者 | 市木 里佳 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 30 時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2 単位 |
| 授業の概要と方法 | 人と向かい合うことを基本とする理学療法において、日常生活活動(ADL)は大きな領域を占める。その範囲は寝返りや起き上がりなどの基本動作をはじめ、食事や排泄など生命維持活動、家事や交通手段の利用などの社会的活動、生活の質(QOL)、ADL 支援機器など多岐にわたる。ここではパワーポイントを用いたプレゼンテーションを中心に講義形式で ADL の基礎知識を学習する。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①ADL の概念と範囲を理解することができる。 ②ICIDH と ICF の違いをすることが理解できる。 ③ADL の評価の種類と内容を説明することができる。 ④生活場面における基本動作の重要性を理解することができる。 後期に受講する日常生活活動Ⅱへ繋がるよう障害と ADL との関連を正しくとらえ、各個人の生活を中心とした理学療法支援を行っていくという視点を身につけて下さい。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第 1 回 | 総論 (概念、範囲、手段的日常生活活動) |
| 第 2 回 | ADL と障害(ICIDH・ICF) |
| 第 3 回 | ADL と QOL (健康関連 QOL : HRQOL など) |
| 第 4 回 | セルフケア |
| 第 5 回 | ADL 評価の総論 |
| 第 6 回 | ADL 評価 (BI、FIM など) |
| 第 7 回 | 姿勢 (臥位、座位、立位) |
| 第 8 回 | 床上動作 ① 総論 |
| 第 9 回 | 床上動作 ② (寝返り、起き上がり、立ち上がり) |
| 第 10 回 | 移動・移乗動作 |
| 第 11 回 | 歩行補助具①杖・歩行器 |
| 第 12 回 | 歩行補助具②車椅子 |
| 第 13 回 | バリアフリーとユニバーサルデザイン (社会環境、住環境、家屋改造) |
| 第 14 回 | リハビリテーション関連機器 (自助具、日常生活用具、支援機器) |
| 第 15 回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記) 100% |
| 準備学習 | 教科書の総論を中心に事前学習してください。 |
| 事後学習 | 教科書や配布資料を用いた講義内容の復習。到達目標の内容を理解することを意識して学習してください。 |
| 教科書 | 鶴見 隆正・他 編：「標準理学療法学日常生活活動学・生活環境学 第 6 版」医学書院 |
| 参考書 | 配布資料 |
| オフィスアワー | 月～金曜日の 16:10～17:30、職員室 メールアドレス：ichigi@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 対象者の生活・人生を考えながら学ぶ科目であることを常に指導していく。また、イメージしやすいよう ADL への介入が必要であった具体例なども踏まえて講義する。 |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 日常生活活動Ⅱ | 科目担当者 | 大島 秀明 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 日常生活活動Ⅰで学んだ基本動作をはじめ、食事や排泄など生命維持活動、家事や交通手段の利用などの社会的活動の基礎知識をもとに、その実際と指導法を実技中心に経験し修得する。また臨床現場で活用できるように各対象者の疾患に対応した支援と指導の方法について学習する。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①日常生活活動Ⅰで修得した知識に基づき実践することができる。 ②ADL評価を的確に実施することができる。 ③ADLに影響をおよぼす代表的な疾患の特徴を把握しそれぞれの生活場面を想起し支援と指導ができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | ADL評価の実際（FIM、BI）（演習） |
| 第2回 | 床上動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり）（演習） |
| 第3回 | 基本動作（移動）の理論 |
| 第4回 | 基本動作（移動）の指導法（演習） |
| 第5回 | 基本動作（移乗）の理論と指導法（演習） |
| 第6回 | セルフケア（食事、排泄、更衣、整容、入浴）の実際（演習） |
| 第7回 | 整形外科疾患（リウマチ）のADL指導と介助（演習） |
| 第8回 | 整形外科疾患（THA）のADL指導と介助（演習） |
| 第9回 | 切断のADL指導と介助（演習） |
| 第10回 | 脊損のADL指導と介助（演習） |
| 第11回 | 片麻痺のADL指導と介助（演習） |
| 第12回 | 生活環境の評価（演習） |
| 第13回 | 住宅改修・環境調整（演習） |
| 第14回 | バリアフリーとユニバーサルデザイン（社会環境、住環境、家屋改造）の実際（演習） |
| 第15回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記70%、実技30%） |
| 準備学習 | 日常生活活動Ⅰの授業内容と合わせ、疾患別では関連する科目の内容を確認すること |
| 事後学習 | 理解の習熟のため、内容に沿った実技練習を行うこと |
| 教科書 | 鶴見 隆正・他 編：「標準理学療法学日常生活活動学・生活環境学 第6版」医学書院 配布資料 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 月・火曜日の16:00～17:30、職員室 メールアドレス：oshima@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 対象者の生活・人生を考えながら学ぶ科目であることを常に指導していく。また、イメージしやすいようADLへの介入が必要であった具体例なども踏まえて講義する。 |

| | | | |
|----------|---|--------|---------------------------------|
| 授業科目 | 地域理学療法実習 | 科目担当者 | 矢原友成・大島秀明・中野浩志 竹本美咲・野口敦・市木里佳 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 45時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 単位 |
| 授業の概要と方法 | 通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの現場を、見学を通して経験することで対象者の状態や地域での生活支援を把握するとともに、対象者や施設・医療スタッフに対して適切な態度で接すること、診療チームの一員としての理学療法士としての役割について学ぶ。学内演習における理学療法評価学や理学療法治療学において得られた知識を、実際の現場で見学し、臨床実習に繋げ、問題解決能力を養うものである。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①対象者とのコミュニケーションを経験する。 ②スタンダードプリコーションが実施できる。 ③通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法を見学する。 ④通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法の一部を経験する。 ⑤ケアプラン立案過程を見学する。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| | 地域実習オリエンテーション (医療倫理、理学療法における倫理、安全管理、感染予防、個人情報保護、情報管理、事故・過誤の対応、対人関係技法、医療面接) 【 地域実習 】 ・情報収集 ・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割の理解 ・多職種による協働 ・ケアプラン作成 令和6年11月11日(月)～15日(金)の5日間を実習期間とし、各施設で見学実習を実施する。 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 理学療法実習チェックリスト、提出物などを総合的に評価する。 |
| 準備学習 | 地域実習録を熟読してください。 |
| 事後学習 | コミュニケーションスキルやソーシャルスキルを学び理学療法の一部を経験し、今後の学習に活用してください。 |
| 教科書 | 特になし。実習録を活用し概要説明する。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 実践に即した実習のため、臨床実習指導者と連携して指導を行う。 |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 理学療法研究入門 | 科目担当者 | 野口 敦 |
| 学年 | 3年 | 学期/時間数 | 前期 / 45時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | ①適切な理学療法を探索するための研究方法を学ぶ。 ②理学療法における興味ある分野・領域の研究論文を検索・読解する。 ③医療統計の基礎を学ぶ。 ④論文作成や学会発表におけるマナーを学び、実際にポスター発表を行う。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他(ポスター発表) | | |
| 到達目標 | ①理学療法における研究の意義を理解できる。 ②適切なキーワードを用い、興味ある分野・領域での文献検索ができる。 ③研究に必要な統計学手法を選択できる。 ④学会等における口述発表、ポスター発表の方法を学び、ポスター発表のための一連の流れを修得できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|------|----------------|
| 第1回 | 研究の意義、目的 | 第16回 | ポスター発表・口述発表の方法 |
| 第2回 | 研究テーマを探す、先行研究の検索 | 第17回 | 抄録およびポスターの作成 |
| 第3回 | 研究デザイン | 第18回 | |
| 第4回 | PECOとPICO | 第19回 | |
| 第5回 | 測定データ収集のための知識 | 第20回 | |
| 第6回 | 研究計画書の作成 | 第21回 | |
| 第7回 | 記述統計学と推測統計学、尺度水準 | 第22回 | |
| 第8回 | 2つの変数の解析手法 | 第23回 | |
| 第9回 | グラフ・表の作成 | | |
| 第10回 | 結果の解釈 | | |
| 第11回 | 3つ以上の変数の解析手法 | | |
| 第12回 | グラフ・表の作成 | | |
| 第13回 | 結果の解釈 | | |
| 第14回 | 文献抄読 (演習) | | |
| 第15回 | 抄録・論文の作成 | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | ポスター発表および内容 70% 抄録提出および内容 30% | | |
| 準備学習 | 統計学を再度学習し、教科書を事前に目を通す。 | | |
| 事後学習 | 論理的に文章にまとめ、伝えることができるように文献をしっかりと読む。 ポスター発表のためのデータの収集方法を検討する。 | | |
| 教科書 | 配布資料 | | |
| 参考書 | | | |
| オフィスアワー | 火、水、金曜日の16:30~17:30、職員室 メールアドレス: noguchi@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | エビデンスに基づいた理学療法研究の手法を学ぶ機会とする。 | | |

| | | | |
|----------|---|--------|---------------------------------|
| 授業科目 | 理学療法卒業演習 | 科目担当者 | 中野浩志・大島秀明・矢原友成 竹本美咲・野口敦・市木里佳 |
| 学年 | 3年 | 学期/時間数 | 後期 / 90時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 3単位 |
| 授業の概要と方法 | 理学療法の基礎知識と専門知識を整理することで国家試験対策としても重要な意味を成している。 よって、定期的に国試関連試験を行い、その到達度を確認する。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | 卒業を判定する国試実力試験に向けての勉強方法を確立し、国家試験に合格するレベルまで達する。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|---|
| 第1回 | 国家試験オリエンテーション |
| 第2回 | 個人学習の勉強方法について |
| 第3回 | 基礎知識の記憶（共通科目） |
| 第4回 | 基礎知識の記憶（専門科目） |
| 第5回 | 基礎知識の理解（共通科目） |
| 第6回 | 基礎知識の理解（専門科目） |
| 第7回 | グループ学習の勉強方法について |
| 第8回 | 系統別学習に対するオリエンテーション |
| 第9回 | 応用力の向上（運動器） |
| 第10回 | 応用力の向上（中枢・神経筋） |
| 第11回 | 応用力の向上（呼吸・循環器） |
| 第12回 | 実地対策 |
| 第13回 | 苦手分野対策（共通科目） |
| 第14回 | 苦手分野対策（専門科目） |
| 第15回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 適宜実施する国試関連試験の結果を基に総合的に評価する。 |
| 準備学習 | 不明な時は指導教官に尋ね指導を仰ぐようにすること。 |
| 事後学習 | 不明な点が出た際には、その都度解決すること。 |
| 教科書 | 医療情報科学研究所：「クエスチョン・バンク理学療法士 国家試験問題解説 共通問題」メディックメディア 医療情報科学研究所：「クエスチョン・バンク理学療法士 国家試験問題解説 専門問題」メディックメディア 医歯薬出版：「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学」医歯薬出版 医歯薬出版：「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学」医歯薬出版 医歯薬出版：「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎PT学」医歯薬出版 医歯薬出版：「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 障害別PT治療学」医歯薬出版 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 随時可能 |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 国家試験対策としての学習方法の指導を行う。 |

| | | | |
|----------|--|--------|---------------------------------|
| 授業科目 | 臨床実習 | 科目担当者 | 中野浩志・大島秀明・矢原友成 竹本美咲・野口敦・市木里佳 |
| 学年 | 3年 | 学期/時間数 | 前期 / 855時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 19単位 |
| 授業の概要と方法 | 臨床実習は学院で修得した知識や技能を手がかりに、学内演習では経験できない実践環境でより一層の理解を深めるための教育機会である。実習指導者の教育的支援の下で対象者のためを考え、対象者と実習指導者から実践を通して、理学療法士としてのプロフェッショナリズムを学ぶ。実習構成は評価実習と総合臨床実習とし、それぞれの到達目標を達成するために、臨床現場における実習を実施する。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | 理学療法士となるために必要な知識、技術を習得し、合わせて医療従事者としての豊かな人格を育成する。評価実習では、対象者への適切なリスク管理、検査測定技術を学ぶ。また目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける。 総合臨床実習では、評価実習で学んだことを基に、プログラム実施を通じて治療・指導・援助ができる技能を身につける。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| | <p>臨床実習オリエンテーション (医療倫理、理学療法における倫理、安全管理、感染予防、個人情報保護、情報管理、事故・過誤の対応)</p> <p>【評価実習】 (検査・測定、問題点の抽出、全体像の把握、目標の設定、治療プログラム立案、記録・報告)</p> <p>令和6年 4月 8日(月)～ 4月 27日(土) 3週間</p> <p>CBT 令和6年 4月 3日(水) (実習前知識技能評価)</p> <p>Pre OSCE 令和6年 4月 4日(木) (実習前評価)</p> <p>Post OSCE 令和6年 5月 2日(木) (実習後評価)</p> <p>【総合臨床実習】 (検査・測定、問題点の抽出、全体像の把握、目標の設定、治療プログラム立案、他部門との連携、記録・報告)</p> <p>第1期： 令和6年 5月 13日(月)～ 7月 6日(土) 8週間</p> <p>第2期： 令和6年 7月 15日(月)～ 9月 7日(土) 8週間</p> <p>Pre OSCE 令和6年 5月 9日(木) (実習前評価)</p> <p>Post OSCE 令和6年 9月 9日(月) (実習後評価)</p> |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 診療参加型臨床実習チェックリスト、提出物などを総合的に評価する。 |
| 準備学習 | 学内で学んできた基礎的な知識をもとに、理学療法の臨床実践をしっかりと学んでください。 臨床で経験するすべての事柄が貴重な学習の場であることを理解して真剣に取り組むことを期待します。 |
| 事後学習 | 臨床実習を通して学んだことを復習し、臨床で活かせる知識となるように頑張ってください。 |
| 教科書 | 臨床実習録1年次、2年次までの全ての科目で用いた配布資料・教科書 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 実習終了後随時 |
| 教員の実務経験 | 理学療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 実践に即した実習のため、臨床実習指導者と連携して指導を行う。 |

作業療法学科

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 生命倫理学 | 科目担当者 | 野見山 待子 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>本講義では、現実の生命倫理の諸問題の事例を知り、思想的知識を学ぶことによって、それらの諸問題を自分自身の問題として引き受け、生命にかかわるときの人間の行為のあり方を考察する。その考察を通して、医療従事者としての倫理観を身につける。その際、授業中の質問に個人が回答したあと、複数やクラスで議論し考察を深める。また、授業で学んだ概念を使って現実の諸問題をどう考えるかをミニレポートで論述することで理解度を確認する。</p> <p>アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他(シンク・ペア・シェア)</p> | | |
| 到達目標 | <p>①生命倫理学で扱われる基本概念を理解し、それを自分の言葉で説明することができる。</p> <p>②生命倫理に関わる諸問題を、講義で習得した知識を基に考察することができる。</p> <p>③現実の医療現場や社会で遭遇する諸問題を倫理的に考察し、主体的に判断・行動することができる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | 生命倫理学の誕生と歴史について理解する。 |
| 第2回 | 中絶は許されるのか考える。 |
| 第3回 | 功利主義の議論を理解する。 |
| 第4回 | 出生前診断について考える。 |
| 第5回 | 臓器移植は許されるのか考える。 |
| 第6回 | 路面電車問題で考える。 |
| 第7回 | ジョン・ハリスの『サバイバル・ロッタリー』を理解する。 |
| 第8回 | カント倫理学を理解する。 |
| 第9回 | カント倫理学と功利主義を理解する。 |
| 第10回 | 安楽死は許されるのか考える。 |
| 第11回 | 自己決定権について理解する。 |
| 第12回 | インフォームド・コンセントについて理解する。 |
| 第13回 | 代理決定について考える。 |
| 第14回 | 高齢者の尊厳について考える。 |
| 第15回 | 互惠性の原理と自由の原理について理解する。 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験(筆記) 60%、ミニレポートの内容 40% |
| 準備学習 | 第1回生命倫理とはどのようなものなのか調べておく。第2回以降、前回の授業内容の確認。 |
| 事後学習 | 自筆の講義ノートを作り上げる。 |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 |
| 参考書 | 新名隆志・林大悟 編：「エシック・センス—倫理学の目を開け—」ナカニシヤ出版 |
| オフィスアワー | 授業前後、授業実施教室、講師控室(15分間) メールアドレス：kita-reha@tohaya.ac.jp(学院窓口) |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 人間関係論 | 科目担当者 | 野見山 待子 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>授業の概要：本講義では、グループディスカッションや演習を取り入れた講義を展開しながら「人間存在と人間関係」の基礎的理論を学習し、「人間関係向上への知識とスキル」を習得する。自己および他者の理解を深め、円滑な人間関係を構築する知識とスキルを学ぶことで、医療従事者になるための土台をつくる。</p> <p>授業の方法：グループディスカッションや演習を取り入れながら講義を展開する。また、グループディスカッションや演習を通じて得た知識や気づきを使って、現実の人間関係の諸問題をどう考えるかをミニレポートで毎回論述し、翌週フィードバックを行うことで知識の定着と理解度の確認をする。</p> | | |
| | <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>①グループディスカッションや演習、講義を通して、人間存在と人間関係のあり方を理解し、その理解を自分の言葉で説明することができる。</p> <p>②グループディスカッションや演習、講義を通じて習得した知識を使って、人間関係の諸問題について考察することができる。</p> <p>③グループディスカッションや演習、講義を通して、望ましい人間関係について考え、他者理解の技法や葛藤対処法を学び、実際の人間関係や将来の医療現場において応用することができる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|---|
| 第1回 | 人間存在を理解する：自己および他者の存在について理解する。 |
| 第2回 | 自己を理解する：「自己知」による人間的成長について理解する。 |
| 第3回 | 自己と他者を理解する①：「価値観」について理解する。 |
| 第4回 | 自己と他者を理解する②：「思い込み」の原理について理解する。 |
| 第5回 | 自己と他者を理解する③：ミス・コミュニケーションの原因について理解する |
| 第6回 | 人間関係の構築を考える①：自分の話し方・きき方を見直す。 |
| 第7回 | 人間関係の構築を考える②：相手中心の話し方・きき方について理解する。 |
| 第8回 | 人間関係の構築を考える③：非言語コミュニケーションについて理解する。 |
| 第9回 | 人間関係の構築を考える④：感情的になることと感情をおもてに表すことの違いを理解する。 |
| 第10回 | 人間関係の構築を考える⑤：感情の真の原因と感情の奴隷について理解する。 |
| 第11回 | 人間関係の構築を考える⑥：共感について理解する。 |
| 第12回 | 人間関係の構築を考える⑦：葛藤とどのように付き合うかを考える。 |
| 第13回 | 集団について考える①：「協働」について理解する。 |
| 第14回 | 集団について考える②：フリーライダーについて理解する。 |
| 第15回 | 集団について考える③：違いを超え、多様を受容することについて理解する |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）60%、ミニレポートの内容40% |
| 準備学習 | 第1回自身の人間関係について振り返っておく。第2回以降、前回の授業内容の確認。 |
| 事後学習 | 自筆の講義ノートを作り上げる。 |
| 教科書 | 指定なし |
| 参考書 | 岡堂 哲雄 編：「人間関係論入門」金子書房、エドワード・ホール「かくれた次元」みすず書房 |
| オフィスアワー | 授業前後、授業実施教室、講師控室（15分間） メールアドレス：kita-reha@tohaya.ac.jp（学院窓口） |

| | | | |
|----------|--|--------|----------------------------------|
| 授業科目 | 対人交流技能 I | 科目担当者 | 高内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本凌 上原佳代 後藤一樹 |
| 学年 | 1 年 | 学期/時間数 | 前期 / 15 時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1 単位 |
| 授業の概要と方法 | 医療の現場で求められる様々な能力の中でも、対人交流技能は、最も重要な能力のひとつと位置付けられる。講義とグループワークを通して、自分の考えを適切に言語化し他者と良好な関係性を構築していくことで、基本的な対人交流技能を学んでいく。これらの学びを目的とし、グループワークや発表、レクリエーションを通して、自分自身の対人交流技能の特徴を見つめることで、臨床現場で求められる対人交流技能について理解を深める。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ① 自身の対人交流技能における特徴を理解できる。 ② 他者との協働を通し、レクリエーションの企画、実施ができる。 ③ コミュニケーションの方法について理解できる。 ④ 医療現場で求められる対人交流技能について理解できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|----|
| 第 1 回 | 対人交流における自己理解について：自己紹介 | 後藤 |
| 第 2 回 | 対人交流における他者理解について：他己紹介 | 岩本 |
| 第 3 回 | 対人交流における他者理解について：他己紹介 発表 | 油田 |
| 第 4 回 | 集団アプローチについて：レクリエーションの企画 | 宮尾 |
| 第 5 回 | 集団アプローチについて：レクリエーションの実践 | 上原 |
| 第 6 回 | 効果的なコミュニケーションについて：情報収集 | 後藤 |
| 第 7 回 | 効果的なコミュニケーションについて：情報解釈 | 岩本 |
| 第 8 回 | コミュニケーションスキルについて | 高内 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 発表 50%、レポート 50% | |
| 準備学習 | 発表を行う内容が含まれるため、適宜練習を行うこと | |
| 事後学習 | スライドの作成や次講義までの準備に取り組むこと | |
| 教科書 | 適宜資料配布 | |
| 参考書 | | |
| オフィスアワー | 後藤 金曜日の 12:10~13:00、職員室 メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | | |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 英語 | 科目担当者 | 宮永 重良 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 高校の英語の授業のように単に英文を日本語に訳したり、文法的な論理性を追求するのではなく、そこから離れて一度英語という言語を色々な角度から光を当て、現在世界で果たす役割について考え、その特長を理解して欲しい。 (質問は自由) | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | 英語について、または英語を話す事に対する恐怖心を克服できる 英語に対する知識が増えて、多角的に英語について親しみを感じることができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | なぜ英語を学習するのか 英語の歴史 (演習) |
| 第2回 | 現代世界と英語が果たす役割 (演習) |
| 第3回 | 日本人と英語(なぜ日本人は英語が苦手か) (演習) |
| 第4回 | 日本の英語教育の中にある伝統的な誤り (演習) |
| 第5回 | 英語の発音とローマ字 (演習) |
| 第6回 | 英語のヴァリエーション(色々な英語) (演習) |
| 第7回 | 英語が世界に普及している理由は (演習) |
| 第8回 | 英語とそのルーツであるヨーロッパ語との関係 (演習) |
| 第9回 | 英語は世界で最も進化した言語である (演習) |
| 第10回 | 東洋と西洋の違い 英語と時制 (演習) |
| 第11回 | 日本語と英語の発音 母音と子音 (演習) |
| 第12回 | 動詞の活用 (演習) |
| 第13回 | 日常的に使われている不適切な訳語例 (演習) |
| 第14回 | 翻訳において 誤った具体例 (演習) |
| 第15回 | 「英語をしゃべる」という事について (演習) |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記) 100% |
| 準備学習 | 特になし |
| 事後学習 | 特になし |
| 教科書 | ノートで講義内容の記録をとるのが望ましい。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 授業後、制限なし、講師控室 メールアドレス: kita-reha@tohaya.ac.jp (学院窓口) |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 解剖学Ⅱ | 科目担当者 | 中富 満城 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | リハビリテーション医学を学ぶ為には人体の正常な構造に関する正確な理解が必要不可欠となる。解剖学Ⅱでは消化器系、呼吸器系、泌尿器系、内分泌系、中枢神経系、末梢神経系、感覚器系、生殖器系、人体発生について学ぶ。プリントとスライドを用いて講義を行う。自己学習用に毎回小テストを出題し、次回の冒頭に答え合わせと解説を行う。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①内臓系を構成する器官の構造と機能について説明できる。 ②中枢神経系を構成する脳と脊髄の構造と機能について説明できる。 ③末梢神経系を構成する脳神経・脊髄神経・自律神経の走行と機能について説明できる。 ④上行性伝導路と下行性伝導路の分類と機能について説明できる。 ⑤人体発生の概要について説明できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | 内臓系①：消化器系を構成する器官の構造と機能について学ぶ。 |
| 第2回 | 内臓系②：呼吸器系を構成する器官の構造と機能について学ぶ。 |
| 第3回 | 内臓系③：泌尿器系を構成する器官の構造と機能について学ぶ。 |
| 第4回 | 内臓系④：内分泌系を構成する器官の構造と機能について学ぶ。 |
| 第5回 | 神経系総論：神経系の区分と構造、髄膜、脳室について学ぶ。 |
| 第6回 | 中枢神経系①：大脳の構造（皮質、髄質、大脳基底核）と機能局在について学ぶ。 |
| 第7回 | 中枢神経系②：間脳と脳幹（中脳、橋、延髄）の構造と機能について学ぶ。 |
| 第8回 | 中枢神経系③：小脳と脊髄の構造と機能について学ぶ。 |
| 第9回 | 末梢神経系①：脳神経の名称、走行、機能について学ぶ。 |
| 第10回 | 末梢神経系②：脊髄神経と神経叢の名称、走行、機能について学ぶ。 |
| 第11回 | 末梢神経系③：自律神経の分類、走行、機能について学ぶ。 |
| 第12回 | 中枢神経系④：上行性伝導路と下行性伝導路（錐体路系と錐体外路系）について学ぶ。 |
| 第13回 | 内臓系⑤：感覚器系を構成する器官の構造と機能について学ぶ。 |
| 第14回 | 内臓系⑥：生殖器系を構成する器官の構造と機能について学ぶ。 |
| 第15回 | 人体発生：受精卵から胎児に至る個体発生の概要について学ぶ。 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）100% |
| 準備学習 | 事前に教科書の該当範囲を読んで予習し、疑問点を抽出する。 |
| 事後学習 | 講義後は教科書の該当範囲を再読し、疑問点の解決と内容の理解を図る。特にPT、OTにとっては神経系の正確な理解が重要であるので、充分時間を掛けて学習する。毎回出題する小テストを解く。 |
| 教科書 | 野村嵯編：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」医学書院 |
| 参考書 | 松村譲児著：「イラスト解剖学」中外医学社 |
| オフィスアワー | 講義終了後、講師控室にて。質問があればメールで随時受け付ける。 メールアドレス：kita-reha@tohaya.ac.jp（学院窓口） |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 生理学Ⅱ | 科目担当者 | 稲永 清敏 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 標準理学療法学・作業療法学「生理学」を教材として、パワーポイントによるプレゼンテーションを行う。單元ごとに、理解すべきポイントを記載した「講義ノート」を配布する。また、各回、演習問題を配布するので、講義の理解度を各自確認する。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | <p>①ヒトが個体として生存するための基本的な機能である血液・循環・呼吸・消化吸収・排泄・内分泌・生殖といった植物機能が理解できる。</p> <p>②これらの生命現象を物理・化学・生物学的な知識で説明できる。</p> <p>③加齢および運動による生理機能の変化を理解できる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | 心臓と循環 血液の循環、刺激伝導系、心電図 |
| 第2回 | 心臓と循環 血液の拍出と血圧、心周期、血圧の調節、 |
| 第3回 | 心臓と循環 微小循環、臓器循環、脳循環、リンパ循環 |
| 第4回 | 呼吸 外呼吸と内呼吸、気道と肺胞、呼吸運動 |
| 第5回 | 呼吸 ガス交換とガスの運搬、呼吸の調節、病的呼吸 |
| 第6回 | 血液 血液の組成と機能、血球、血漿、血液型 |
| 第7回 | 運動生理 筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源、運動に伴う全身の変化 |
| 第8回 | 尿の生成と排泄 腎臓の役割、腎臓の構造、尿の生成 |
| 第9回 | 尿の生成と排泄 クリアランス、排尿、尿の生成と排尿の異常、酸塩基平衡 |
| 第10回 | 消化と吸収 消化器の役割、口腔内消化と嚥下、食道における食物輸送、胃の役割と消化 |
| 第11回 | 消化と吸収 小腸における消化、大腸の役割、肝臓の役割、 |
| 第12回 | 内分泌 内分泌概論 |
| 第13回 | 内分泌 各腺から分泌されるホルモンの作用 |
| 第14回 | 生殖と発生 男性生殖機能、女性生殖機能、受精・着床・胎児の発生 |
| 第15回 | 成長と老化 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）100% |
| 準備学習 | 一回の講義で理解すべき内容が多いので事前に教科書の範囲を熟読しておくこと。 |
| 事後学習 | 演習問題により講義の理解度をチェックする。間違ったところがあれば、必ず復習する。 |
| 教科書 | 岡田 隆夫・鈴木 敦子・他：「標準理学療法学・作業療法学 生理学第6版」医学書院 |
| 参考書 | 高松 研・堀内 ふき：「生体のしくみ 標準テキスト 第3版」 医学映像教育センター 小澤 滯司・他 編：「標準生理学」医学書院 |
| オフィスアワー | 講義終了後、講師控室（15分間） メールアドレス：kita-reha@tohaya.ac.jp（学院窓口） |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 生理学実習 | 科目担当者 | 稲永 清敏 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 45時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 理学療法士・作業療法士になるための実践的な基礎医学としての知識を身につけるため、6つの項目（筋電図、誘発筋電図、皮膚感覚、体温、心電図、血圧）の実習を行う。クラスを班に分割し実習を行う。実習日ごとにローテーションし、すべての実習項目を履修する。実習項目ごとに責任者を決め、実習を円滑に行う。全員が被検者となる。実習レポートは、各自期限内に提出する。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①学生自身が被験者になり、“ヒトの体の機能の神秘さ”を体感することによって、ヒトの体の機能についての理解を深める。 ②実習を行っているなかで生じた疑問は、そのままにせず解決するように努める。問題解決能力を養う。 ③実習中は積極的に実習に関連する事項を調べる。時間を有効に使う。 ④班単位で実習をおこなうので、班内でのコミュニケーション能力を高め、協力しあう態度を養う。 ⑤レポートの書き方を会得する。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|---|--|--|
| 第1回 | 生理学実習ガイダンス | 第16回 | 実習ローテーション③ (筋電図、誘発筋電図、皮膚感覚、体温、心電図、血圧) |
| 第2回 | | 第17回 | |
| 第3回 | | 第18回 | |
| 第4回 | 実験項目のデモ①：理学療法学科の学生対象 | 第19回 | 実習ローテーション④ (筋電図、誘発筋電図、皮膚感覚、体温、心電図、血圧) |
| 第5回 | | 第20回 | |
| 第6回 | | 第21回 | |
| 第7回 | 実験項目のデモ②：作業療法学科の学生対象 | 第22回 | 実習ローテーション⑤ (筋電図、誘発筋電図、皮膚感覚、体温、心電図、血圧) |
| 第8回 | | 第23回 | |
| 第9回 | | 第24回 | |
| 第10回 | 実習ローテーション① (筋電図、誘発筋電図、皮膚感覚、体温、心電図、血圧) | 第25回 | 実習ローテーション⑥ (筋電図、誘発筋電図、皮膚感覚、体温、心電図、血圧) |
| 第11回 | | 第26回 | |
| 第12回 | | 第27回 | |
| 第13回 | 実習ローテーション② (筋電図、誘発筋電図、皮膚感覚、体温、心電図、血圧) | 筋電図：上腕二頭筋および上腕三頭筋などの筋活動と筋電図 誘発筋電図：腱反射、および正中神経刺激による母指球筋誘発筋電図 皮膚感覚：人体各部位の感覚点の分布・閾値の相違、感覚受容機構 体温：人体各部位の皮膚温の測定と体温調節機構 心電図：安静時や、深呼吸・運動などの負荷による心機能の変化 血圧：体位の変動や運動による血圧や心拍数の変化 | |
| 第14回 | | | |
| 第15回 | | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 各テーマの実習レポートの評価と実習態度（参加度及び質疑応答に対する評価）をそれぞれ80点、20点とし、合計100点で評価する。 | | |
| 準備学習 | 実習前に実習書を熟読し、実習で行う手技を理解する。講義で行われた内容を復習し実習に臨む。実習中にインストラクターが行う質問に答えられるようにする。 | | |
| 事後学習 | 実習結果を、フォーマットに従いレポートにまとめ、期限内に提出する。 | | |
| 教科書 | 岡田 隆夫・鈴木 敦子・他：「標準理学療法学・作業療法学 生理学第6版」医学書院 | | |
| 参考書 | 高松 研・堀内 ふき：「生体のしくみ 標準テキスト 第3版」医学映像教育センター 小澤 澯司・他 編：「標準生理学」医学書院 | | |
| オフィスアワー | 実習終了後、講師控室（15分間） メールアドレス：kita-reha@tohaya.ac.jp（学院窓口） | | |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 臨床心理学 | 科目担当者 | 新開 佳子 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 臨床心理学は、自分の心の中に悩みや葛藤を持った人が、その問題を解決できるよう援助するための理論や技法を追及する学問である。その対象は非常に多岐にわたり、様々な療法によって実践される。また、他者への援助の前に対人援助職者として自己と向き合い、自己理解・自己肯定していくことが重要になる。本講義では座学だけでなく、グループワークなどを通して自他を知る体験をしながら、臨床心理学の基礎的知識を得ることを目指す。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①臨床心理学の様々な療法提唱者の理論、技法、アセスメントの基礎的理解 ②講義及びグループワークでの体験を通し、自他の心の理解を深める。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|---|
| 第1回 | オリエンテーション 臨床心理学とは |
| 第2回 | 心理トレーニングとしてのアンガーマネジメント |
| 第3回 | 心理面接、来談者中心療法 |
| 第4回 | 産業保健領域における臨床心理学 |
| 第5回 | キャリア面接法 |
| 第6回 | 認知行動療法 |
| 第7回 | R E B T |
| 第8回 | マインドフルネス認知療法 |
| 第9回 | アドラー心理学 |
| 第10回 | ポジティブ心理学 |
| 第11回 | 精神分析的心理療法、その他の心理療法 |
| 第12回 | 心理査定① 心理査定の種類、質問紙法 |
| 第13回 | 心理査定② 投影法、認知機能のアセスメントについて |
| 第14回 | 現代の心の問題について |
| 第15回 | 動機づけ面接法・まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）70% 提出物（授業の振り返りを文章化することで理解度を確認）30% |
| 準備学習 | 臨床の現場で必要な心理療法及び心理面接の基本を学ぶために、ワークやグループディスカッションなどがあります。授業の中では、相手の話を聞き、自分を語るという心構えが必要です。 |
| 事後学習 | 授業開始時に、前回の授業の振り返りの質問をします。授業資料を再確認してください。 |
| 教科書 | 担当者が準備する資料 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 講義終了後 15 分間 メールアドレス : kita-reha@tohaya.ac.jp (学院窓口) |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 整形外科学 | 科目担当者 | 村上 忠誌 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | スライドによる教科書内容の解説により、整形外科疾患の病態、診断方法及び治療法が理解することができる。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他(冬休み前に理解度確認のための課題を配布する) | | |
| 到達目標 | 整形外科疾患の病態、診断方法及び治療法について理解し、国家試験の問題に対応できる。 膨大な整形外科疾患についての知識を付ける。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|--|---------------|
| 第1回 | 総論 | 教科書ページ 3 ~ 37 |
| 第2回 | 軟部、骨損傷 | 41 ~ 75 |
| 第3回 | 肩、上腕 | 76 ~106 |
| 第4回 | 手 | 107 ~126 |
| 第5回 | 股関節、大腿 | 127 ~145 |
| 第6回 | 膝関節、下腿 | 146 ~169 |
| 第7回 | 足関節、足部 | 170 ~184 |
| 第8回 | 脊椎 | 185 ~219 |
| 第9回 | 脊椎、骨盤(画像診断含む) | 220 ~249 |
| 第10回 | 関節疾患、リウマチ、感染(画像診断含む) | 251 ~279 |
| 第11回 | 代謝疾患、ロコモ、腫瘍 | 280 ~309 |
| 第12回 | 神経、筋疾患(薬剤含む) | 310 ~353 |
| 第13回 | 系統疾患、骨端症、循環障害、切断 | 354 ~384 |
| 第14回 | 慢性疼痛、スポーツ(薬剤含む) | 385 ~410 |
| 第15回 | まとめ | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験(筆記) 100% | |
| 準備学習 | 予習を行い教科書内の言葉に慣れておいてください。 | |
| 事後学習 | 復習を行い疑問に思ったことは質問してください。 | |
| 教科書 | 高橋 邦泰・芳賀 信彦 編:「整形外科学テキスト第5版」南江堂 | |
| 参考書 | | |
| オフィスアワー | 講義終了後、講師控室(15分間) メールアドレス: kita-reha@tohaya.ac.jp (学院窓口) | |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 内科学 | 科目担当者 | |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 内科学における各種主要疾患の病態生理や診断・治療を理解し、薬物療法を学ぶ。そして、内科学に関連する理学療法、作業療法についての知識を習得する。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | 臨床医学の基本となる内科学を臓器系統的に学び、医療従事者として内科疾患の基礎的知識を習得することを目的とする。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|---|
| 第1回 | 内科学（診断・症候） |
| 第2回 | 循環器疾患－1（画像診断・薬剤含む） |
| 第3回 | 循環器疾患－2（救命含む） |
| 第4回 | 呼吸器疾患－1（画像診断・薬剤含む） |
| 第5回 | 呼吸器疾患－2 |
| 第6回 | 腎・泌尿器疾患（画像診断・薬剤含む） |
| 第7回 | 消化管疾患（画像診断・薬剤含む） |
| 第8回 | 肝胆膵疾患（画像診断・薬剤含む） |
| 第9回 | 代謝性疾患（画像診断・薬剤含む） |
| 第10回 | 内分泌疾患（画像診断・薬剤含む） |
| 第11回 | 血液・造血器疾患 |
| 第12回 | 感染症疾患、中毒（画像診断・薬剤含む） |
| 第13回 | 膠原病、アレルギー疾患、免疫不全（画像診断・薬剤含む） |
| 第14回 | 老年学 |
| 第15回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）100% |
| 準備学習 | 広範な内容を扱うので特に重要な部分に絞って講義します。しっかりと予習をしてください。 |
| 事後学習 | 広範な内容を扱うので特に重要な部分に絞って講義します。しっかりと復習をしてください。 |
| 教科書 | 前田 眞治・上月 正博・他 著：「標準理学療法学・作業療法学 内科学第4版」医学書院 |
| 参考書 | 必要に応じて講義中に提示 |
| オフィスアワー | 授業後15分間、講師控室 メールアドレス：kita-reha@tohaya.ac.jp（学院窓口） |

| | | | |
|----------|---|--------|------------|
| 授業科目 | 精神医学 I | 科目担当者 | 副田 秀二 |
| 学年 | 1 年 | 学期/時間数 | 後期 / 30 時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2 単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>価値観が多様化する現代社会において精神疾患は多岐にわたるようになった。そのため、コメディカルスタッフには精神疾患の理解と適切な対応が求められている。本授業では主な精神疾患の概要・症状・治療・経過を含め、精神医学の主要事項を学ぶ。授業では主要事項の概説に併行して、教科書に沿った正誤問題を解き理解度を確認する。これらを通して精神障害を持つ人々への対応・社会生活面の援助・リハビリテーションのありかたを考える。</p> <p>アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他(教科書に沿った正誤問題による理解度確認)</p> | | |
| 到達目標 | <p>1、主な精神疾患の概要・症状・治療・経過などが理解できる。 2、精神障害を持つ人々に対する実際的な対応・援助・リハビリテーションについて考えることができる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|---|
| 第 1 回 | 精神医学の基礎 (医療・福祉の流れ、疾患分類、入院形態など) |
| 第 2 回 | 気分障害 I (うつ病) |
| 第 3 回 | 気分障害 II (双極性障害) |
| 第 4 回 | 統合失調症 |
| 第 5 回 | 神経症性障害・ストレス関連障害 (不安障害、強迫性障害、解離性障害など) |
| 第 6 回 | 生理的障害・心理的要因に関連した行動症候群 (摂食障害、睡眠障害など) |
| 第 7 回 | 成人のパーソナリティおよび行動の障害 |
| 第 8 回 | 器質性精神障害 (認知症など) |
| 第 9 回 | 精神作用物質による精神および行動の障害 (アルコール依存症など) |
| 第 10 回 | 身体疾患にもとづく精神障害 / てんかん |
| 第 11 回 | 児童・青年期の精神障害 |
| 第 12 回 | 精神疾患の薬物療法 (総論)・抗精神病薬・抗うつ薬 |
| 第 13 回 | 気分安定薬・精神刺激薬・抗不安薬・睡眠薬・抗認知症薬 / 地域社会と精神医療・保健・福祉 |
| 第 14 回 | 治療的・援助的介入技法 / リエゾン精神医学とチーム医療 |
| 第 15 回 | 精神障害における症状 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記) 100% (ただし、受講態度等が 10%以内で加味されることがある。) |
| 準備学習 | 授業前に教科書の範囲を熟読しておくこと。 |
| 事後学習 | 配布プリントを中心に理解に努めること。さらに関連事項を調べて理解を深めることが望ましい。 |
| 教科書 | 太田保之・上野武治 編：「学生のための精神医学 (第 3 版)」医歯薬出版 |
| 参考書 | 適宜紹介 |
| オフィスアワー | 授業終了後、講師控室 (15 分間) メールアドレス : kita-reha@tohaya.ac.jp (学院窓口) |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | リハビリテーション概論 | 科目担当者 | 辻 和明 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>リハビリテーションの概念・理念・定義から授業を進めていきます。徐々に視野を広げて、対象者のことや他職種、活躍するフィールド、制度論の概略までを学習します。</p> <p>授業の方法は、教科書を中心に進めて重要なところを強調して伝えます。また、更に説明が必要な場合は、資料を配布して深めていきます。2回目以降から、前回の振り返りを行い、合わせて国試問題も確認をします。</p> <p>アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>①リハビリテーションとは何かの疑問に概念・理念・定義を理解して説明できるようになる。</p> <p>②健康と障害の概念を知る。</p> <p>③おおまかなリハビリテーション医療の課程を知り、他職種の理解を深める。</p> <p>④活躍するフィールドを知る。</p> <p>⑤リハビリテーション医療を取り巻く法的な制度を知る。</p> <p>最後に、関連する国家試験問題を確認する。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | リハビリテーションの概念、理念、定義 |
| 第2回 | 健康と障害の概念と分類 |
| 第3回 | 障害者の心理的・社会的視点 |
| 第4回 | 発達と評価 (発達と成長、発達の評価) |
| 第5回 | リハビリテーション医療の課程 (評価) |
| 第6回 | リハビリテーション医療の各段階 (急性期・回復期・生活期リハビリテーション) |
| 第7回 | リハビリテーション医療に関わる職種 (関連職種) |
| 第8回 | チーム医療とアプローチ |
| 第9回 | ADLとQOLの概念と評価法 (ADL評価、IADL評価、QOL評価) |
| 第10回 | リハビリテーション医療における義肢装具 |
| 第11回 | 地域リハビリテーションの概略 |
| 第12回 | 高齢者・健康対策 (保健) |
| 第13回 | 医療と福祉制度 (社会福祉制度、医療保険制度、公的扶助、介護保険制度) |
| 第14回 | 医療法と福祉関係 |
| 第15回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 授業後の小テスト (頻度は2コマに1回程度、内容は関連する国試過去問) 30%、定期試験 (筆記) 70% |
| 準備学習 | 予定している内容を教科書で確認する |
| 事後学習 | 毎回の授業後に伝えた範囲の復習 |
| 教科書 | 上好 昭孝・田島 文博 編著:「リハビリテーション概論改訂第4版」永井書店 |
| 参考書 | 資料配布 |
| オフィスアワー | 授業終了後もしくは木曜日の16:00~16:30、職員室 メールアドレス: tsuji@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 基礎作業学理論 | 科目担当者 | 高内 志保 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>作業療法で用いる作業とは何かを理解するために、日々の生活の中で行っている作業を分類し、ライフステージや性別による違いを知る。また、作業を用いた治療が行えるように、作業の分析方法を習得し、作業の利用のしかたや作業を選択する手順を理解する。</p> <p>作業の治療適応用のための基本理論を理解する。</p> <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>①作業療法と作業の関係について説明できる。</p> <p>②包括的作業分析を実施できる。</p> <p>③作業の利用および作業を選択する手順を説明できる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | 作業の定義 |
| 第2回 | 作業の分類 |
| 第3回 | 生活行為 目的と意味のある作業 |
| 第4回 | 作業分析の目的・種類 |
| 第5回 | 限定的作業分析 |
| 第6回 | 作業活動 |
| 第7回 | 包括的作業分析（運動機能、感覚・認知機能、コミュニケーション、リスク） |
| 第8回 | 包括的作業分析（治療的応用について） |
| 第9回 | 作業の利用 |
| 第10回 | 作業の選択 |
| 第11回 | 作業の適応 |
| 第12回 | 作業の段階づけ |
| 第13回 | 作業学習と指導法 |
| 第14回 | 作業を用いた介入事例 |
| 第15回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 課題レポート20%、定期試験（筆記）80% |
| 準備学習 | 教科書の該当箇所を読む |
| 事後学習 | 専門用語の理解をするために、言葉の意味を調べ、講義の復習をする |
| 教科書 | 山根 寛 著：「ひとと作業・作業活動新版」三輪書店 浅沼 辰志 編集：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業学第3版」メジカルビュー社 |
| 参考書 | 濱口 豊太 編集：「標準作業療法学専門分野 基礎作業学第3版」医学書院 |
| オフィスアワー | 水曜日の12：10～13：00、職員室 メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 作業とは何か。経験を通して実感できるよう講義を行う。 作業分析、作業を選択する手順の基礎を講義する。 |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------------|
| 授業科目 | 作業療法基礎演習 I | 科目担当者 | 油田あゆみ・上原佳代・高内志保 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 前期 / 30 時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1 単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>作業療法士として、人体の形態的特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。</p> <p>この科目では、専門基礎分野で学ぶ「解剖学 I」「生理学 I」「運動学 I」を関連付けて、専門知識へと繋がるよう国家試験で問われるポイントを押さえながら授業を行う。グループワークを用い国家試験問題から正解を導く方法も教示し各人の学習方法の参考にしてもらいたい。單元ごとに小テストを実施し理解度を確認する</p> | | |
| | <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>①医学用語や常用漢字についての意味を理解し、説明ができる。</p> <p>②「解剖学 I」「生理学 I」「運動学 I」について学習し、理解を深めることができる。</p> <p>③学習方法をみつけることができる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|---|------|----|
| 第 1 回 | 循環器系（心臓の構造と機能、心筋、刺激伝導系）の解剖と生理 | (演習) | 油田 |
| 第 2 回 | 骨の構造、関節の種類、バイオメカニクス | (演習) | 油田 |
| 第 3 回 | 上肢帯・肩関節・肘関節の構造と作用する筋 | (演習) | 油田 |
| 第 4 回 | 手部の構造と作用する筋、神経支配（上肢の筋・下肢の筋・二重神経支配） | (演習) | 油田 |
| 第 5 回 | まとめ | | 油田 |
| 第 6 回 | 消化器系（上部消化管）の解剖と生理 | (演習) | 上原 |
| 第 7 回 | 消化器系（下部消化管）の解剖と生理 | (演習) | 上原 |
| 第 8 回 | 中枢神経系（脊髄）の解剖と生理 | (演習) | 上原 |
| 第 9 回 | 中枢神経系（大脳）の解剖と生理 | (演習) | 上原 |
| 第 10 回 | まとめ | | 上原 |
| 第 11 回 | 末梢神経（脳神経） | (演習) | 高内 |
| 第 12 回 | 末梢神経（腕神経叢、腰神経叢） | (演習) | 高内 |
| 第 13 回 | 骨格筋（構造、種類、運動単位） | (演習) | 高内 |
| 第 14 回 | 感覚（皮膚の構造、体性感覚、視覚器） | (演習) | 高内 |
| 第 15 回 | まとめ | | 高内 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 小テスト 100% | | |
| 準備学習 | 資料に関連する教科書を準備し熟読しておきましょう | | |
| 事後学習 | 單元ごとに小テストを行いそれが成績になりますので、授業ごとに復習をおこなっておきましょう。 | | |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。資料に関連する教科書を準備すること | | |
| 参考書 | | | |
| オフィスアワー | 油田 木曜日の 12:10~13:00、職員室 メールアドレス: yuda@tohaya.ac.jp 上原 火曜日の 12:10~13:00、職員室 メールアドレス: uehara@tohaya.ac.jp 高内 水曜日の 12:10~13:00、職員室 メールアドレス: takauchi@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 「解剖学 I」「生理学 I」「運動学 I」で学んでいる内容について、演習を通して知識の定着を促す。 | | |

| | | | |
|----------|---|--------|---------------|
| 授業科目 | 作業療法基礎演習Ⅱ | 科目担当者 | 宮尾京介・岩本凌・後藤一樹 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>作業療法士として、人体の形態的特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。</p> <p>この科目では、専門基礎分野で学ぶ「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」「運動学Ⅱ」を関連付けて、専門知識へと繋がるよう国家試験で問われるポイントを押さえながら授業を行う。グループワークを用い国家試験問題から正解を導く方法も教示し各人の学習方法の参考にしてもらいたい。單元ごとに小テストを実施し理解度を確認する</p> | | |
| | <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>①医学用語や常用漢字についての意味を理解し、説明ができる。</p> <p>②「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」「運動学Ⅱ」について学習し、理解を深めることができる。</p> <p>③学習方法をみつけることができる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|---|----|
| 第1回 | 股関節の構造と作用する筋 | (演習) | 宮尾 |
| 第2回 | 膝関節・足関節の構造と作用する筋 | (演習) | 宮尾 |
| 第3回 | 顔面・頭頸部・体幹の構造と作用する筋 | (演習) | 宮尾 |
| 第4回 | 姿勢と歩行 | (演習) | 宮尾 |
| 第5回 | まとめ | | 宮尾 |
| 第6回 | 循環器(大動脈、脳の動脈、脳の還流域、触知部位、静脈、微小循環、リンパ系) | (演習) | 岩本 |
| 第7回 | 循環器(循環の生理学、頸動脈洞反射、血液) | (演習) | 岩本 |
| 第8回 | 呼吸器(呼吸器の構造、肺機能検査と肺気量、呼吸整理と呼吸循環調整系、酸塩基平衡) | (演習) | 岩本 |
| 第9回 | 呼吸器(酸素遊離曲線、呼吸運動)/生殖器 | (演習) | 岩本 |
| 第10回 | まとめ | | 岩本 |
| 第11回 | 泌尿器 | (演習) | 後藤 |
| 第12回 | 代謝 | (演習) | 後藤 |
| 第13回 | 内分泌系 | (演習) | 後藤 |
| 第14回 | 発生と組織 | (演習) | 後藤 |
| 第15回 | まとめ | | 後藤 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 小テスト100% | | |
| 準備学習 | 資料に関連する教科書を準備し熟読しておきましょう | | |
| 事後学習 | 單元ごとに小テストを行いそれが成績になりますので、授業ごとに復習をおこなっておきましょう。 | | |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。資料に関連する教科書を準備すること | | |
| 参考書 | | | |
| オフィスアワー | 宮尾 木曜日の12:10~13:00、職員室 岩本 金曜日の12:10~13:00、職員室 後藤 金曜日の12:10~13:00、職員室 | メールアドレス: miyao@tohaya.ac.jp メールアドレス: iwamoto@tohaya.ac.jp メールアドレス: k-gotou@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」「運動学Ⅱ」で学んでいる内容について、演習を通して知識の定着を促す。 | | |

| | | | |
|----------|--|--------|------------------------------|
| 授業科目 | 臨床実習指導 I | 科目担当者 | 高内志保 油田あゆみ 宮尾京介 上原佳代 後藤一樹 |
| 学年 | 1 年 | 学期/時間数 | 前期 / 30 時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1 単位 |
| 授業の概要と方法 | 臨床見学実習にむけて、職業人としての常識的行動や責任ある行動および、対象者やスタッフへの適切な対応と望ましい人間関係を学び、施設における他職種連携について理解する。また臨床見学実習では、コミュニケーション中心の介入となるため、コミュニケーションスキルについても理解する。これらはレポートおよび小テストを適宜実施することで理解度の確認をする。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ① 見学実習の心得と、求められる課題を理解できる。 ② 職業人・医療人としての常識的行動・態度を理解できる。 ③ 見学実習に行くための知識・技能を身につける。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|------|----|
| 第 1 回 | 臨床見学実習の概要：オリエンテーション | | 後藤 |
| 第 2 回 | 職業人としての常識的行動・態度（身だしなみ/接遇）、作業療法士の倫理（守秘義務/礼節/個人情報保護） | | 宮尾 |
| 第 3 回 | 実習施設の概要（調べ方と演習）、実習施設の機能と役割 | | 宮尾 |
| 第 4 回 | 実習施設における作業療法士の役割について、報告連絡相談の方法、他職種連携 | | 高内 |
| 第 5 回 | リスク管理（標準予防策：手洗いマスクの付け方）、転倒予防 | 実技演習 | 上原 |
| 第 6 回 | まとめ（リスク管理、転倒予防） | | 上原 |
| 第 7 回 | 見学時のマナー、自己紹介、コミュニケーション | 実技演習 | 油田 |
| 第 8 回 | まとめ（見学時のマナー、自己紹介、コミュニケーション） | | 油田 |
| 第 9 回 | 介助方法①（車いすの部位名称と機能） | 実技演習 | 高内 |
| 第 10 回 | 介助方法②（車いすの移乗介助） | 実技演習 | 高内 |
| 第 11 回 | まとめ（車いすの部位名称と機能、移乗介助） | | 高内 |
| 第 12 回 | 見学実習での学習目標について、見学実習録の作成・確認 | | 後藤 |
| 第 13 回 | 実習生プロフィール作成① 自己紹介および自己アピールの作成 | | 油田 |
| 第 14 回 | 実習生プロフィール作成② 実習目標の作成および実習施設のリサーチ | | 油田 |
| 第 15 回 | 見学実習における電話対応、必要書類（実習記録、報告書、礼状を含む）の説明と作成方法 | | 後藤 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 小テスト 60%、レポート 40% | | |
| 準備学習 | 見学実習の内容について、臨床見学実習録を用いて復習しておくこと。 | | |
| 事後学習 | 必要に応じて資料を確認して復習すること。 | | |
| 教科書 | 実習録 他、必要に応じ適宜プリントを配布していく。 | | |
| 参考書 | | | |
| オフィスアワー | 後藤 金曜日の 12:10~13:00、職員室 メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 実際の対象者を想定しながら演習を行い、知識・技能の定着を図ります。 | | |

| | | | |
|----------|--|--------|-------------|
| 授業科目 | 作業療法評価法総論 | 科目担当者 | 上原 佳代・宮尾 京介 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 作業療法評価の目的や意義、そして評価を実施するうえで必要とされる態度や知識について学習する。 また、作業療法が提供されるまでの一連の過程について学習する。 各評価の学習理解度を確認するため、小テストを実施する。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①作業療法評価の意味・必要性を理解し、説明することができる。 ②作業療法が提供されるまでの過程を理解することができる。 ③作業療法における主要な評価を理解し、説明することができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|----|
| 第1回 | 評価の意味と目的 | 宮尾 |
| 第2回 | 評価の時期と流れ | 宮尾 |
| 第3回 | 評価の記録方法 | 宮尾 |
| 第4回 | 行動評価と面接評価 (COPM) | 宮尾 |
| 第5回 | ランドマーク・触診 (触診の方法) | 宮尾 |
| 第6回 | ランドマーク・触診 (顔・頸部体幹・上肢) | 宮尾 |
| 第7回 | ランドマーク・触診 (下肢) | 宮尾 |
| 第8回 | 形態測定 (意義と目的) | 宮尾 |
| 第9回 | 形態測定 (四肢長と周径) | 宮尾 |
| 第10回 | 関節可動域 (ROM) 測定 概論 | 上原 |
| 第11回 | 関節可動域 (ROM) 測定 上肢 | 上原 |
| 第12回 | 関節可動域 (ROM) 測定 下肢 | 上原 |
| 第13回 | 関節可動域 (ROM) 測定 肩甲帯・頸部・体幹 | 上原 |
| 第14回 | 上肢機能検査 (STEF) | 上原 |
| 第15回 | まとめ | 上原 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 小テスト 40%、定期試験 (筆記) 60% | |
| 準備学習 | 本講義では骨や筋などの人体構造を理解しておく必要があります。 解剖学や運動学の教科書で予習・復習しておきましょう。 | |
| 事後学習 | 各授業もしくは、まとめ (第15回) で示す重要ポイントを復習しておいてください。 | |
| 教科書 | 能登真一 他 著:「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第4版」医学書院 | |
| 参考書 | その他専門書及び文献 (随時紹介) | |
| オフィスアワー | 宮尾 木曜日の 12:10~13:00、職員室 メールアドレス: miyao@tohaya.ac.jp 上原 火曜日の 12:10~13:00、職員室 メールアドレス: uehara@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | 各教員が各々の専門領域 (身体障害、高齢期障害、地域など) で十分な臨床経験を有している。 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 各教員の臨床経験をもとに、根拠に基づく作業療法を提供するための基礎となる評価の意義や目的、更には主要な評価方法について講義する。 | |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 作業療法基礎評価法 | 科目担当者 | 上原 佳代 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>身体障害領域において疾患・障害を問わず行われる共通の基礎的な評価について学ぶ。 基礎技法について、デモンストレーションを行い、ディスカッションしながら理解を進めていく。 実技を繰り返し行い、必要な基礎的手技を身につける。</p> <p>アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他(実技演習)</p> | | |
| 到達目標 | <p>①基礎的な評価の意義と目的を述べることができる。 ②基礎的な評価を列挙し、その測定法について説明することができる。 ③基礎的な評価に必要な物品や環境を設定できる。 ④基礎的な評価を実施できる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | 評価技法 徒手筋力検査法 総論 |
| 第2回 | 評価技法 徒手筋力検査法 肩甲帯 (実技演習) |
| 第3回 | 評価技法 徒手筋力検査法 上肢 (実技演習) |
| 第4回 | 評価技法 徒手筋力検査法 手指 (実技演習) |
| 第5回 | 評価技法 徒手筋力検査法 下肢 (実技演習) |
| 第6回 | 評価技法 徒手筋力検査法 体幹・頸部 (実技演習) |
| 第7回 | 評価技法 徒手筋力検査法 まとめ (実技演習) |
| 第8回 | 評価技法 感覚検査 総論 |
| 第9回 | 評価技法 感覚検査 各種検査 (実技演習) |
| 第10回 | 評価技法 反射検査 (実技演習) |
| 第11回 | 評価技法 バランス検査 (実技演習) |
| 第12回 | 評価技法 筋緊張検査 (実技演習) |
| 第13回 | 評価技法 協調性検査 (実技演習) |
| 第14回 | 評価技法 脳神経検査 (実技演習) |
| 第15回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験(筆記)60%、中間試験(実技)20%、課題遂行20% |
| 準備学習 | 与えられた課題に関しては予習をし、講義に臨んでください。 |
| 事後学習 | 実技演習した内容は学生同士で必ず復習し、その都度理解していきましょう。 |
| 教科書 | 能登 真一・他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」医学書院 津山 直一・中村 耕三 訳：「新・徒手筋力検査法 原著第10版」協同医書出版社 |
| 参考書 | 田崎 義昭・他 著：「ベッドサイドの神経の診かた 改訂第18版」南山堂 日本作業療法士協会 監修：「作業療法学全書改訂第3版第3巻 作業療法評価学」協同医書出版社 |
| オフィスアワー | 火曜日の12:10~13:00、教員室 メールアドレス uehara@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 作業療法領域共通の基礎的な評価法について、実技を交えながら授業を行う。 |

| | | | |
|----------|---|--------|----------------|
| 授業科目 | 作業療法評価法身体領域 | 科目担当者 | 油田あゆみ・宮尾京介・岩本凌 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 45時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 身体領域疾患の症状・障害について理解する。その理解をもとに身体領域疾患の評価法について学ぶ。 身体領域疾患に対する評価の技術を身につける。 グループディスカッションを行い、評価法や評価技術に関する理解を深める。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①身体領域疾患の症状や障害に合わせた評価項目を列挙することができる。 ②身体領域疾患に必要な評価の意義と目的を述べるができる。 ③評価の技術と測定結果から障害の程度を解釈することができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|------|--------------------------|
| 第1回 | 総論 脳血管疾患の症状と障害について | 第16回 | 整形疾患（下肢・体幹）の機能評価 |
| 第2回 | 脳血管疾患の評価①身体機能評価 | 第17回 | 呼吸器疾患の症状と障害、画像評価 |
| 第3回 | 脳血管疾患の評価②精神機能評価 | 第18回 | 呼吸器疾患の評価①フィジカルアセスメント（演習） |
| 第4回 | 脳血管疾患の評価③ADL評価、画像評価（演習） | 第19回 | 呼吸器疾患の評価②機能評価（演習） |
| 第5回 | 脊髄損傷の症状と障害について | 第20回 | 代謝性疾患の症状と障害の評価 |
| 第6回 | 脊髄損傷の評価①画像・身体機能評価（演習） | 第21回 | 関節リウマチの症状と障害の評価 |
| 第7回 | 脊髄損傷の評価②ADL・社会参加の評価（演習） | 第22回 | 神経筋疾患の症状と障害の評価 |
| 第8回 | 心疾患の症状と障害、画像評価 | 第23回 | まとめ |
| 第9回 | 心疾患の評価（演習） | | |
| 第10回 | パーキンソン病の症状と障害 | | |
| 第11回 | パーキンソン病の身体機能評価（演習） | 【担当】 | |
| 第12回 | パーキンソン病の評価時の留意事項 | 岩本 | 第1回-第4回、第17回-第20回 |
| 第13回 | 整形疾患の症状と障害 | 油田 | 第5回-第9回、第21回 |
| 第14回 | 整形疾患の画像評価 | 宮尾 | 第10回-第16回、第22回、第23回 |
| 第15回 | 整形疾患（上肢）の機能評価（演習） | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 課題・小テスト20%、定期試験（筆記）80% | | |
| 準備学習 | 教科書、参考書を予習に利用し積極的に取り組んでおくこと | | |
| 事後学習 | 講義資料と教科書を復習しておくこと | | |
| 教科書 | 岩崎 テル子 編：「標準作業療法学 身体機能作業療法学第4版」医学書院 能登 真一 他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第4版」医学書院 二瓶 隆一 他 編著：「頸髄損傷のリハビリテーション改訂第3版」協同医書出版社 | | |
| 参考書 | 医療情報科学研究所 編：「病気がみえる vol.7 脳・神経第2版」メディックメディア 医療情報科学研究所 編：「病気がみえる vol.11 運動器・整形外科」メディックメディア | | |
| オフィスアワー | 油田 木曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp 宮尾 木曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp 岩本 金曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 身体領域における作業療法の代表的な対象疾患を学習点とし、身体領域を専門とした教員により、疾患別作業療法評価法について講義する。 | | |

| | | | |
|----------|--|--------|--------------|
| 授業科目 | 作業療法評価法発達領域 | 科目担当者 | 油田 あゆみ・高内 志保 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>作業療法を実践する上で基礎となる知識を学習する。 対象児の臨床像を把握し、治療を適切なものにするための評価の意義および、代表的発達検査を学ぶ。座学と、学生自身が理解したことをプレゼンテーションすることを課題とし専門用語などの知識を深める。 子どもの発達像をもっとも反映する『遊び』の意味を知り、子供の保育場面を実際に観察することで、発達過程を学んでゆく。</p> <p>アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>①典型的発達の過程を理解できる。 ②発達検査の意義と目的を説明できる。 ③発達検査の使用方法が分かる。 ④発達障害における作業療法の基礎的手段としてのあそびの意義と活用について理解することができる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|----|
| 第1回 | 発達障害概論 | 油田 |
| 第2回 | 発達障害の作業療法の基礎となる知識 | 油田 |
| 第3回 | 典型的発達指標 (演習: 姿勢反射・反応) | 油田 |
| 第4回 | 典型的発達指標 (演習: 運動発達) | 油田 |
| 第5回 | 典型的発達指標 (演習: 上肢機能の発達) | 油田 |
| 第6回 | 典型的発達指標(言語, 社会性の発達) | 油田 |
| 第7回 | 発達検査 (演習: スクリーニング検査、知能検査、ADL、疾患別) | 油田 |
| 第8回 | 子どもの発達とあそび | 高内 |
| 第9回 | 子どもの発達とあそび (演習) | 高内 |
| 第10回 | 評価としてのあそびの可能性 | 高内 |
| 第11回 | あそびの分析 (演習) | 高内 |
| 第12回 | おもちゃと遊具 (演習) | 高内 |
| 第13回 | 幼稚園 (演習) ～ 子どもとあそび (年少・年中) | 高内 |
| 第14回 | 幼稚園 (演習) ～ 子どもとあそび (年長・フィードバック) | 高内 |
| 第15回 | まとめ | 高内 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記) 90%、課題 10% | |
| 準備学習 | 前回の講義内容を復習し、講義に臨みましょう。 | |
| 事後学習 | 講義終了時に理解できなかったところは質問を行いその都度解決しておきましょう。 | |
| 教科書 | 上杉 雅之 監修: 「イラストでわかる人間発達学」 医歯薬出版 長崎 重信 監修: 「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 改訂第3版」 メジカルビュー 能登 真一・他 編: 「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第3版」 医学書院 | |
| 参考書 | 岩崎 清隆 著: 「発達障害の作業療法 基礎編 第2版」 および 同「実践編」 三輪書店 | |
| オフィスアワー | 油田 木曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス: yuda@tohaya.ac.jp 高内 水曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス: takauchi@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 典型発達の基礎知識・発育相談の臨床経験をもとに、発達の個別性を尊重する視点を育てる。 | |

| | | | |
|----------|---|--------|------------------|
| 授業科目 | 基礎作業学技術 I | 科目担当者 | 宮尾 京介・岩本 凌・後藤 一樹 |
| 学年 | 1 年 | 学期/時間数 | 前期 / 30 時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1 単位 |
| 授業の概要と方法 | 作業療法の治療的介入手段として使われる代表的な活動に対し実際に課題作製を行う。課題作製においては計画から実施までグループで協力し合って主体的に行う。課題作製を通じて、作品を完成させることがひとにどのような影響を与えるのかを体験的に学ぶ。各活動の最後には、グループで作業遂行にあたっての必要な要素を振り返り、治療的応用等について討議を行い、各自レポートにまとめる。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①代表的な活動についての手順が説明できる。 ②代表的な活動についての必要な物品を準備・管理することができる。 ③代表的な活動の指導ができる。 ④代表的な作業の作業分析ができる。 ⑤代表的な作業の治療的活用方法を挙げることができる。 ⑥工程に順じた作品を作成することができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|----|
| 第 1 回 | テーブルゲーム (演習) グループワーク | 岩本 |
| 第 2 回 | 認知作業トレーニング (演習) | 岩本 |
| 第 3 回 | スポーツ (車椅子テニス見学) | 岩本 |
| 第 4 回 | スポーツ (車椅子テニス見学) | 岩本 |
| 第 5 回 | 木工 (演習) プランニングと製図 | 宮尾 |
| 第 6 回 | 木工 (演習) 材料の選定 | 宮尾 |
| 第 7 回 | 木工 (演習) 部品の加工 | 宮尾 |
| 第 8 回 | 木工 (演習) 組み立て | 宮尾 |
| 第 9 回 | 木工 (演習) 仕上げと塗装 グループ討議・まとめ | 宮尾 |
| 第 10 回 | 作業の実際 (施設見学) | 岩本 |
| 第 11 回 | 作業の実際 (施設見学) | 岩本 |
| 第 12 回 | タイルモザイク (演習) 図案企画 | 後藤 |
| 第 13 回 | タイルモザイク (演習) タイルカット | 後藤 |
| 第 14 回 | タイルモザイク (演習) タイル貼り | 後藤 |
| 第 15 回 | タイルモザイク グループ討議・まとめ | 後藤 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 作品課題 30%、レポート 70% | |
| 準備学習 | 予習として各活動に必要な材料・道具および工程を把握する。 | |
| 事後学習 | 各授業もしくは各作業活動のまとめ (第 6. 11. 15 回) で伝える重要ポイントを復習しておいてください。 | |
| 教科書 | 浅沼 辰志 編集:「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業学第 3 版」メジカルビュー社 | |
| 参考書 | その他専門書及び文献 (適宜紹介) | |
| オフィスアワー | 宮尾 木曜日の 12:10~13:00、職員室 メールアドレス: miyao@tohaya.ac.jp 岩本 木曜日の 12:10~13:00、職員室 メールアドレス: iwamoto@tohaya.ac.jp 後藤 金曜日の 12:10~13:00、職員室 メールアドレス: k-gotou@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | 各教員が各々の専門領域 (身体障害・精神障害・高齢期障害など) での十分な臨床経験を有している。 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。 | |

| | | | |
|----------|--|--------|----------------------------|
| 授業科目 | 基礎作業学技術Ⅱ | 科目担当者 | 岩本 凌・上原 佳代 油田 あゆみ・高内 志保 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>作業療法の治療的介入手段として使われる代表的な活動に対し実際に課題作製を行う。 課題作製においては計画から実施までグループで協力し合って主体的に行う。 課題作製を通じて、作品を完成させることがひとにどのような影響を与えるのかを体験的に学ぶ。 各活動の最後には、グループで作業遂行にあたっての必要な要素を振り返り、治療的応用等について討議を行い、各自レポートにまとめる。</p> <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>①代表的な活動についての手順が説明できる。 ②代表的な活動についての必要な物品を準備・管理することができる。 ③代表的な作業の作業分析ができる。 ④代表的な作業の治療的活用を挙げることができる。 ⑤工程に順じた作品を作成することができる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|----|
| 第1回 | スポーツ（演習）特徴と応用 | 岩本 |
| 第2回 | スポーツ（演習）計画・準備 | 岩本 |
| 第3回 | スポーツ（演習）実施 | 岩本 |
| 第4回 | 縫い物（演習）基本 | 上原 |
| 第5回 | 縫い物（演習）刺し子実施 | 上原 |
| 第6回 | 縫い物（治療的応用）グループ討議・まとめ | 上原 |
| 第7回 | 絵手紙（演習） | 上原 |
| 第8回 | マクラメ（演習）特徴と工程 | 油田 |
| 第9回 | マクラメ（演習）準備 | 油田 |
| 第10回 | マクラメ（演習）実施 | 油田 |
| 第11回 | マクラメ（治療的応用）グループ討議・まとめ | 油田 |
| 第12回 | 園芸（演習）計画 | 高内 |
| 第13回 | 園芸（演習）実施 | 高内 |
| 第14回 | 塗り絵（演習）準備・実施 | 高内 |
| 第15回 | 塗り絵（演習）実施 グループ討議・まとめ | 高内 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 作品課題 30%、レポート 70% | |
| 準備学習 | 基礎作業学理論で学んだ作業分析の基礎知識の復習をしておきましょう。 | |
| 事後学習 | 各活動に必要な材料・道具および工程を把握し、作品作製を通して治療効果を理解しておきましょう。 | |
| 教科書 | 浅沼 辰志 編集：「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 作業学第3版」メジカルビュー社 | |
| 参考書 | 古川 宏 監：「作業活動実習マニュアル 第2版」医歯薬出版 | |
| オフィスアワー | 岩本 木 12：10～13：00、職員室 メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp 上原 火 12：10～13：00、職員室 メールアドレス：uehara@tohaya.ac.jp 油田 木 12：10～13：00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp 高内 水 12：10～13：00、職員室 メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。 | |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------------------------------|
| 授業科目 | 臨床見学実習 | 科目担当者 | 高内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本 凌 上原佳代 後藤一樹 |
| 学年 | 1年 | 学期/時間数 | 後期 / 45時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 医療・保健・福祉の現場で求められる様々な能力の中でも対人交流技能は、最も重要な能力と位置付けられるものである。この実習では、病院での対象者や作業療法士をはじめとする職員との交流を通して、対人援助職として必要なコミュニケーションスキルおよび基本的心得を習得する。また実習終了後には報告会で、学習した内容を報告する。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ① 医療・福祉の現場における対象者の生活を知り、考察することができる。 ② 対象者を中心とした作業療法士と各職種の業務内容と職種間の連携を学び、理解することができる。 ③ それぞれの施設における役割や機能を理解することができる。 ④ 作業療法士として必要なコミュニケーションを習得することができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|---|
| | 2023年 9月 16日(月)～9月21日(土) 5日間 病院での実習 (1日の実習時間については各病院の規定に従う) |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 実習評価、実習報告会、提出書類などを基に総合的に判断する。 |
| 準備学習 | 臨床実習指導の科目に準じて予習、復習をしておき、これまでの学習内容を理解しておく。 |
| 事後学習 | 報告会にむけた準備を行うこと |
| 教科書 | 臨床見学実習録 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 後藤 金曜日の12:10～13:00、職員室 メールアドレス:k-gotou@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 実践に即した実習のため、臨床実習指導者と連携して指導を行う。 |

| | | | |
|----------|--|--------|----------------------------------|
| 授業科目 | 対人交流技能Ⅱ | 科目担当者 | 高内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本凌 上原佳代 後藤一樹 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 15時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 医療の現場で求められる様々な能力の中でも、対人交流技能は、最も基本的な能力であり、最も重要な能力と位置付けられるものでもある。特に集団アプローチは様々な領域で活用され、作業療法士の治療的介入の一つである。対象者との良好な人間関係の構築を目的とした、対人交流・集団アプローチの基礎的な知識や活用方法を学び、講義内においてグループワークや発表、レクリエーションの実施を通して理解を深める。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①自身の対人交流技能における特徴を理解し、実践できる。 ②レクリエーションの企画・実施を通し、集団に対するアプローチを理解できる。 ③コミュニケーションを通して効果的な情報収集ができる。 ④医療現場で求められる対人交流技能について理解し、適切な情報収集ができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|----|
| 第1回 | 対人交流における自己理解について：自己紹介 | 岩本 |
| 第2回 | 対人交流における他者理解について：他己紹介 | 後藤 |
| 第3回 | 対人交流における他者理解について：他己紹介 発表 | 高内 |
| 第4回 | 集団アプローチについて：レクリエーションの企画 | 油田 |
| 第5回 | 集団アプローチについて：レクリエーションの実践 | 宮尾 |
| 第6回 | 効果的なコミュニケーションについて：情報収集 | 岩本 |
| 第7回 | 効果的なコミュニケーションについて：情報解釈 | 上原 |
| 第8回 | コミュニケーションスキルについて | 後藤 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 発表 50%、レポート 50% | |
| 準備学習 | 発表を行う内容が含まれるため、適宜練習を行うこと | |
| 事後学習 | スライドの作成や次講義までの準備に取り組むこと | |
| 教科書 | 適宜資料配布 | |
| 参考書 | | |
| オフィスアワー | 岩本 金曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | | |

| | | | |
|----------|---|--------|----------------|
| 授業科目 | 解剖学実習 | 科目担当者 | 片岡真司・高木孝輔・瀬田祐司 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 45時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 九州歯科大学解剖学実習室において人体解剖学実習を行う。筋の層構造と支配神経、胸・腹部内臓の位置関係と構造ならびに腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢と支配筋の関係、運動器に関わる関節、筋の構造を肉眼的に剖出して正確な観察、スケッチを行う。 | | |
| | 脳の構造を立体的に理解するために外景ならびに内部構造を観察、スケッチする。これらの実習を行う為に予習・復習を励行し構造の詳細な剖出と正確な観察を行うことで、人体構造について十分な理解を確実にする。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①胸部・腹部内臓の有機的な位置関係を説明することができる。 ②動静脈、神経の走行、分布を確認し、臓器との関係を説明できる。 ③筋の起始・停止を確認し、支配神経、作用について、説明できる。 ④関節の解剖を行い、その形態と機能との関係を説明できる。 人体解剖実習をととして生命の神秘、尊厳を自ら学び、倫理観の育成に努める。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1日目 | 解剖実習の目的、献体について、実習書読み合わせ (学内) |
| 第2日目 | 脳、骨、関節、筋のスケッチ (学内) |
| 第3日目 | 人のからだの区分の確認 骨学実習、心臓、肺、腹部内臓の観察、腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢の解剖 横隔膜の解剖、胸神経と肋間動静脈の解剖、交感神経幹、大・小内臓神経の確認 上肢帯の筋の解剖、上腕・前腕の前部の解剖、手掌の解剖 下肢帯の筋の解剖、大腿・下腿前部の筋、足背の筋の解剖 (九州歯科大学) |
| 第4日目 | 上肢帯の解剖、上腕・前腕の後面の解剖、手背・手背の筋の解剖 殿部の筋の解剖、大腿・下腿後面の解剖、膝窩の解剖、足底の筋の解剖 背部の筋の解剖 (九州歯科大学) |
| 第5日目 | 肩関節後面、肘関節伸側の解剖 股関節前面、膝関節後面の解剖 肩関節前面、肘関節屈側の解剖 股関節前面、膝関節前面の解剖 頭頸部の確認および総まとめ、脳実習 (九州歯科大学) |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | オンライン問題、実習態度ならびにスケッチ、レポート、感想文で評価する。 |
| 準備学習 | 毎回予習（オンライン問題を含む）をしてくること。 ご遺体は自分の死後医学の発展のために無条件、無報酬で自ら解剖を申し出られて献体された方々である。この篤志献体者の志を忘れてはならない。献体が成就できるのはご家族、病院、会社福祉関係者など多くの方々のご協力があって初めて可能なことであるのも忘れてはならない。 心得：① ご遺体に常に感謝の念をもつ。 ② ご遺体に礼を失してはならない。 ③ ご遺体のご遺志を考える。 ④ ご遺体に報いることを考える。 |
| 事後学習 | 九州歯科大学において、実習時間内に終わらなかった観察所見の記載、スケッチをしておくこと。 |
| 教科書 | 野村 嵯 編：「標準理学療法学・作業療法学専門分野解剖学第5版」医学書院 プリント配布 |
| 参考書 | 佐藤 達夫 訳：「人体解剖カラーアトラス原書第8版」南江堂 |

| | | | |
|----------|---|--------|------------|
| 授業科目 | 脳神経学 | 科目担当者 | 恩田 純・吉開 俊一 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 15時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 脳血管障害や脳腫瘍疾患群の原因、症状、病態、治療法を理解する。 CT, MRI, MRA, 脳血管撮影などの画像診断力を修得する。 救急救命医療の場での情報収集力、判断力を培う。 手術の考え方、手術法を理解する。症例を提示し、病態を議論する。 主にPCスライドと配布資料を用いた対面授業。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | 脳神経疾患の症状と病態の関連性を理解し、リハビリテーションの手法をよりよく理解できるようにする。 脳神経外科領域疾患患者の病態を理解した上で、安全かつ確実なリハビリテーション訓練を実施できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|----|
| 第1回 | 脳血流・脳血管の解剖生理と脳梗塞 | 吉開 |
| 第2回 | 脳梗塞と脳出血 | 吉開 |
| 第3回 | くも膜下出血、その他の特殊な脳血管障害、脳腫瘍 | 吉開 |
| 第4回 | 症例提示と実際の手術 | 吉開 |
| 第5回 | 中枢神経の特徴①：エネルギー代謝と虚血への脆弱性を中心に | 恩田 |
| 第6回 | 中枢神経の特徴②：脳浮腫と頭蓋内圧亢進を中心に | 恩田 |
| 第7回 | 頭部外傷総論および頭部外傷各論①（頭蓋骨骨折および急性硬膜外血腫） | 恩田 |
| 第8回 | 頭部外傷各論②（急性および慢性硬膜下血腫+その他の頭部外傷） その他の脳神経外科領域疾患（症候性てんかん・水痘症等） | 恩田 |
| 第9回 | | |
| 第10回 | | |
| 第11回 | | |
| 第12回 | | |
| 第13回 | | |
| 第14回 | | |
| 第15回 | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）100% | |
| 準備学習 | 授業予定の疾患についてテキスト、テキストのまとめ、最重要項目等の事前配布資料を熟読しておき、講義中もしくは講義後に質問も行うことで学習内容についての理解を深める。 | |
| 事後学習 | 授業後にもう一度テキストを通読し、学習内容の再確認と疑問点の洗い出しを行う。 国家試験受験を前提とした学習法を誘導。 | |
| 教科書 | 新井 一 監：「標準脳神経外科学第16版」医学書院 | |
| 参考書 | 「系統看護学講座 脳・神経」医学書院 | |
| オフィスアワー | 講義終了後、講師控室（15分間） メールアドレス：kita-reha@tohaya.ac.jp（学院窓口） | |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 精神医学Ⅱ | 科目担当者 | 外園 怜児 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 精神医学は人間の精神現象を扱い、様々な領域と関連する医学である。近年、精神疾患の重要性が再認識されており、こころや脳に関するテーマは社会の関心も高い。2013年より日本の医療計画制度は精神疾患と在宅医療を加えた「5疾病5事業および在宅医療」となった。5疾患とはがん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患であり、5事業とは救急医療、災害時における医療、へき地医療、周産期医療、小児救急医療を含む小児医療を指す。メンタルヘルスの重要性が認識されてきた中、本講義では精神疾患に関する知識を広く学び取ってもらい、加えて各種精神疾患の疫学・病態・症状及び治療等について具体的な症例も提示しながら講義を行っていく。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | 気分障害、認知症、統合失調症、神経症性障害、発達障害など各精神疾患の疫学、病態、治療、支援制度等を理解する。 精神科医療の歴史を学び、そこから見えてくる課題について考察する。 実際の臨床現場で生かすことのできる知恵を得てもらうことも目標となる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---------------------|--------------------------------------|
| 第1回 | 精神医学の紹介 | |
| 第2回 | 精神障害の概念 | |
| 第3回 | 精神疾患の診断分類 | |
| 第4回 | 統合失調症Ⅰ：疫学・病態・症状 | |
| 第5回 | 統合失調症Ⅱ：治療・予後・各種支援制度 | |
| 第6回 | 気分障害Ⅰ：うつ病 | |
| 第7回 | 気分障害Ⅱ：双極性障害、他 | |
| 第8回 | 神経症性障害 | |
| 第9回 | ストレス関連性障害 | |
| 第10回 | 器質性精神障害 | |
| 第11回 | 精神作用物質による精神障害 | |
| 第12回 | 発達障害 | |
| 第13回 | 精神科治療 | |
| 第14回 | 文化とメンタルヘルス | |
| 第15回 | まとめ | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）100% | |
| 準備学習 | | |
| 事後学習 | | |
| 教科書 | | |
| 参考書 | | |
| オフィスアワー | 講義終了後、講師控室（15分間） | メールアドレス：kita-reha@tohaya.ac.jp（学院窓口） |

| | | | |
|----------|--|--------|---------------|
| 授業科目 | 作業療法基礎演習Ⅲ | 科目担当者 | 宮尾京介・岩本凌・後藤一樹 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 /30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 作業療法士として人体の形態的特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。この科目では、1年次の「作業療法基礎演習Ⅰ・Ⅱ」で学修した内容を振り返り、グループワークを通して基本的な知識を再確認し、さらに深化させていく。同時に国家試験問題を取り上げ、その解き方や解答の解説などを通じてより深い理解を追求していく。単元ごとには小テストを実施し理解度を確認する。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ① 解剖学、生理学、運動学の基本的な知識が定着できる。 ② グループワークを通じ、他者に国家試験問題の理解および解説ができる。 ③ 学習方法を身につけることができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|--|----|
| 第1回 | 循環器系（心臓の構造と機能、心筋、刺激伝導系）の解剖と生理 | （演習） | 宮尾 |
| 第2回 | 骨の構造、関節の種類、バイオメカニクス | （演習） | 宮尾 |
| 第3回 | 上肢帯・肩関節・肘関節の構造と作用する筋 | （演習） | 宮尾 |
| 第4回 | 手部の構造と作用する筋、神経支配（上肢の筋・下肢の筋・二重神経支配） | （演習） | 宮尾 |
| 第5回 | まとめ | | 宮尾 |
| 第6回 | 消化器系（上部消化管）の解剖と生理 | （演習） | 岩本 |
| 第7回 | 消化器系（下部消化管）の解剖と生理 | （演習） | 岩本 |
| 第8回 | 中枢神経系（脊髄）の解剖と生理 | （演習） | 岩本 |
| 第9回 | 中枢神経系（大脳）の解剖と生理 | （演習） | 岩本 |
| 第10回 | まとめ | | 岩本 |
| 第11回 | 末梢神経（脳神経） | （演習） | 後藤 |
| 第12回 | 末梢神経（腕神経叢、腰神経叢） | （演習） | 後藤 |
| 第13回 | 骨格筋（構造、種類、運動単位） | （演習） | 後藤 |
| 第14回 | 感覚（皮膚の構造、体性感覚、視覚器） | （演習） | 後藤 |
| 第15回 | まとめ | | 後藤 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 小テスト100% | | |
| 準備学習 | 資料に関連する教科書を準備し熟読しておきましょう。 | | |
| 事後学習 | 単元ごとに小テストを行いそれが成績になりますので、授業ごとに復習をおこなっておきましょう。 | | |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。資料に関連する教科書を準備すること | | |
| 参考書 | | | |
| オフィスアワー | 宮尾：木曜日の12：10～13：00、職員室 岩本：金曜日の12：10～13：00、職員室 後藤：金曜日の12：10～13：00、職員室 | メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 「解剖学」「生理学」「運動学」で学んでいる内容について、演習を通して知識の定着を促す。 | | |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------------|
| 授業科目 | 作業療法基礎演習Ⅳ | 科目担当者 | 油田あゆみ・上原佳代・高内志保 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 /30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>作業療法士として人体の形態的特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。この科目では、1年次の「作業療法基礎演習Ⅰ・Ⅱ」で学修した内容を振り返り、グループワークを通して基本的な知識を再確認し、さらに深化させていく。同時に国家試験問題を取り上げ、その解き方や解答の解説などを通じてより深い理解を追求していく。単元ごとには小テストを実施し理解度を確認する。</p> <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>① 解剖学、生理学、運動学の基本的な知識が定着できる。 ② グループワークを通じ、他者に国家試験問題の理解および解説ができる。 ③ 学習方法を身につけることができる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|----|
| 第1回 | 股関節の構造と作用する筋 (演習) | 油田 |
| 第2回 | 膝関節・足関節の構造と作用する筋 (演習) | 油田 |
| 第3回 | 顔面・頭頸部・体幹の構造と作用する筋 (演習) | 油田 |
| 第4回 | 姿勢と歩行 (演習) | 油田 |
| 第5回 | まとめ | 油田 |
| 第6回 | 循環器(大動脈、脳の動脈、脳の還流域、触知部位、静脈、微小循環、リンパ系) (演習) | 上原 |
| 第7回 | 循環器(循環の生理学、頸動脈洞反射、血液) (演習) | 上原 |
| 第8回 | 呼吸器(呼吸器の構造、肺機能検査と肺気量、呼吸整理と呼吸循環調整系、酸塩基平衡) (演習) | 上原 |
| 第9回 | 呼吸器(酸素遊離曲線、呼吸運動)/生殖器 (演習) | 上原 |
| 第10回 | まとめ | 上原 |
| 第11回 | 泌尿器 (演習) | 高内 |
| 第12回 | 代謝 (演習) | 高内 |
| 第13回 | 内分泌系 (演習) | 高内 |
| 第14回 | 発生と組織 (演習) | 高内 |
| 第15回 | まとめ | 高内 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 小テスト 100% | |
| 準備学習 | 資料に関連する教科書を準備し熟読しておきましょう。 | |
| 事後学習 | 単元ごとに小テストを行いそれが成績になりますので、授業ごとに復習をおこなっておきましょう。 | |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。資料に関連する教科書を準備すること | |
| 参考書 | | |
| オフィスアワー | 油田 木曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス: yuda@tohaya.ac.jp 上原 火曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス: uehara@tohaya.ac.jp 高内 水曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス: takauchi@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 「解剖学」「生理学」「運動学」で学んでいる内容について、演習を通して知識の定着を促す。 | |

| | | | |
|----------|---|--------|----------------------------|
| 授業科目 | 臨床実習指導Ⅱ | 科目担当者 | 岩本 凌・後藤 一樹 油田 あゆみ・宮尾 京介 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 身体領域疾患として脳血管疾患を模擬事例に取り上げ、その症状に合わせた評価計画を立案する。 脳血管疾患の症状の評価結果から臨床推論を学ぶ。 脳血管疾患の症状・障害に対するICFを使用して全体像把握までの一連の流れを学ぶ。 生活行為向上マネジメントを学び、生活行為を支援する方法や内容を理解する。 文献および論文を読み、記載されている内容を理解する。 文献および論文をグループでまとめ、報告会で発表する。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①作業療法における「初期評価から問題点の焦点化まで」の一連の流れを理解できる。 ②得られた情報や作業療法評価結果を報告書に記載できる。 ③得られた情報や作業療法評価から全体像を捉えることができる。 ④生活行為を支援する作業療法の思考過程を理解できる。 ⑤文献および論文から、作業療法の目的や意義を学び理解できる。 ⑥理解した内容をまとめ、発表することができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|----------------------|-----------------|
| 第1回 | 模擬事例 | 脳血管疾患に対する臨床推論 | 回復期（事例提示） 岩本 |
| 第2回 | | 脳血管疾患に対する臨床推論 | 回復期（疾患の基礎知識） 後藤 |
| 第3回 | | 脳血管疾患に対する臨床推論 | 回復期（評価項目の列挙） 油田 |
| 第4回 | | 脳血管疾患に対する臨床推論 | 回復期（評価結果の解釈） 岩本 |
| 第5回 | | 脳血管疾患に対する臨床推論 | 回復期（ICF） 宮尾 |
| 第6回 | | 脳血管疾患に対する臨床推論 | 回復期（全体像の把握） 後藤 |
| 第7回 | 生活行為向上マネジメント | 概要 | 後藤 |
| 第8回 | 生活行為向上マネジメント | 使用方法 | 後藤 |
| 第9回 | 生活行為向上マネジメント | 実施 | 後藤 |
| 第10回 | 文献および論文抄読 | （オリエンテーション） | 岩本 |
| 第11回 | 文献および論文抄読 | （検索について） | 宮尾 |
| 第12回 | 文献および論文抄読 | （グループディスカッション①文献紹介） | 油田 |
| 第13回 | 文献および論文抄読 | （グループディスカッション②文献まとめ） | 宮尾 |
| 第14回 | 文献および論文抄読 | （グループディスカッション③発表準備） | 後藤 |
| 第15回 | 文献および論文報告会 | | 岩本 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | レポート60%、報告会40% | | |
| 準備学習 | 様々な領域において必要になる知識・技術である。関連講義の復習をしておくこと。 | | |
| 事後学習 | 必要に応じて資料を確認し復習すること。 | | |
| 教科書 | 九州作業療法士学校連絡協議会 編：「事例研究報告書作成指針（ICFモデル）2005」 日本作業療法士協会編集：「作業療法マニュアル 75 生活行為向上マネジメント改訂第4版」 | | |
| 参考書 | 必要に応じて提示する。 | | |
| オフィスアワー | 岩本 木曜日の12:10～13:00、職員室 メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 実際の対象者を想定しながら演習を行う。臨床経験をもとに指導を実施する。 | | |

| | | | |
|----------|---|--------|----------------------------------|
| 授業科目 | 臨床実習指導Ⅲ | 科目担当者 | 高内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本凌 上原佳代 後藤一樹 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 60時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 地域作業療法実習の事前学習として、「在宅支援サービス事業所（通所リハ・訪問リハ）」の概要、「地域作業療法の役割とプロセス」について理解する。実践を意識した実技演習を繰り返し、評価技術を身につける。評価技術は各小テストを実施し評価する。多職種との連携を行い、作業療法だけでなく多職種からの視点を含めた治療・指導・援助の方法を理解する。適宜レポートのフィードバックを行い、事例に関するまとめを行う。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①臨床実習に参加するための接遇・態度や記録・管理について理解できる。 ②通所リハビリテーションおよび訪問リハビリテーションの概要、作業療法士の役割を理解できる。 ③評価の意義と目的について説明できる。 ④実際の対象者を想定し、各検査測定を説明・実施できる。 ⑤多職種の特徴や役割について理解できる。 ⑥各専門職でのチーム医療について理解できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|---------------------------|
| 第1回 | 地域実習オリエンテーション、個人情報保護等 岩本 | 第16回 実習生プロフィール作成 岩本 |
| 第2回 | 介護保険制度について 宮尾 | 第17回 地域実習録の説明と作成方法 岩本 |
| 第3回 | 通所および訪問リハの概要と役割 宮尾 | 第18回 フィードバック（最終確認事項含む） 岩本 |
| 第4回 | 地域実習での学習目標と実習施設の概要 岩本 | 第19回 専門職連携事前演習（事例提示） 岩本 |
| 第5回 | 物理療法について 岩本 | 第20回 専門職連携事前演習（アセスメント） 後藤 |
| 第6回 | 作業療法評価法演習（バイタル測定） 上原 | 第21回 専門職連携事前演習（ICF） 油田 |
| 第7回 | 作業療法評価法演習（リスク管理） 上原 | 第22回 専門職連携事前演習（全体像の把握） 宮尾 |
| 第8回 | 演習まとめ（バイタル測定・リスク管理） 上原 | 第23回 専門職連携（オリエンテーション） 岩本 |
| 第9回 | 作業療法評価法演習（ROM測定） 油田 | 第24回 専門職連携（模擬カンファレンス） 後藤 |
| 第10回 | 作業療法評価法演習（MMT） 油田 | 第25回 専門職連携（各専門職の特徴） 油田 |
| 第11回 | 演習まとめ（ROM測定・MMT） 油田 | 第26回 専門職連携（各専門職の役割） 後藤 |
| 第12回 | 作業療法評価法演習（「フルストロームステージ」） 岩本 | 第27回 専門職連携（グループ発表①） 宮尾 |
| 第13回 | 演習まとめ（「フルストロームステージ」） 岩本 | 第28回 専門職連携（グループ発表②） 高内 |
| 第14回 | 作業療法評価法演習（FIM） 高内 | 第29回 特別講義：評価について 油田 |
| 第15回 | 演習まとめ（FIM） 高内 | 第30回 特別講義：実習に向けて 高内 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 小テスト50%、レポート50% | |
| 準備学習 | 様々な領域において必要になる知識・技能である。関連講義の資料を復習しておくこと。 | |
| 事後学習 | 配布資料から復習しておくこと | |
| 教科書 | 能登 真一・山口 昇 他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」医学書院 その他資料配布 | |
| 参考書 | 必要に応じて提示する。 | |
| オフィスアワー | 岩本：木曜日の12：30～13：00、職員室 メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 実際の対象者を想定しながら演習を行う。教員の臨床経験をもとに指導を実施する。 | |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 動作分析学 | 科目担当者 | 岩本 凌 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>ヒトの動きに関する、正常動作の基礎知識を学び、動作分析について理解できる。</p> <p>グループ毎に、各動作の動作分析を実施する。</p> <p>動作分析した内容をレポートにまとめ、フィードバックを受ける。</p> | | |
| | <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>①動作分析の方法（観察評価・三次元動作解析装置等）を理解できる。</p> <p>②動作分析に必要な知識・技術を身につけることができる。</p> <p>③正常動作パターンを理解し、評価することができる。</p> <p>④実際に動作分析を行い、結果の解釈ができる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | 動作分析学 総論 |
| 第2回 | 姿勢と動作の関係性 |
| 第3回 | 姿勢分析①姿勢の評価について |
| 第4回 | 姿勢分析②分析演習 |
| 第5回 | 基本動作の動作分析：寝返りについて |
| 第6回 | 基本動作の動作分析：寝返りの分析演習 |
| 第7回 | 基本動作の動作分析：起き上がりについて |
| 第8回 | 基本動作の動作分析：起き上がりの分析演習 |
| 第9回 | 基本動作の動作分析：起立について |
| 第10回 | 基本動作の動作分析：起立の分析演習 |
| 第11回 | 基本動作の動作分析：着座について |
| 第12回 | 基本動作の動作分析：着座の分析演習 |
| 第13回 | 基本動作の動作分析：歩行について |
| 第14回 | 基本動作の動作分析：歩行の分析演習 |
| 第15回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | レポート・小テスト20%、定期試験（筆記）80% |
| 準備学習 | 運動学、解剖学を基に学習していく。講義前の復習をしておくこと。 |
| 事後学習 | 配布資料の復習をしておくこと。 |
| 教科書 | 石井 慎一郎 著：「動作分析 臨床活用講座」メジカルビュー社 その他、配布資料 |
| 参考書 | 中村 隆一・斉藤 宏 著：「基礎運動学第6版」医歯薬出版 |
| オフィスアワー | 金曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 身体疾患を対象とした臨床経験から、正常から異常動作のパターンを分析できる観察力を修得できるように講義を行う。 |

| | | | |
|----------|---|--------|-------------|
| 授業科目 | 作業療法身体領域 I | 科目担当者 | 岩本 凌・油田 あゆみ |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 45時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 作業療法の身体領域における代表的疾患について、病態や障害像を理解し、リスク管理に配慮した評価から作業療法プログラムを学ぶ。各疾患の概要から作業療法実施までの一連の流れを学んだ後、グループディスカッションを行い、理解を深める。施設見学ではリハビリテーションにおける作業療法の援助の実際を知る。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①疾患ごとの障害特性について説明できる ②疾患ごとの予後について説明できる ③疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|--------|-----------------------------------|
| 第 1 回 | 身体領域に対する作業療法 岩本 | 第 16 回 | 関節リウマチの概要 油田 |
| 第 2 回 | 関節可動域/筋力/筋緊張異常の評価 岩本 | 第 17 回 | 関節リウマチの評価 油田 |
| 第 3 回 | 脳血管疾患の概要 岩本 | 第 18 回 | 関節リウマチの目標設定 油田 |
| 第 4 回 | 脳血管疾患の評価/目標設定 岩本 | 第 19 回 | 関節リウマチのプログラム 油田 |
| 第 5 回 | 脳血管障害の急性期について 岩本 | 第 20 回 | 心疾患の概要 油田 |
| 第 6 回 | 脳血管障害の回復期について 岩本 | 第 21 回 | 心疾患の評価 油田 |
| 第 7 回 | 脳血管障害の生活期について 岩本 | 第 22 回 | 心疾患の目標設定とプログラム 油田 |
| 第 8 回 | 脳血管障害の治療の実際 岩本 | 第 23 回 | まとめ 油田 |
| 第 9 回 | 脊髄損傷の概要 油田 | | |
| 第 10 回 | 脊髄損傷の評価/目標設定 油田 | | |
| 第 11 回 | 脊髄損傷の急性期でのプログラム 油田 | 講義 | 第 1 回、第 3 回～第 7 回、第 8 回～第 13 回 |
| 第 12 回 | 脊髄損傷の回復期でのプログラム 油田 | | 第 16 回～第 18 回、第 20 回～第 23 回 |
| 第 13 回 | 脊髄損傷の社会復帰期でのプログラム 油田 | 演習 | 第 2 回、第 7 回、第 10 回、第 13 回、第 14 回、 |
| 第 14 回 | 脊髄損傷者の援助の実際（施設見学） 油田 | | 第 15 回、第 18 回、第 19 回 |
| 第 15 回 | 脊髄損傷者の援助の実際（施設見学） 油田 | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）90%、課題 10% | | |
| 準備学習 | 1年生後期の作業療法評価法身体領域の内容を復習して臨みましょう | | |
| 事後学習 | 教科書や配布資料の内容を理解できるよう整理しておきましょう。 | | |
| 教科書 | 矢谷 玲子 監修：「標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版」 医学書院。 医療情報科学研究所 編：「病気がみえる〈vol. 7〉脳・神経 第2版」 メディックメディア。 医療情報科学研究所 編：「病気がみえる〈vol. 11〉運動器・整形外科 第2版」 メディックメディア。 二瓶 隆一・他 編著：「頸髄損傷のリハビリテーション 改訂第3版」 協同医書出版社 | | |
| 参考書 | 能登 真一 編：「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」 医学書院 | | |
| オフィスアワー | 岩本 金曜日の 12:10～13:00、職員室 メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp 油田 木曜日の 12:10～13:00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 臨床で担当する機会の多い各疾患の病態、評価、基本的な治療計画からアプローチまでを実践を踏まえ講義する。 | | |

| | | | |
|----------|--|--------|------------|
| 授業科目 | 作業療法身体領域Ⅱ | 科目担当者 | 宮尾 京介・岩本 凌 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 45時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | 作業療法身体領域における代表的な疾患について、病態や障害像を理解し、評価から実施までの一連の流れと治療・指導・援助、リスク管理について授業・グループディスカッションを行い、理解を深めることを目的とする。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①身体障害を中心とした疾患の病態、障害像を理解し、説明することができる。 ②身体障害を中心とした疾患のリスクを理解できる。 ③各疾患における評価方法について理解し、実施することができる。 ④各疾患の症状と生活を捉え、介入や支援方法を考え、理解できる。 ⑤喀痰の吸引を実施することができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | | | |
|------|---------------------|----|------|-------------------|----|
| 第1回 | 神経筋疾患（PD）の概要 | 宮尾 | 第16回 | 呼吸器疾患の評価およびOT | 岩本 |
| 第2回 | 神経筋疾患（PD）の評価 | 宮尾 | 第17回 | 呼吸器疾患：吸引（演習） | 岩本 |
| 第3回 | 神経筋疾患（PD）の生活障害 | 宮尾 | 第18回 | 代謝性疾患（DM）の概要 | 岩本 |
| 第4回 | 神経筋疾患（PD）の生活支援（演習） | 宮尾 | 第19回 | 代謝性疾患（DM）の評価およびOT | 岩本 |
| 第5回 | 神経筋疾患（PD）のOT | 宮尾 | 第20回 | 悪性腫瘍の概要 | 岩本 |
| 第6回 | 神経筋疾患（ALS）概要 | 宮尾 | 第21回 | 悪性腫瘍の評価 | 岩本 |
| 第7回 | 神経筋疾患（ALS）OT | 宮尾 | 第22回 | 悪性腫瘍のOT | 岩本 |
| 第8回 | 神経筋疾患（その他の疾患）概要 | 宮尾 | 第23回 | まとめ | 宮尾 |
| 第9回 | 神経筋疾患（その他の疾患）OT（演習） | 宮尾 | 第24回 | | |
| 第10回 | 骨・関節疾患の概要 | 宮尾 | 第25回 | | |
| 第11回 | 上肢骨折（代表的な骨折）概要 | 宮尾 | 第26回 | | |
| 第12回 | 上肢骨折（代表的な骨折）OT | 宮尾 | 第27回 | | |
| 第13回 | 下肢骨折（代表的な骨折）概要 | 宮尾 | 第28回 | | |
| 第14回 | 下肢骨折（代表的な骨折）OT | 宮尾 | 第29回 | | |
| 第15回 | 呼吸器疾患の概要 | 岩本 | 第30回 | | |

| | | | | |
|----------------------|---|--|--|--|
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）80%、小テスト or 課題 20% | | | |
| 準備学習 | 今まで学習してきた疾患の特性や作業療法評価や基礎作業学について復習しておきましょう。 | | | |
| 事後学習 | 各授業もしくはまとめ（第15回）で伝える重要ポイントを復習しておいてください。 | | | |
| 教科書 | 矢谷 玲子 監修：「標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版」医学書院 医療情報科学研究所 編：「病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版」メディックメディア 医療情報科学研究所 編：「病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 第2版」メディックメディア | | | |
| 参考書 | その他専門書及び文献（適宜紹介） | | | |
| オフィスアワー | 宮尾 木曜日の12：10～13：00、職員室 メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp 岩本 木曜日の12：10～13：00、職員室 メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp | | | |
| 教員の実務経験 | 各教員が各々の専門領域（身体障害、高齢期障害、地域など）で十分な臨床経験を有している。 | | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 各教員の臨床経験をもとに身体領域における作業療法の代表的な対象疾患を学習点とし、疾患の概要の理解と疾患別作業療法（評価から治療までの一連の過程）について講義する。 | | | |

| | | | |
|----------|---|--------|------------|
| 授業科目 | 作業療法発達領域 I | 科目担当者 | 高内 志保 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 30 時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2 単位 |
| 授業の概要と方法 | 作業療法の対象となる代表的発達障害領域における、作業療法アプローチの基礎を学ぶ。 また、それらを生活障害の視点からとらえ、こどもの生活を支援する作業療法士の基本的視点を学ぶ。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | 発達各領域における作業療法の概要を理解できる。 子ども生活の場を具体的に理解できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第 1 回 | 発達障害に対する作業療法概論 |
| 第 2 回 | 感覚統合機能と評価 |
| 第 3 回 | 感覚統合機能に対するアプローチ |
| 第 4 回 | 発達障害の特徴と介入のポイント |
| 第 5 回 | 姿勢・運動発達とその背景 |
| 第 6 回 | 姿勢と移動の援助：痙直型脳性麻痺 |
| 第 7 回 | 姿勢と移動の援助：アテトーゼ型脳性麻痺・重症心身障害 |
| 第 8 回 | 姿勢と移動の援助：訓練用具の使い方 |
| 第 9 回 | 進行性筋ジストロフィー |
| 第 10 回 | 知的障害 |
| 第 11 回 | 摂食嚥下障害 |
| 第 12 回 | 二分脊椎 |
| 第 13 回 | てんかん |
| 第 14 回 | 特別支援教育 |
| 第 15 回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記） 90% レポート課題 10% |
| 準備学習 | 教科書を読んできましょう。そうすることで講義への関心が高まります。 |
| 事後学習 | 配布プリントは毎回、ファイルにきちんととじていくようにしましょう。 |
| 教科書 | 長崎 重信 監修：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学改訂第 3 版」メジカルビュー社 |
| 参考書 | 岩崎 清隆 著：「発達障害の作業療法 基礎編第 2 版」三輪書店 岩崎 清隆 著：「発達障害の作業療法 実践編第 2 版」三輪書店 |
| オフィスアワー | 水曜日の 12：10～13：00、職員室 メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 知的障害者施設等での臨床経験をもとに発達期の生活障害を支援する視点を伝える。 |

| | | | |
|----------|---|--------|----------------------|
| 授業科目 | 作業療法発達領域Ⅱ | 科目担当者 | 岩下 範子・曾根川達司 林 いずみ |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期/30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 発達に障害を持つ対象者の特性、評価法、作業療法について講義、演習を行う。 スライド、VTR等を使用して症例の評価、価値どう分析を行う。評価結果に基づいてアセスメントし治療目標を設定する。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | 1) 代表的な小児疾患について、それぞれの発達や機能の特性が理解できる。 2) 代表的な小児の疾患について、必要な評価を学ぶ。 3) 代表的な小児の疾患委について、状態像の分析、治療計画の立案を学ぶ。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|------------|
| 第1回 | 発達障害の作業療法評価 | 担当 (曾根川達司) |
| 第2回 | 脳性麻痺児の作業療法評価 (基礎) | 担当 (曾根川達司) |
| 第3回 | 脳性麻痺児の作業療法評価 (応用) | 担当 (曾根川達司) |
| 第4回 | 脳性麻痺児の作業療法 (基礎) | 担当 (曾根川達司) |
| 第5回 | 脳性麻痺児の作業療法 (応用) | 担当 (曾根川達司) |
| 第6回 | 脳性麻痺児の作業療法 (実践) | 担当 (曾根川達司) |
| 第7回 | 重症心身障害児の作業療法 / 摂食障害の作業療法 | 担当 (岩下範子) |
| 第8回 | 知的障害の作業療法 | 担当 (岩下範子) |
| 第9回 | 小児疾患の作業療法 (二分脊椎症等) | 担当 (岩下範子) |
| 第10回 | 小児疾患の作業療法 (神経・筋疾患等) | 担当 (岩下範子) |
| 第11回 | 発達障害児の評価 (基礎) | 担当 (林いずみ) |
| 第12回 | 発達障害児の評価 (応用) | 担当 (林いずみ) |
| 第13回 | 発達障害児の作業療法 (課題分析、治療目標の設定) | 担当 (林いずみ) |
| 第14回 | 発達障害児の作業療法 (実践) | 担当 (林いずみ) |
| 第15回 | 発達障害児の治療の実際 (発達性読み書き障害等) | 担当 (岩下範子) |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記) 80%、小テスト・レポート 20% | |
| 準備学習 | 授業の予定に基づいて、教科書等を使った予習の実施 | |
| 事後学習 | 授業後の各自記録や配布資料による復習の実施 | |
| 教科書 | 長崎 重信 監修:「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学改訂第3版」メジカルビュー社 | |
| 参考書 | 1年時使用テキスト 能登真一 他 著:「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第4版」医学書院 | |
| オフィスアワー | 講義終了後 講師控室 メールアドレス:kita-reha@tohaya.ac.jp (学院窓口) | |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 作業療法高齢期領域Ⅱ | 科目担当者 | 高内 志保 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>認知症高齢者と認知症に対する作業療法の役割を理解する。 認知症高齢者に対する評価の目的と方法を学習する。 グループで事例検討を行い、認知症高齢者に対する作業療法の実際を理解する。 施設見学では、認知症高齢者への関わり方を学び、日常生活活動の観察評価、知的機能評価を実践する。</p> <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>①認知症の症状を説明できる。 ②認知症のタイプと特徴を説明できる。 ③認知症をもつ高齢者に対する作業療法を説明できる。 ④各評価の目的と方法について説明できる。 ⑤認知症高齢者の日常生活活動の観察評価、知的機能評価を実施し、評価の解釈ができる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | 高齢社会と認知症 |
| 第2回 | 認知症の定義と分類 |
| 第3回 | 認知症の症状 |
| 第4回 | 認知症のタイプと特徴 (Alzheimer型認知症、脳血管性認知症) |
| 第5回 | 認知症のタイプと特徴 (Lewy小体型認知症、前頭側頭型認知症) |
| 第6回 | 認知症の評価 (テスト法) |
| 第7回 | 認知症の評価 (観察法) |
| 第8回 | 認知症の評価 (その他の評価尺度) |
| 第9回 | 認知症の作業療法 プレゼンテーション |
| 第10回 | 認知症の作業療法 プレゼンテーション |
| 第11回 | 事例検討 グループワーク |
| 第12回 | 事例検討 グループワーク |
| 第13回 | 施設見学 |
| 第14回 | 施設見学 |
| 第15回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 課題・提出物 30%、定期試験 (筆記) 70% |
| 準備学習 | 教科書を読み、分からない言葉の意味を調べる。 |
| 事後学習 | 授業内容を復習して次の授業に参加してください。 |
| 教科書 | 小川 敬之・他 編：「認知症の作業療法第2版ソーシャルインクルージョンをめざして」医歯薬出版 大塚 俊男・本間 昭 監：「高齢者のための知的機能検査の手引き」ワールドプランニング |
| 参考書 | 能登 真一・他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第3版」医学書院 |
| オフィスアワー | 水曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 高齢者をとりまく背景や高齢者の心身の特性、認知症の理解と支援といった高齢者領域での作業療法を実践するための知識や技術を講義する。 |

| | | | |
|----------|--|--------|----------------------|
| 授業科目 | 作業療法治療学演習 I | 科目担当者 | 上原 佳代・岩本 凌 油田 あゆみ |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 解剖学や生理学などの専門基礎科目、概論や各種評価学、治療学などの専門科目といった、既に学習してきた内容に関して、作業療法の適用に必要な基本知識を復習する。また、国試ベースで求められる内容の知識を学習する。グループワークを交えて問題演習に取り組む。 適宜小テストを実施し、知識の定着を図る。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ① 既に学習してきた内容に関して、作業療法の適用に必要な基本知識を整理し、理解できる。 ② 国試ベースで求められる内容の知識を理解できる ③ 学んだ知識を活用して、基本的な作業療法の適用を理解できる。 ④ 問題演習に関して、知識を基に考えることができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|----|
| 第 1 回 | 運動機能の基礎的評価法 (ROM 測定、MMT など) に関する演習 | 上原 |
| 第 2 回 | 摂食嚥下機能とその障害に関する演習 | 上原 |
| 第 3 回 | 高次脳機能とその障害に関する演習 | 上原 |
| 第 4 回 | 義肢装具学に関する演習 | 上原 |
| 第 5 回 | 第 1 回～第 4 回 まとめ | 上原 |
| 第 6 回 | 脳血管疾患の評価と治療 | 岩本 |
| 第 7 回 | 呼吸器疾患の評価と治療 | 岩本 |
| 第 8 回 | がん、代謝性疾患の評価と治療 | 岩本 |
| 第 9 回 | 医療統計、研究法 | 岩本 |
| 第 10 回 | 第 6 回～第 9 回 まとめ | 岩本 |
| 第 11 回 | 関節リウマチの評価と治療 | 油田 |
| 第 12 回 | 脊髄損傷の評価 | 油田 |
| 第 13 回 | 脊髄損傷の治療 | 油田 |
| 第 14 回 | 循環器疾患の評価と治療 | 油田 |
| 第 15 回 | 第 11 回～第 14 回 まとめ | 油田 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 小テスト 100% | |
| 準備学習 | 該当する科目の内容について、目を通しておきましょう。課題を提示された場合は講義までにしておきましょう。 | |
| 事後学習 | 小テストを複数回実施します。演習内容をしっかり復習しておきましょう。 | |
| 教科書 | 各範囲に該当する科目で使用した教科書 (随時提示します) | |
| 参考書 | 随時紹介 | |
| オフィスアワー | 上原 火曜日の 12:10～13:00、職員室 メールアドレス: uehara@tohaya.ac.jp 岩本 金曜日の 12:10～13:00、職員室 メールアドレス: iwamoto@tohaya.ac.jp 油田 木曜日の 12:10～13:00、職員室 メールアドレス: yuda@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 国家試験を解くのに必要な知識の整理と理解を促します。 | |

| | | | |
|----------|--|--------|----------------------|
| 授業科目 | 作業療法治療学演習Ⅱ | 科目担当者 | 宮尾 京介・高内 志保 後藤 一樹 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 解剖学や生理学などの専門基礎科目、概論や各種評価学、治療学などの専門科目といった、既に学習してきた内容に関して、作業療法の適用に必要な基本知識を復習する。また、国試ベースで求められる内容の知識を学習する。グループワークを交えて問題演習に取り組む。 適宜小テストを実施し、知識の定着を図る。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ① 既に学習してきた内容に関して、作業療法の適用に必要な基本知識を整理し、理解できる。 ② 国試ベースで求められる内容の知識を理解できる ③ 学んだ知識を活用して、基本的な作業療法の適用を理解できる。 ④ 問題演習に関して、知識を基に考えることができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|----|
| 第1回 | 骨関節障害の評価と治療 (演習) | 宮尾 |
| 第2回 | パーキンソン病と神経筋疾患の評価と治療 (演習) | 宮尾 |
| 第3回 | 職業倫理および職場管理 (演習) | 宮尾 |
| 第4回 | 地域作業療法：介護保険制度と介護保険サービス (演習) | 宮尾 |
| 第5回 | 第1回～第4回 まとめ | 宮尾 |
| 第6回 | OTの基本：歴史、OTPT法、地域支援等 (演習) | 高内 |
| 第7回 | ICF、ADL・IADL・背景因子の評価 (演習) | 高内 |
| 第8回 | 認知症の評価と治療 (演習) | 高内 |
| 第9回 | 発達障害の特徴と対応 (演習) | 高内 |
| 第10回 | 第6回～第9回 まとめ | 高内 |
| 第11回 | 作業療法の理論 (演習) | 後藤 |
| 第12回 | 精神心理障害：統合失調症 (演習) | 後藤 |
| 第13回 | 精神心理障害：物質依存 (演習) | 後藤 |
| 第14回 | 精神心理障害：パーソナリティ障害 (演習) | 後藤 |
| 第15回 | 第11回～第14回 まとめ | 後藤 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 小テスト100% | |
| 準備学習 | 該当する科目の内容について、目を通しておきましょう。課題を提示された場合は講義までにしておきましょう。 | |
| 事後学習 | 小テストを3回実施します。演習内容をしっかり復習しておきましょう。 | |
| 教科書 | 各範囲に該当する科目で使用した教科書 (提示する) | |
| 参考書 | 随時紹介する | |
| オフィスアワー | 宮尾 木曜日の12:10～13:00、職員室 メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp 高内 水曜日の12:10～13:00、職員室 メールアドレス：takauti@tohaya.ac.jp 後藤 金曜日の12:10～13:00、職員室 メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 国家試験を解くのに必要な知識の整理と理解を促します。 | |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 義肢装具学演習 | 科目担当者 | 上原 佳代 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>スプリントの作成について、評価、作成、チェックアウトまでを演習する。 義肢装具士による義手のチェックアウト及び操作方法を演習する。 作業療法士の視点から手の外科（ハンドセラピー）の評価及び装具療法について演習する。</p> | | |
| | <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>①装具作成の手順を理解し、作成からチェックアウトまでを実施できる。 ②義手のチェックアウトができる。 ③ハンドセラピーにおける評価を実施できる。 ④解剖学・運動学の基礎知識を基に作業療法士の視点でハンドセラピーの基本を理解できる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | スプリントの製作 講義・演習 |
| 第2回 | スプリントの製作 型紙作成（トレースの練習） |
| 第3回 | スプリントの製作 型紙作成 |
| 第4回 | スプリントの製作 スプリント材の裁断 |
| 第5回 | スプリントの製作 モールディング |
| 第6回 | スプリントの製作 修正、仮合わせ |
| 第7回 | スプリントのチェックアウト |
| 第8回 | 義手の操作演習 |
| 第9回 | 義手のチェックアウト 講義 |
| 第10回 | 義手のチェックアウト 演習 |
| 第11回 | 義手のチェックアウト まとめ |
| 第12回 | ハンドセラピーと装具療法 講義 |
| 第13回 | ハンドセラピーと装具療法 評価演習 |
| 第14回 | ハンドセラピーと装具療法の実際 |
| 第15回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）80%、実技（スプリント製作）20% |
| 準備学習 | 授業の進行に合わせて、前期「義肢装具学」の内容を復習しましょう。 |
| 事後学習 | 解剖・運動学・整形外科学等の基礎知識との関連を意識して、理解していきましょう。 |
| 教科書 | 長崎 重信 監修：「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 義肢装具学」メジカルビュー社 中田 真由美・大山 峰生 著：「作業療法士のためのハンドセラピー入門第2版」三輪書店 |
| 参考書 | 高橋 邦泰・芳賀 信彦 編：「整形外科テキスト 第5版」南江堂 |
| オフィスアワー | 火曜日の12:30～13:00、職員室 メールアドレス：uehara@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 講師の臨床経験をもとに、義肢装具の適応・構造だけでなく、作業療法士が行う義肢装具のある日常生活支援を講義する。 |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------------|
| 授業科目 | 基礎作業学技術Ⅲ | 科目担当者 | 高内志保 油田あゆみ 後藤一樹 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 前期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>「ブラバン」、「陶芸」、「国家試験に出題される作業活動」を実施する。</p> <p>「国家試験に出題される作業活動」では活動内容の選択及び計画・準備から実施までを、グループで主体的に行う課題作製を通じて、作品を完成させることがひとにどのような影響を与えるのかを体験的に学ぶ。</p> <p>各活動の最後には、包括的作業分析を行い、治療的応用についてグループで討議を行い、各自レポートを作成する。</p> <p>施設見学では、対象者の心身機能に合わせた作業の利用のしかた（適応・修正）を学ぶ。</p> | | |
| | <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>①作業療法の治療的介入手段として使用される作業活動について、その基本的な準備や手順について説明できる。</p> <p>②①に伴う計画、実施、また作業分析ができる。</p> <p>③具体的な指導方法、応用方法を挙げるができる。</p> <p>④疾患との関連、治療手段としての活用方法を表現することができる。</p> <p>⑤工程に順じた作品を作成することができる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|---|----|
| 第1回 | ブラバン（演習）図案企画 | 後藤 |
| 第2回 | ブラバン（演習）実施 | 後藤 |
| 第3回 | 作業活動（演習）計画 | 高内 |
| 第4回 | 作業活動（演習）実施 | 高内 |
| 第5回 | 施設見学（指定障害者支援施設） | 高内 |
| 第6回 | 陶芸（演習）活動の特性 | 油田 |
| 第7回 | 陶芸（演習）作業工程 | 油田 |
| 第8回 | 陶芸（演習）練り | 油田 |
| 第9回 | 陶芸（演習）電動ろくろ | 油田 |
| 第10回 | 陶芸（演習）玉作り・ひも作り | 油田 |
| 第11回 | 陶芸（演習）たたら作り | 油田 |
| 第12回 | 陶芸（演習）素焼き | 油田 |
| 第13回 | 陶芸（演習）釉掛け | 油田 |
| 第14回 | 陶芸（演習）本焼き | 油田 |
| 第15回 | まとめ | 油田 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 作品課題 20%、レポート 20%、定期試験（筆記） 60%、 | |
| 準備学習 | 基礎作業学理論で学んだ作業分析の基礎知識の復習をしておきましょう。 | |
| 事後学習 | 各活動に必要な材料・道具および工程を把握し、作品作製を通して治療効果を理解しておきましょう。 | |
| 教科書 | 浅沼 辰志 編集：「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学第3版」メジカルビュー社 | |
| 参考書 | 古川 宏 監：「作業活動実習マニュアル 第2版」医歯薬出版 | |
| オフィスアワー | 高内 水曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp 油田 木曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp 後藤 金曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。 | |

| | | | |
|----------|--|--------|-------------|
| 授業科目 | 基礎作業学技術Ⅳ | 科目担当者 | 高内 志保・上原 佳代 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>機織、革細工、IADL 活動を実施する。</p> <p>機織・革細工の課題作製を通じて、作品を完成させることがひとにどのような影響を与えるのかを体験的に学ぶ。</p> <p>各活動の最後には包括的作業分析を行い、治療的応用についてはグループで討議を行い、各自レポートを作成する。</p> <p>IADL 活動については授業の中で詳しく提示する。</p> | | |
| | <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <p>①作業療法の治療的介入手段として使用される作業活動について、その基本的な準備や手順について説明できる。</p> <p>②①に伴う計画、実施、また作業分析ができる。</p> <p>③具体的な指導方法、応用方法を挙げることができる。</p> <p>④疾患との関連、治療手段としての活用方法を表現することができる。</p> <p>⑤工程に順じた作品を作成することができる。</p> | | |

| 授業計画 | 内 容 | |
|----------------------|--|----|
| 第 1 回 | 機織 (演習) 整経 | 高内 |
| 第 2 回 | 機織 (演習) 機上げ | 高内 |
| 第 3 回 | 機織 (演習) 織る | 高内 |
| 第 4 回 | 機織 (演習) 仕上げ | 高内 |
| 第 5 回 | 機織 (演習) 作業分析 グループ討議・まとめ | 高内 |
| 第 6 回 | 革細工 オリエンテーション | 上原 |
| 第 7 回 | 革細工 (演習) カービング技法でコースターを作る | 上原 |
| 第 8 回 | 革細工 (演習) カービング技法でコースターを作る | 上原 |
| 第 9 回 | 革細工 (演習) 金具をつけて小物を作る | 上原 |
| 第 10 回 | 革細工 (演習) 金具をつけて小物を作る | 上原 |
| 第 11 回 | 革細工 (演習) 作業分析 グループ討議 | 上原 |
| 第 12 回 | IADL 活動 (演習) 計画 | 上原 |
| 第 13 回 | IADL 活動 (演習) 実施 | 上原 |
| 第 14 回 | IADL 活動 グループ発表 | 上原 |
| 第 15 回 | まとめ | 上原 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験 (筆記) 60%、レポート 20%、作品課題 20% | |
| 準備学習 | 基礎作業学理論で学んだ作業分析の基礎知識の復習をしておきましょう。 | |
| 事後学習 | 各活動に必要な材料・道具および工程を把握し、作品作製を通して治療効果を理解しておきましょう。 | |
| 教科書 | 浅沼 辰志 編集：「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 作業学第3版」メジカルビュー社 | |
| 参考書 | 古川 宏 監：「作業活動実習マニュアル 第2版」医歯薬出版 | |
| オフィスアワー | 高内 水曜日の 12:10~13:00、職員室 メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp 上原 火曜日の 12:10~13:00、職員室 メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。 | |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------|
| 授業科目 | 職業関連活動 | 科目担当者 | 後藤 一樹 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 15時間 |
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 職業の意義と職業リハビリテーションの実践について理解する。グループワークを通して作業療法における就労支援の実際について学び、就労支援での作業療法士の役割および機能について理解することができる。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ① 人が働くことの意義を理解できる。 ② 障害者雇用における社旗資源と精度を理解できる。 ③ 職業リハビリテーションにおける関係機関との連携のあり方を理解できる。 ④ 職業リハビリテーションに必要な評価について理解できる。 ⑤ 事例を通して就労支援における作業療法士の役割および機能について理解できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|---|
| 第1回 | ひとと職業：働く意味、障害者と職業 |
| 第2回 | 障害者の就労を支える法制度：障害者雇用促進法、障害者総合支援法 |
| 第3回 | 働くことへの作業療法士の関わり |
| 第4回 | 職業評価 |
| 第5回 | 障害別就労支援の実際① 課題提示 |
| 第6回 | 障害別就労支援の実際② グループワーク |
| 第7回 | 障害別就労支援の実際③ グループ発表 |
| 第8回 | 障害者就業・生活支援センターの障害者雇用支援について/まとめ |
| 第9回 | |
| 第10回 | |
| 第11回 | |
| 第12回 | |
| 第13回 | |
| 第14回 | |
| 第15回 | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 課題 30%、定期試験（筆記） 70% |
| 準備学習 | 講義前に教科書の学習範囲を熟読しておくこと |
| 事後学習 | 講義資料は講義回ごとにファイルにとじ、インデックスをつける等の工夫をすることで、講義の資料が後からでも把握できるように整理してください。授業後に講義資料および参考書を用いて復習してください。 |
| 教科書 | 中村俊彦・他 編著：「就労支援の作業療法 -基礎から臨床実践まで-」医歯薬出版株式会社 能登 真一・他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第3版」医学書院 |
| 参考書 | 日本作業療法士協会 監修：「作業療法学全書 改訂第3版 第12巻 職業関連活動」協同医書出版社 |
| オフィスアワー | 金曜日の12：10～13：00、職員室 メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 作業療法士として勤務経験を基に実践に即した講義を行う。 |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------|
| 授業科目 | 生活環境学 | 科目担当者 | 油田 あゆみ |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 30時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 作業療法士として専門的な視点で、対象者を取り巻く生活環境をどのように捉えるのか、どのように考えるのかを学ぶ。さらに、対象者の自立支援にあたって重要な位置づけになっている福祉用具と住環境整備に関する基礎的な知識と実践を学ぶ。授業は、生活環境学の概要や基本的な知識に関しては座学にて行い、福祉用具などは知識を深めるためにグループワークにて課題に沿って実際に体験し実践を身につける。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①福祉用具供給システムについて説明できる。 ②福祉用具のアセスメントについて説明できる。 ③主たる福祉用具について体験し、適用や選定ができる。 ④福祉用具種別に応じた支援の実際について説明できる。 ⑤住宅改修に基礎技術について説明できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 第1回 | 福祉用具の定義と範囲 |
| 第2回 | 福祉用具の供給制度 |
| 第3回 | 福祉用具の導入、選定手順、アセスメント |
| 第4回 | 福祉用具（演習：起居・床上動作関連） |
| 第5回 | 福祉用具（演習：移乗関連） |
| 第6回 | 福祉用具（演習：リフト、トランスファーボード、トランスファーシートの使用方法） |
| 第7回 | 福祉用具（演習：移動関連） |
| 第8回 | 福祉用具（演習：杖・車椅子の計測と使用方法） |
| 第9回 | 福祉用具（演習：食事・整容・更衣関連） |
| 第10回 | 福祉用具（演習：排泄・入浴関連） |
| 第11回 | 福祉用具（演習：コミュニケーション関連） |
| 第12回 | 福祉用具の疾患別適応 |
| 第13回 | 住環境整備に関連する制度と基本的事項 |
| 第14回 | 住環境整備（疾患別ADL） |
| 第15回 | まとめ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 定期試験（筆記）90%、課題10% |
| 準備学習 | 今まで学んだリハビリテーションに関連する制度や疾患に関する知識を復習しておきましょう。 |
| 事後学習 | 講義終了時に理解できなかったところは質問を行いその都度解決しておきましょう。 |
| 教科書 | 伊藤 利之・他 編：「新版日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－第2版」医歯薬出版 山中 武彦・他 編：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 福祉用具学 第2版」メジカルビュー社 医療情報科学研究所 編集：「公衆衛生がみえる 2024-2025」メディックメディア |
| 参考書 | 佐伯 覚 編：「義肢装具学」医学書院 |
| オフィスアワー | 木曜日の12:10～13:00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 日常生活活動一つ一つの活動に対し、福祉用具との適応を必要な動作と関連付けながら考える講義を行う。 実際に福祉用具に触れ、また多くの福祉用具の情報を得る場とする。 |

| | | | |
|----------|---|--------|----------------------------------|
| 授業科目 | 地域作業療法実習 | 科目担当者 | 高内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本凌 上原佳代 後藤一樹 |
| 学年 | 2年 | 学期/時間数 | 後期 / 45時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 授業の概要と方法 | 通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの現場を、見学を通して経験することで対象者の状態や地域での生活支援を把握するとともに、対象者や施設・医療スタッフに対して適切な態度で接すること、診療チームの一員としての作業療法士の役割について学ぶ。学内演習の作業療法評価学や作業療法治療学において得られた知識を、実際の現場で見学し、臨床実習に繋げ、問題解決能力を養うものである。実習終了後には報告会を行い、実習での成果を報告する。 | | |
| | アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①対象者とのコミュニケーションを経験する ②スタンダードプリコーションが実施できる ③チェックリストに記載している項目の見学ができる ④多職種連携（チーム連携）の見学若しくは経験をする ⑤作業療法計画の立案過程を見学し、臨床思考を養うことができる ⑥実施記録の意義や書類管理の重要性を理解する | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| | 11月11日（月）～16日（土）のうち5日間を実習期間とする。 行橋・北九州・田川・中津近郊の介護老人保健施設または医療機関の通所リハビリテーション、 訪問リハビリテーションにて実施する。 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 実習評価、実習報告会、提出書類の結果を総合的に判断する。 |
| 準備学習 | 臨床実習指導の科目に準じて予習、復習をしておくこと |
| 事後学習 | 報告会にむけた準備を行うこと |
| 教科書 | 地域作業療法実習録 その他、必要に応じて提示 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 岩本 金曜日の12:10～13:00、職員室 メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 実践に即した実習のため、臨床実習指導者と連携して指導を行う。 |

| | | | |
|----------|---|--------|-----------------------------------|
| 授業科目 | 作業療法総合演習 | 科目担当者 | 高内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本 凌 上原佳代 後藤一樹 |
| 学年 | 3年 | 学期/時間数 | 後期 / 90時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 3単位 |
| 授業の概要と方法 | 今まで学んできた知識を整理し、国家試験問題の解説ができるように、グループ学習を行う。また、グループ担当教員と連携をとり、学修状況を共有する。 | | |
| | 実力テストや模擬試験などの筆記試験を実施し、学習の理解度や苦手な点を明らかにし、国家試験合格を目指す。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ①専門基礎科目の知識を理解し、説明できる。 ②専門科目の知識を理解し、説明できる。 ③作業療法士として必要な知識を身につける。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | | | |
|----------------------|--|------|-------------|------|------------|
| 第1回 | 国家試験対策講座 | 第16回 | 運動学 姿勢・歩行 | 第31回 | 精神・心理障害のOT |
| 第2回 | オリエンテーション | 第17回 | 運動学 運動学習 | 第32回 | まとめ④ |
| 第3回 | 解剖生理学 循環・呼吸 | 第18回 | 人間発達学 | 第33回 | 高次脳機能障害のOT |
| 第4回 | 解剖生理学 消化・泌尿器 | 第19回 | 病理学 | 第34回 | 骨関節障害のOT |
| 第5回 | 解剖生理学 生殖器・代謝 | 第20回 | 内部障害 | 第35回 | 中枢神経障害のOT |
| 第6回 | 解剖生理学 内分泌・体温 | 第21回 | まとめ② | 第36回 | 神経筋障害のOT |
| 第7回 | 解剖生理学 中枢神経 | 第22回 | 骨関節障害と臨床医学 | 第37回 | 運動・発達障害のOT |
| 第8回 | 解剖生理学 末梢神経 | 第23回 | 中枢神経障害と臨床医学 | 第38回 | 内部障害のOT |
| 第9回 | 解剖生理学 骨格筋・感覚 | 第24回 | 末梢神経・筋障害 | 第39回 | その他障害のOT |
| 第10回 | 解剖生理学 体表解剖 | 第25回 | 老年期・小児の障害 | 第40回 | まとめ⑤ |
| 第11回 | まとめ① | 第26回 | リハ医学・リハ概論 | 第41回 | 基礎作業療法学 |
| 第12回 | 運動学 骨・関節 | 第27回 | まとめ③ | 第42回 | 作業療法管理学 |
| 第13回 | 運動学 上肢 | 第28回 | 臨床心理学 | 第43回 | 義肢・装具学 |
| 第14回 | 運動学 下肢 | 第29回 | 精神障害と臨床医学 | 第44回 | 作業療法評価学 |
| 第15回 | 運動学 頸部・顔面・体幹 | 第30回 | 作業療法治療学の基礎 | 第45回 | まとめ⑥ |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 実力テスト・模擬試験（筆記）100% | | | | |
| 準備学習 | 国家試験対策スケジュールを確認し、翌日の学習範囲について予習する。 | | | | |
| 事後学習 | 学内での学習内容を復習する（自宅課題あり） | | | | |
| 教科書 | 医歯薬出版編：「理学療法士・作業療法士国家試験必須ポイント専門基礎分野 基礎医学」、「臨床医学」、「基礎OT」、「障害別OT治療学」医歯薬出版 医療情報科学研究所編：「クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 共通問題」、「専門問題」メディックメディア | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| オフィスアワー | 宮尾 木曜日の12:10~12:45、職員室 メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp | | | | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | | | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 国家試験合格に必要な基礎科目ならびに専門科目に関する知識と技能をこれまでの講義を総括しながら学修する。 | | | | |

| | | | |
|----------|--|--------|-----------------------------------|
| 授業科目 | 臨床実習指導Ⅳ | 科目担当者 | 高内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本 凌 上原佳代 後藤一樹 |
| 学年 | 3年 | 学期/時間数 | 前期 / 60時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 2単位 |
| 授業の概要と方法 | ① 評価実習および総合臨床実習前後のオリエンテーション、事前学習を行う。 ② 実習経験をレジュメにまとめ、実習終了後に報告会を実施する。 ③ 実習経験の集大成として、総合臨床実習終了後にポスター発表を行う。 ④ ①～③について、教員が各学生を担当し、指導する。 | | |
| | アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他() | | |
| 到達目標 | ① 臨床実習に必要な心構えを学び、臨床実習に向けた準備ができる。 ② 臨床実習の事前学習として、各領域で必要となる基礎知識と技能を修得する。 ③ 評価実習・総合臨床実習の経験を報告することができる。 ④ 発表テーマに沿った先行研究・参考文献等を探し、根拠に基づく作業療法を意識したポスター発表ができる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 | | |
|----------------------|--|--------|------------------------|
| 第 1 回 | 評価実習 オリエンテーション | 第 16 回 | 総合臨床実習 2 事前学習 (評価技能) |
| 第 2 回 | 評価実習 事前学習 (疾患の特徴) | 第 17 回 | 総合臨床実習 2 事前学習 (疾患別 OT) |
| 第 3 回 | 評価実習 事前学習 (評価技能) | 第 18 回 | ポスター発表 オリエンテーション |
| 第 4 回 | 評価実習 報告会準備 | 第 19 回 | ポスター発表 抄録作成 |
| 第 5 回 | 評価実習 報告会 | 第 20 回 | ポスター発表 抄録作成 |
| 第 6 回 | 評価実習 報告会 | 第 21 回 | ポスター発表 抄録作成 |
| 第 7 回 | 総合臨床実習 1 オリエンテーション | 第 22 回 | ポスター発表 抄録作成 |
| 第 8 回 | 総合臨床実習 1 事前学習 (疾患の特徴) | 第 23 回 | ポスター発表 抄録作成 |
| 第 9 回 | 総合臨床実習 1 事前学習 (評価技能) | 第 24 回 | ポスター発表 ポスター作成 |
| 第 10 回 | 総合臨床実習 1 事前学習 (疾患別 OT) | 第 25 回 | ポスター発表 ポスター作成 |
| 第 11 回 | 総合臨床実習 1 報告会準備 | 第 26 回 | ポスター発表 ポスター作成 |
| 第 12 回 | 総合臨床実習 1 報告会 | 第 27 回 | ポスター発表 ポスター作成 |
| 第 13 回 | 総合臨床実習 1 報告会 | 第 28 回 | ポスター発表 発表準備 |
| 第 14 回 | 総合臨床実習 2 オリエンテーション | 第 29 回 | ポスター発表 発表会 |
| 第 15 回 | 総合臨床実習 2 事前学習 (疾患の特徴) | 第 30 回 | ポスター発表 発表会 |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 実習報告会 60%、ポスター発表会 40% | | |
| 準備学習 | 報告会・ポスター発表では抄録フォーマットやポスター発表の作成要領を確認してください。 | | |
| 事後学習 | 報告会やポスター発表会時にアドバイスや指摘を受けた内容について、振り返りを行いましょう。 | | |
| 教科書 | 臨床実習録 (【第 1 回 評価実習 オリエンテーション】時に配布) ポスター発表 作成要領およびアウトライン (【第 19 回 ポスター発表 オリエンテーション】時に配布) | | |
| 参考書 | | | |
| オフィスアワー | 宮尾 木曜日の 12:10~12:45、職員室 メールアドレス: miyao@tohaya.ac.jp | | |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 | | |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 各教員の専門領域における知識と経験をもとに、臨床実習に必要な知識・技能の修得に向けた学修支援を行う。 また、報告会やポスター発表会では抄録作成の方法や文献検索などを教授する。 | | |

| | | | |
|----------|--|--------|----------------------------------|
| 授業科目 | 臨床実習 | 科目担当者 | 高内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本凌 上原佳代 後藤一樹 |
| 学年 | 3年 | 学期/時間数 | 前期 / 900時間 |
| 授業形態 | <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 | 単位数 | 20単位 |
| 授業の概要と方法 | <p>作業療法士に必要な基本的態度、技術、知識を修得し、合わせて医療従事者としての豊かな人格を育成する。</p> <p>医療提供施設の他、介護保険施設、老人福祉施設、身体障害者福祉施設、児童福祉施設、指定障害福祉サービス事業所、指定障害者支援施設等において、臨床実習指導者の指導のもと実施する。</p> <p>積極的に治療および作業療法介入場面を見学・模倣・実施し、作業療法の臨床思考過程を学ぶ。</p> <p>また、臨床実習前後にはOSCEや臨床技能試験を行い、技術と知識の修得度を評価する。</p> <p>更には、作臨床実践の過程をレジュメとして報告する。</p> | | |
| | <p>アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p> | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士となるために必要な技術（評価・治療）、知識を修得し、合わせて医療従事者としての基本的態度を身につける。 ・チームの一員として多職種連携の必要性を説明できる。 ・評価実習では、作業療法評価が見学・模倣を経て、指導者の監視下で実施できるようになり、全体像の把握・目標設定・作業療法プログラムの立案ができる。 ・総合臨床実習では、作業療法プログラムの見学・模倣を経て、指導者の監視下で実施できる。 | | |

| 授業計画 | 内 容 |
|----------------------|--|
| | <p>臨床実習（OSCE/臨床技能試験） 令和6年4月5日（金）</p> <p>評価実習 令和6年4月8日（月）～5月4日（土）4週間（180時間）</p> <p>総合臨床実習1期 令和6年5月13日（月）～7月6日（土）8週間（360時間）</p> <p>総合臨床実習2期 令和6年7月15日（月）～9月7日（土）8週間（360時間）</p> <p>臨床実習後（OSCE/臨床技能試験） 令和6年9月9日（金）</p> |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | 実習前後のOSCE、実習前後の臨床技能試験、実習評価の結果から総合的に評価する。 |
| 準備学習 | 実習施設の概要や対象となる疾患、領域における主要となる評価など、学内での学習内容をもとに各実習で事前学習に取り組みましょう。また、事前学習した資料は実習中に確認できるように整理しましょう。 |
| 事後学習 | 実習終了後、感想や報告書（レジュメ）の作成、学内教員とのフィードバックなどを通じて、実習で成長・習得できた事、または課題となった事を振り返りましょう。 |
| 教科書 | 臨床実習録 1年次、2年次までの全ての科目で用いた教科書 |
| 参考書 | 1年次、2年次までの全ての科目で用いた参考書・配布資料 |
| オフィスアワー | 宮尾 木曜日の12:10～12:45、職員室 メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp |
| 教員の実務経験 | 作業療法士 |
| 実務経験を活かした 教育内容 | 各教員の専門領域における知識と経験をもとに、臨床実習に必要な知識・技能の修得に向けた学修支援を行う。また、臨床実習では臨床実習指導者と共に各担当教員が連携し、作業療法士に必要な基本的態度・技能・知識の修得を支援する。 |

